

平成 26 年度「おおいた協働のまちづくり」に関する実態調査

「NPO 活動の支援について」調査結果報告書

調査：おおいたボランティア・NPO センター

分析・考察：大分大学高等教育開発センター 岡田正彦 准教授

発行：大分県消費生活・男女共同参画プラザ 県民活動支援室

目次

1. 調査の概要	2
(1) 調査目的	2
(2) 調査の概要	2
(3) 調査項目	2
2. 調査結果	3
(1) 支援の内容について	3
1) 団体が困っていること	3
2) 協働・連携について	20
3) 情報の収集・発信について	28
4) 資金や場所、物品、人材育成について	34
5) おおいたボランティア・NPOセンターについて	38
(2) めじろん共創応援基金について	44
(3) 地域課題について	48
(4) 基礎項目について	50
3. まとめ	55
4. 資料	57
(1) 調査票	57
(2) 調査結果集計	61

1. 調査の概要

(1) 調査目的

県内の NPO 法人やボランティア団体の活動の現状を明らかにし、その中でどのような支援が必要とされているかを明らかにすることにより、今後の NPO 支援方策を検討するための基礎資料とする。

(2) 調査の概要

①調査期間 2014年6月6日～7月9日

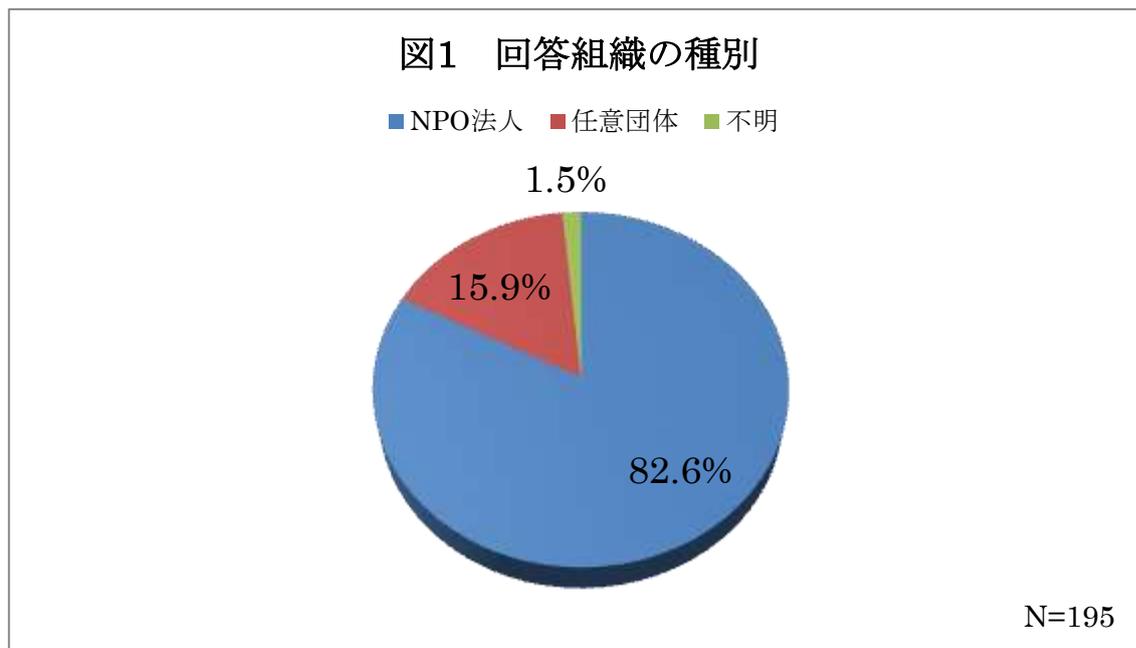
②調査対象 大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課県民活動支援室で情報を把握している大分県内の NPO 法人および任意団体（悉皆調査）
NPO 法人 494 団体 任意団体 172 団体（計 666 団体）

③調査方法 質問紙法

送付については郵送またはメールによる送付、回収についてはメールまたは FAX を利用、直接持ち込みも受付

④有効回収数 195（有効回収率 29.3%）

NPO 法人分 161（有効回収率 32.6%） 任意団体分 31（有効回収率 18.0%）
不明 3



2. 調査結果

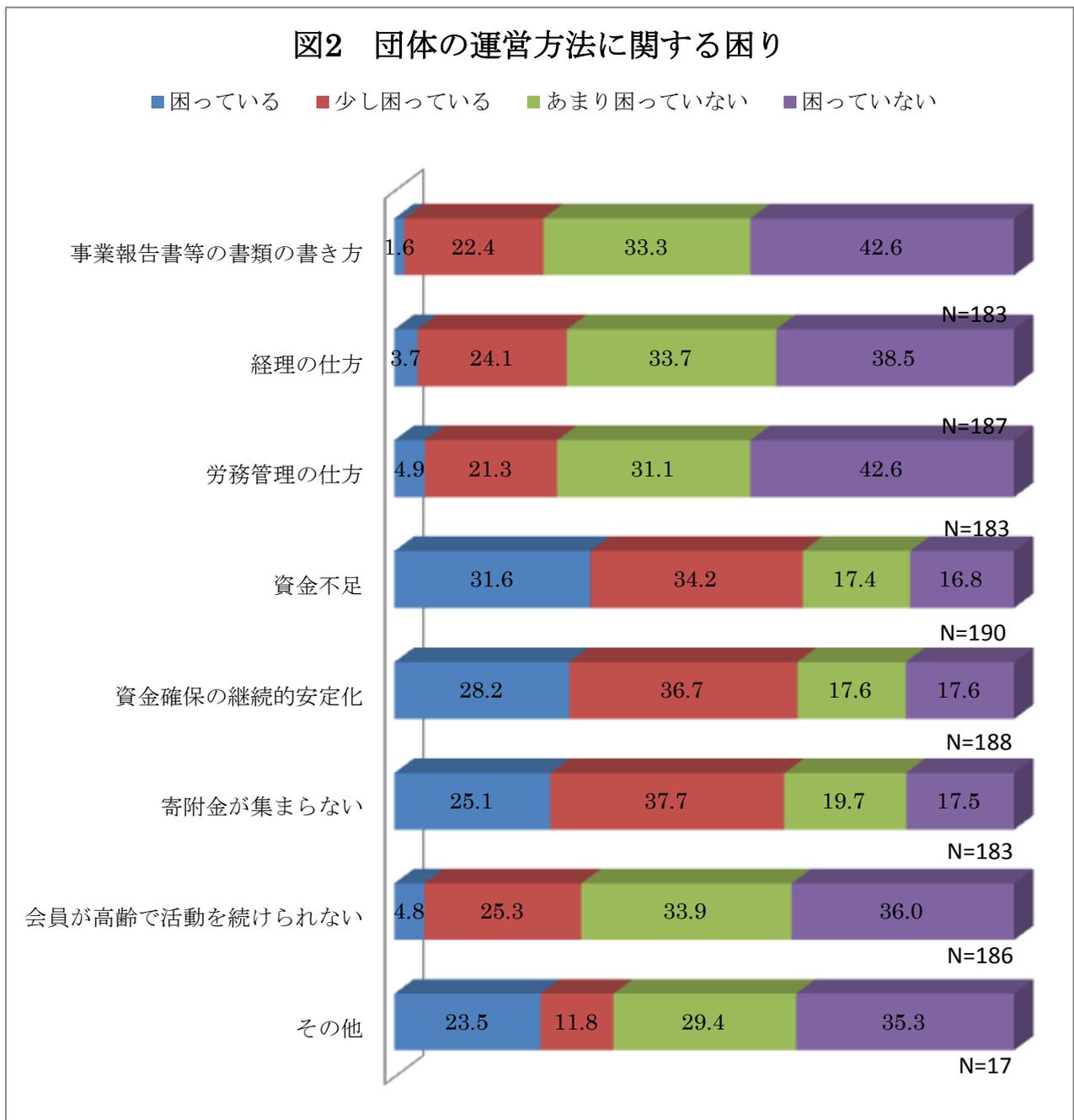
(1) 支援の内容について

1) 団体が困っていること

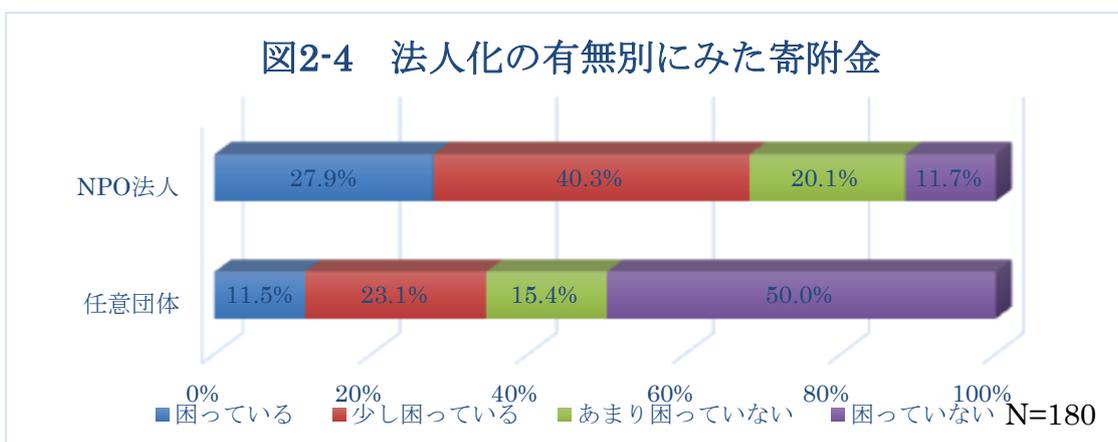
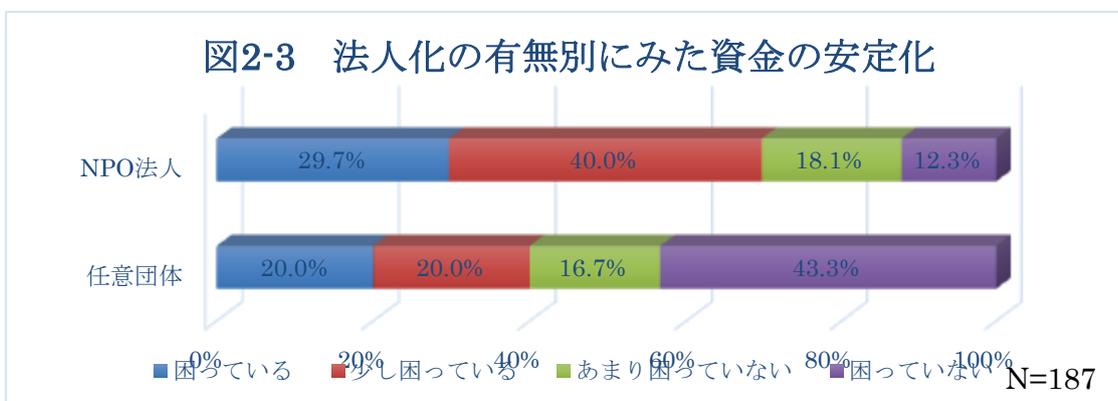
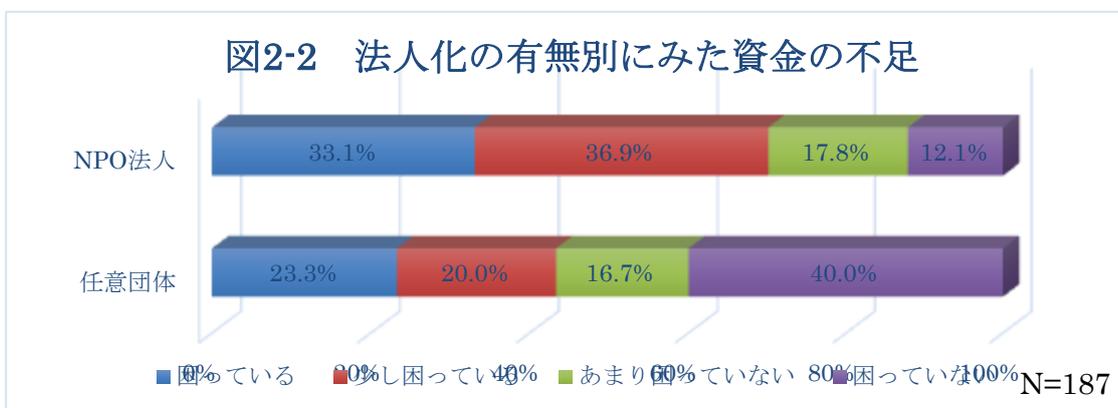
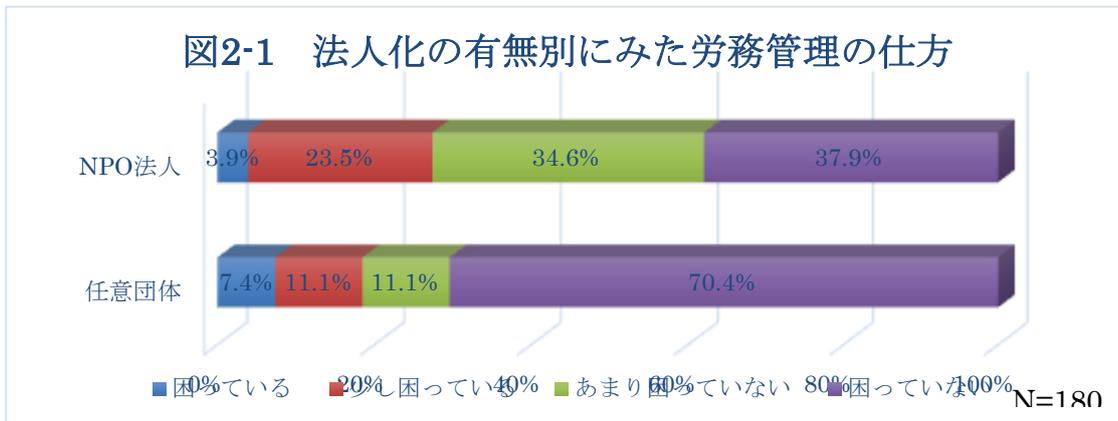
①団体の運営方法について

NPO（本報告書では、NPO 法人と任意団体をあわせて NPO と表記。以下同様）が困っている内容について、まず、団体の運営方法に関する困り事を見てみると（図 2）、「資金不足」、「資金確保の継続的安定化」、「寄附金が集まらない」の 3 項目が特に困っている率が高く、困っているという回答（「困っている」と「少し困っている」を合わせる）が約 6 割に達している。活動資金を安定的に確保することが重要な課題と捉えられている。

その他の項目では、困っているという回答は 3 割前後であり、全体的には困っている団体は多くない。

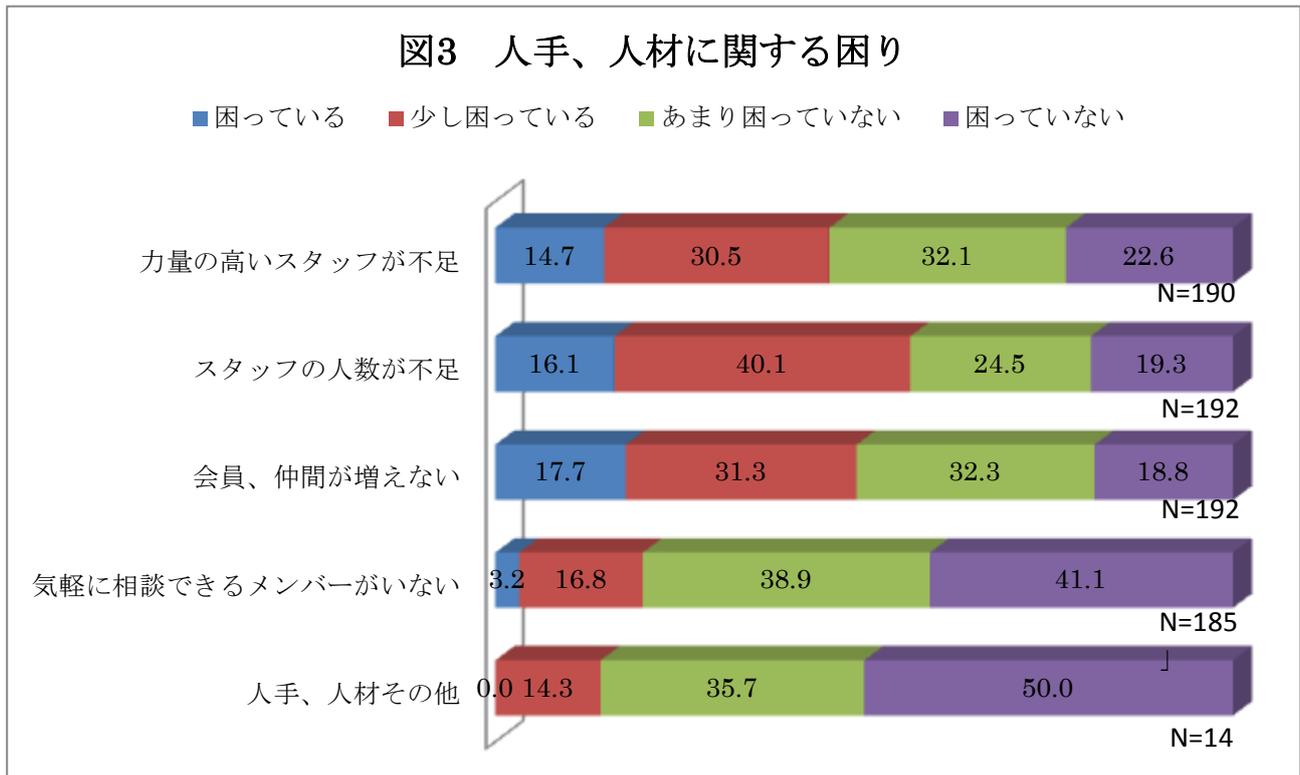


法人化の有無別にみても、4つの項目で有意差が認められた。「労務管理の仕方」、「資金の不足」、「資金の安定化」、「寄附金」の4項目である（図2-1～2-4）。どの項目でもNPO法人の方が困っているという回答が多く、NPO法人においては組織や取り組みの規模が大きくなり、労務管理や資金調達などが問題になってきていることがうかがえる。

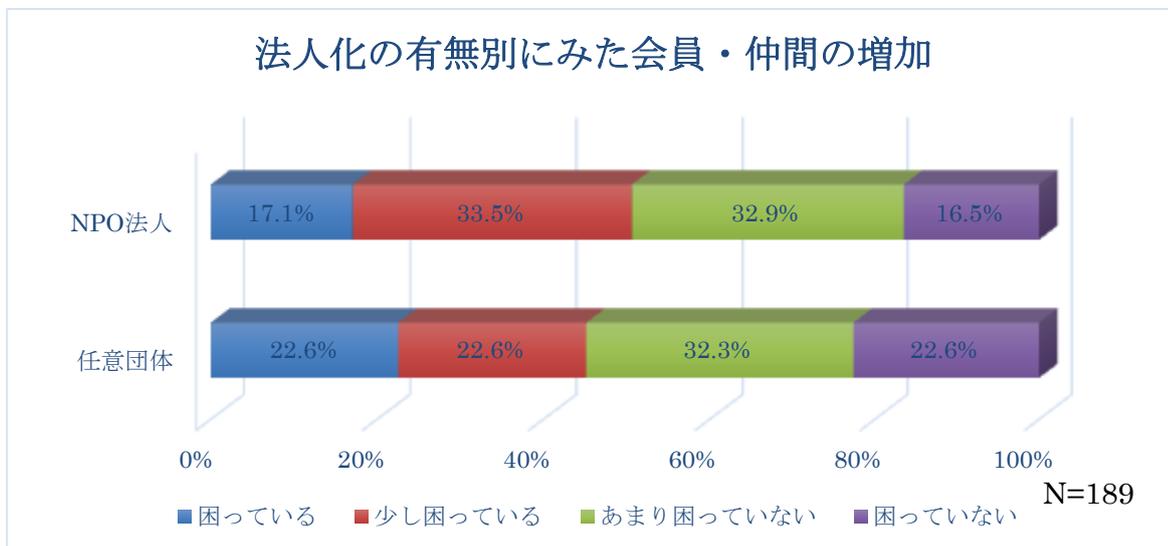


②人手、人材について

人手、人材についての困り事を見てみると、図3のようになる。もっとも多かったのが「スタッフの人数が不足」で困っているという回答が6割近くを占めている。続いて「会員、仲間が増えない」や「力量の高いスタッフが不足」などでも困っているという回答が5割前後を占めている。質の面でも量の面でもスタッフの確保というのは重要な課題であり、その基礎となる会員や仲間の確保もある程度課題になっていると捉えられる。これに対し、メンバーの中での相談相手はあまりニーズが高くないようである。

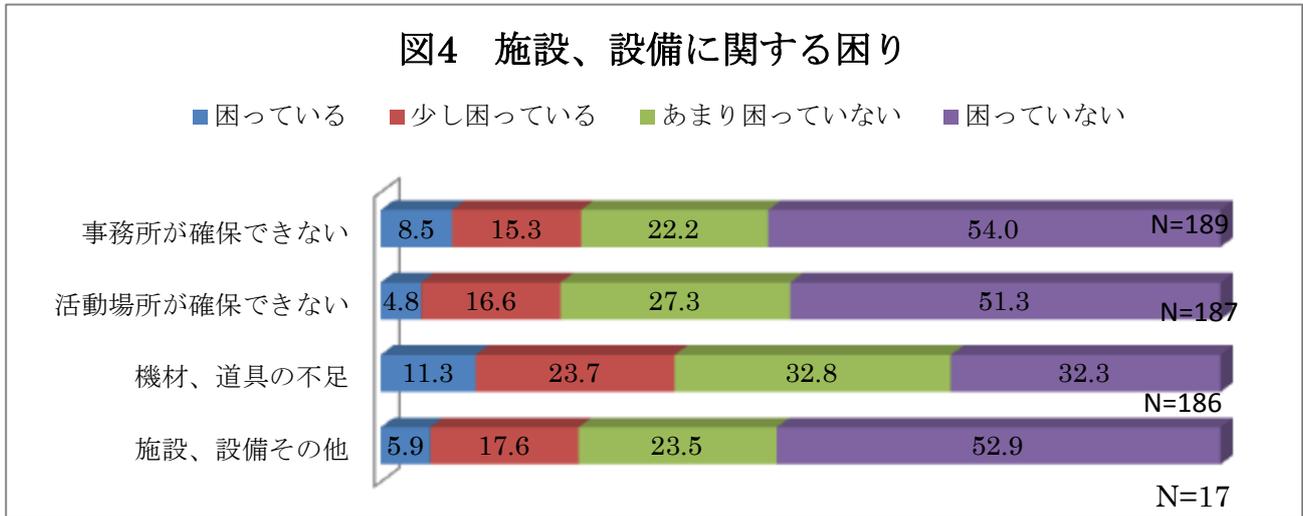


法人化の有無別にみても、「会員、仲間が増えない」の1項目で差異が認められた。「困っている」は任意団体の方が多く、「少し困っている」はNPO法人の方が多い。両者を合計した困っているの方の回答はNPO法人の方がやや多い。

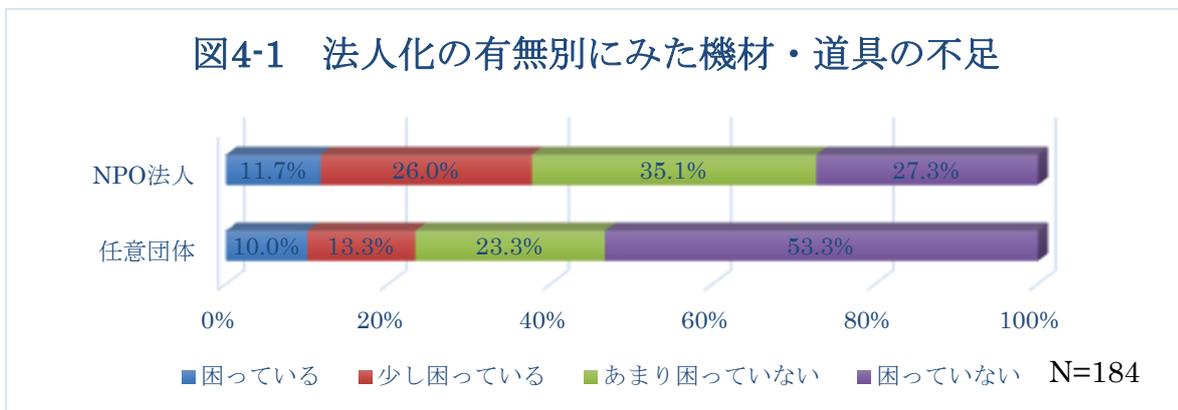


③施設、設備について

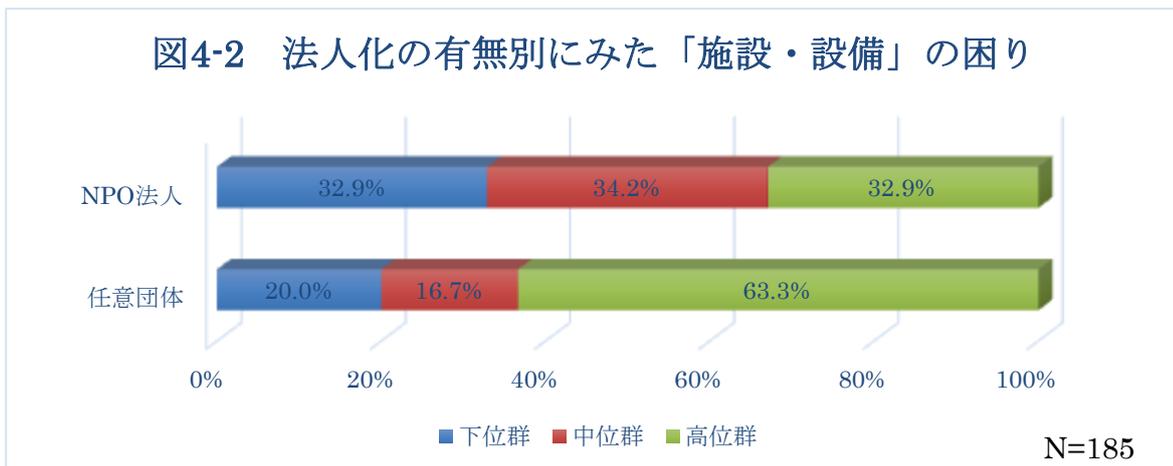
施設、設備に関する困りでは、「機材、道具の不足」で困っているという回答が合わせて 35.0%とやや高くなっている（図 4）。活動場所そのものよりも機材や道具などでの困り事がやや多い。その他の項目では、困っているという回答が合わせて 2 割程度である。全体的に、施設、設備については困っている程度は低いと考えられる。



法人化の有無別にみると、「機材・道具の不足」と「施設・設備」領域全体の困りの度合い（3グループに分けたもの）に有意差が認められた。どちらも NPO 法人の方が困っているという方向の回答が多い。

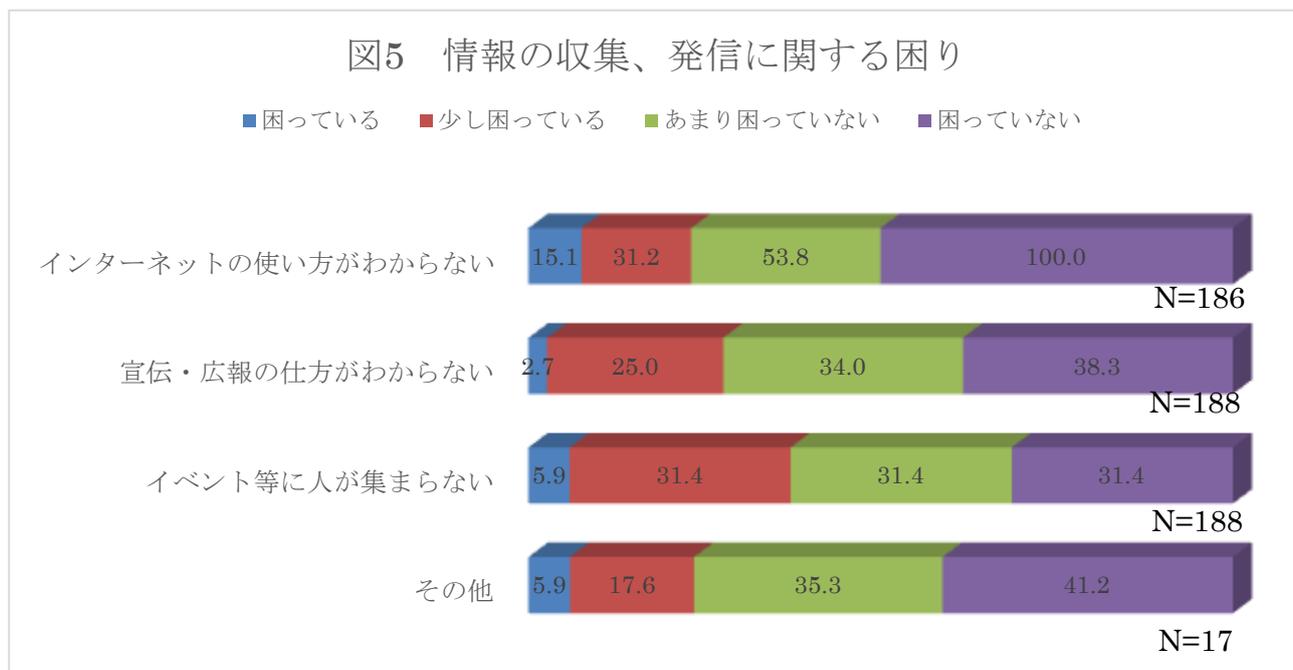


「施設・設備」領域の全体的傾向を見るために困り事の度合いを合計得点を算出することで3グループに分けた。法人化の有無別にみると NPO 法人の方が下位群、中位群が多く、施設・設備に関する困り事が多いことが分かる。



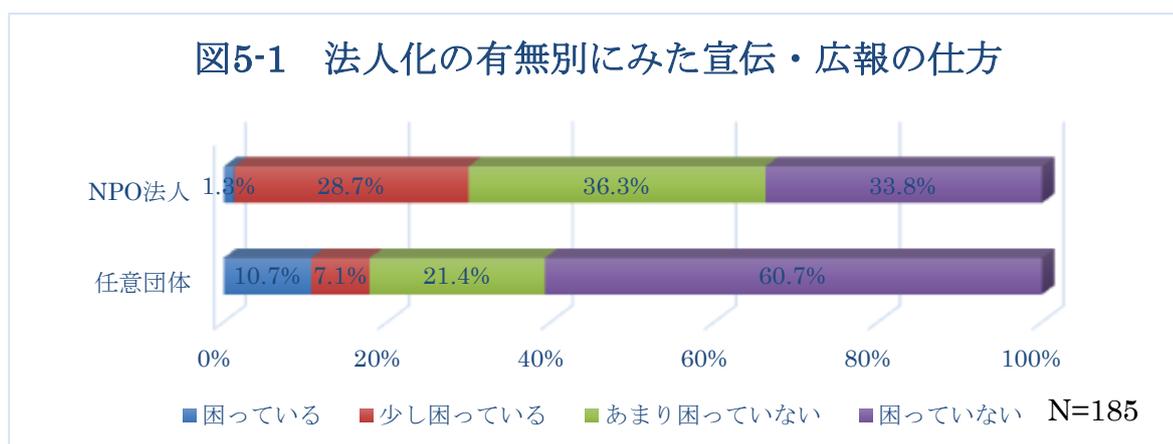
④情報の収集、発信について

情報の収集、発信については、図5のような結果を得た。情報の収集、発信については困っているという回答は相対的に多くない。相対的に困っているという回答が多かったのは「イベント等に人が集まらない」で4割弱の団体が困っていると回答している。「インターネットの使い方がわからない」や「宣伝・広報の仕方がわからない」など基礎的な事柄についてもまだ十分な知識や技術が身につけていない団体があることを考えると、このような基礎的な部分からの支援も引き続き行う必要があるかも知れない。



法人化の有無別の分析では、「宣伝・広報の仕方がわからない」の1項目が異なる傾向を見せた。任意団体では「困っていない」という回答が66.7%と約3分の2を占めるのに対し、NPO法人では「少し困っている」という回答が28.7%と任意団体の4倍ほど回答されている。他方、「困っている」という回答は任意団体の方が多い。

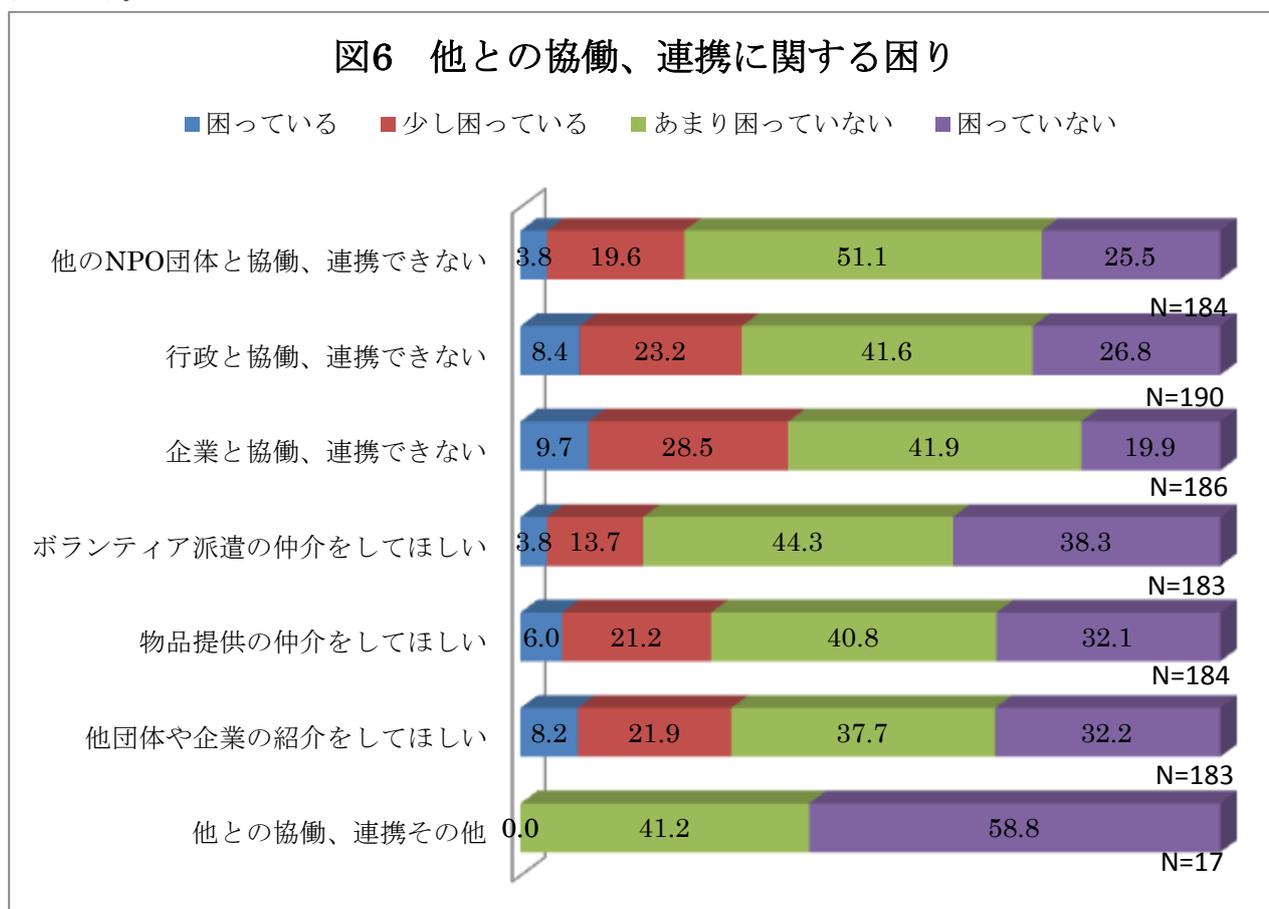
これまでの調査結果から、宣伝・広報についてはNPO法人の方が積極的に行っている傾向が認められ、このことから類推すれば、NPO法人においては実際に宣伝・広報を展開する中で「少し困っている」あるいは「あまり困っていない」というケースが多いのに対し、任意団体においては宣伝・広報をあまり行っていないため「困っていない」団体も多い一方で行おうとすると「困っている」という団体も多いという傾向ではないかと考えられる。



⑤他との協働・連携について

他との協働、連携についてまとめると図6のようになる。ここでも、困っているという回答は相対的に多くない。協働・連携に関してしてみると、「企業と協働、連携できない」が行政や他のNPO団体との協働・連携に比べ多く回答されている。ある程度協働、連携の蓄積ができつつあるNPO団体間の協働・連携、行政との協働・連携に比べ、企業との協働・連携についてはまだこれから協働・連携を進めるための方法論や社会的理解を開発していくべき段階にあるといえる。

ボランティア派遣や物品提供に関する仲介、他団体や企業の紹介についても、困っているという回答は多くなかったが、これが取り組みの実績が少ないために困っていないのか、多くの取り組みの蓄積により問題が解決されているのかと考えると、おそらくまだこのような取り組み自体があまり多くないため、今回の結果になっていると推測できる。その意味では、今後、このあたりの支援が必要になる可能性はある。



法人化の有無別にみると、「行政と協働・連携できない」、「企業と協働・連携できない」、「物品提供の仲介をしてほしい」、「他団体や企業の紹介をしてほしい」の4項目で有意差が認められ、この領域の合計得点による3グループについても有意差が認められた。

どの分析においても、NPO法人の方が困っている傾向が強い。協働・連携についてはこれまでの調査結果の中でNPO法人の方が積極的に行っている傾向があり、このことから考えるとNPO法人は実際に協働・連携を進める中で様々な課題や困難により具体的に直面しているととらえることができる。行政に加え企業とも協働・連携関係を構築すること、そのために物品提供の仲介や他団体・企業の紹介を行うなどの支援方を一層講じる必要がある。あわせて、NPO法人を中心に支援方を展開しつつ、任意団体における協働・連携のニーズや取り組み事例に関しても把握し推進する必要がある。

図6-1 法人化の有無別にみた行政との協働・連携

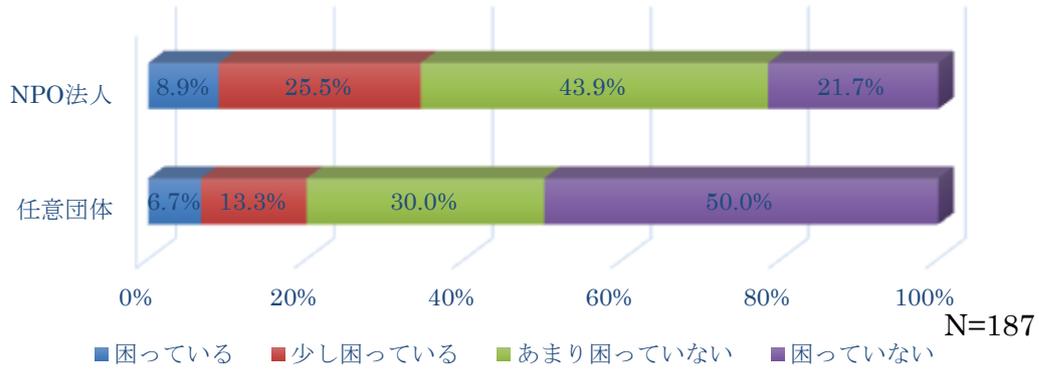


図6-2 法人化の有無別にみた企業との協働・連携

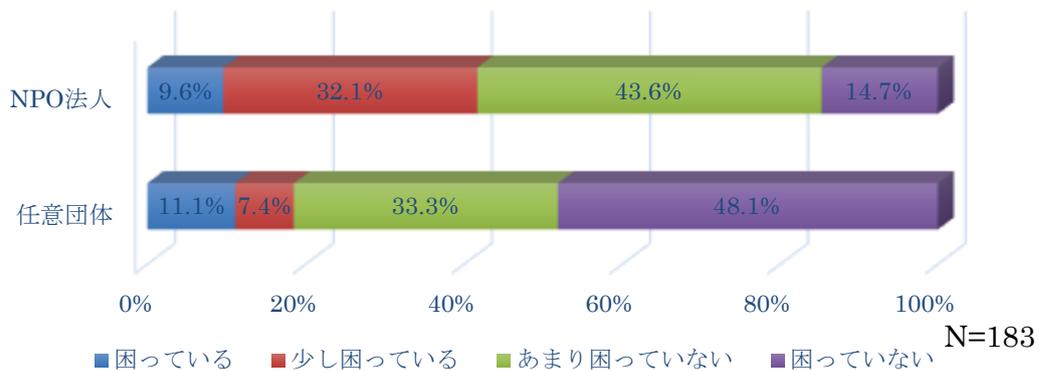


図6-3 法人化の有無別にみた物品提供の仲介

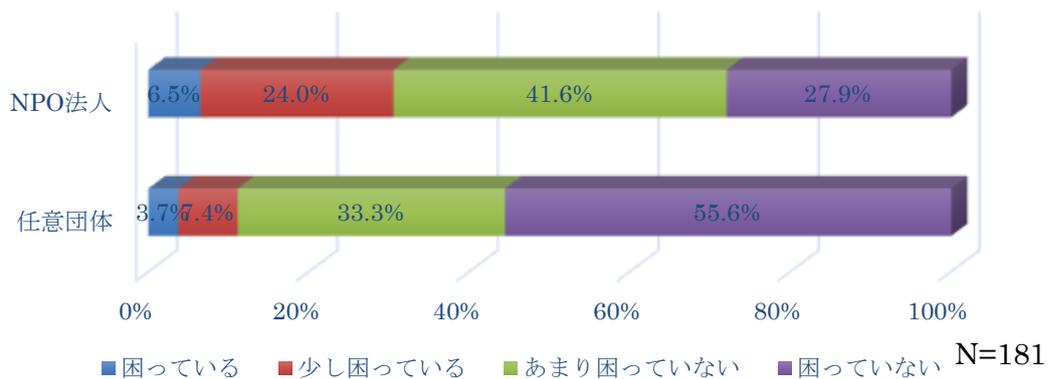


図6-4 法人化の有無別にみた他団体や企業の紹介

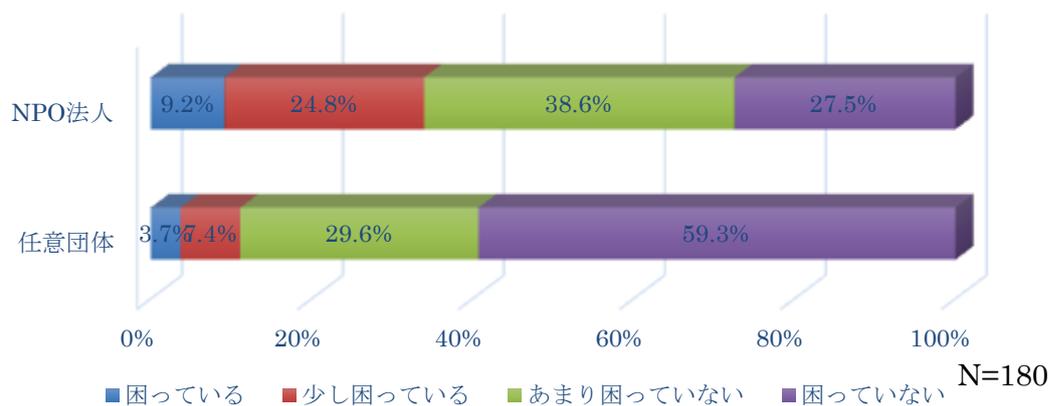
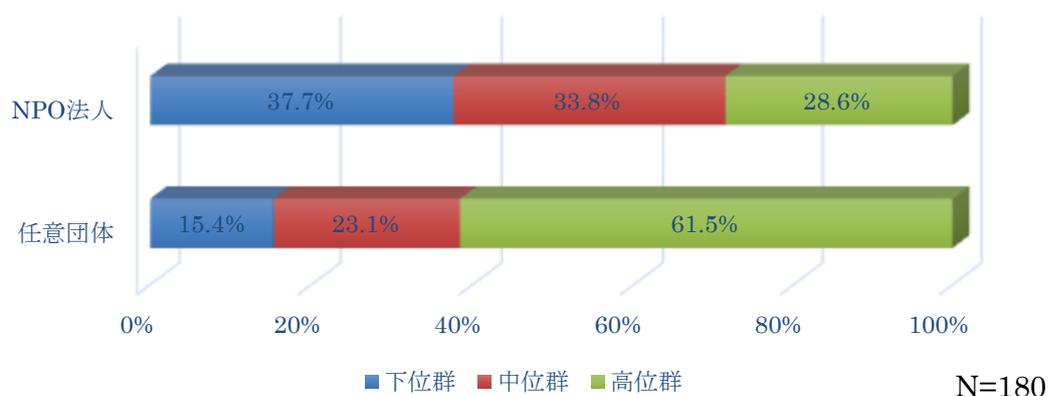


図6-5 法人化の有無別にみた「協働・連携」の困り

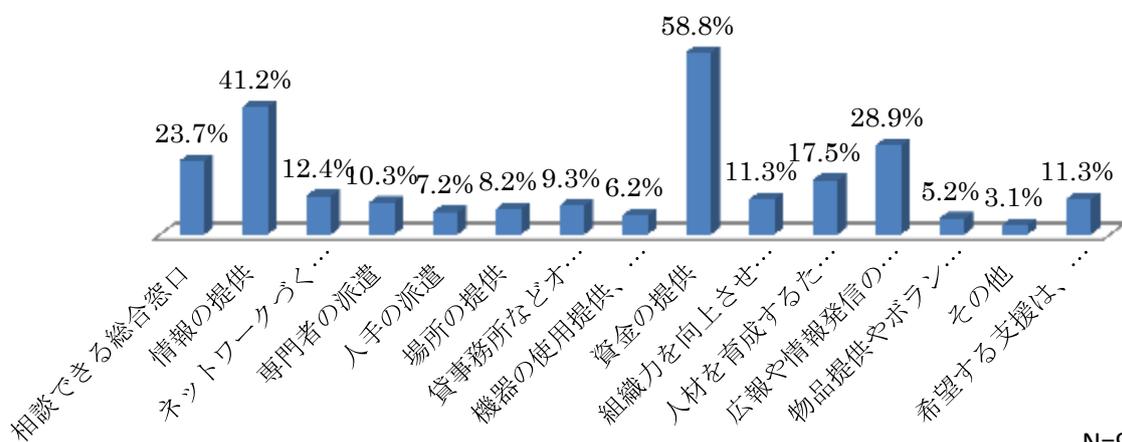


今回の調査では、「団体の運営方法（8項目）」、「人手、人材（5項目）」、「施設、設備（4項目）」、「情報の収集、発信（4項目）」、「他との協働、連携（7項目）」の5領域を設定し、NPO等が困っている程度を検討した。この中で、「困っている」と「少し困っている」をあわせた回答が5割前後以上に達している項目は、「団体の運営方法」の中の「資金不足」、「資金確保の継続的安定化」、「寄附金が集まらない」の3項目と「人手、人材」の中の「スタッフの人数が不足」、「会員、仲間が増えない」、「力量の高いスタッフが不足」の3項目である。資金面の問題と活動を支えるスタッフ（会員）の問題が特に多くのNPO等で意識されていると言え、これらに対する支援が必要である。

ただ、これらの課題に対する支援は、資金を提供したり、委託事業を増やしたり、あるいは会員の増加に協力するなどといった直接的方策としては実施に限界があり、これまでも申請書の質を高める研修や広報・発信の力を高める研修など間接的にこれらを解消する支援方策が講じられてきたが、十分な効果を発揮できているとは言えない状況にある。現状での研修等を通じた間接的な支援に加え、委託事業など直接的効果のある方策に関してもその実施プロセスの綿密な支援、具体的にいえば事業実施を通じたネットワークの形成や情報発信、事業の振り返りの共有などを通して、委託期間終了後もネットワークやノウハウが保存され共有されていくような取り組みを推進する必要がある。

このような困り事は、昨年度調査で実施した「必要な支援」についての回答とどの程度一致しているであろうか。昨年度調査では、必要な支援について、15のカテゴリーから必要性が高い順に3つまで回答してもらった。回答では、「資金の提供」が58.8%と最も多く、続いて「情報の提供（41.2%）」、「広報や情報発信の支援（28.9%）」、「相談できる総合窓口（23.7%）」、「人材を育成するための支援（17.5%）」などとなっていた。回答者における平均回答数は2.55であった。「希望する支援はない」は11.3%にとどまり、多くの団体は何らかの形での支援を必要と捉えていた。

問16必要とする支援（平成25年度調査）



N=97

今年度調査では、領域ごとに項目を設定し、困りの程度を回答してもらった。設問の仕方が異なるので、直接比較することは難しいが、今年度の困り事についての設問にも基本的に近い傾向が現れていると言える。まず、昨年度もっとも多かった「資金の提供（58.8%）」については、今年度も「資金が不足している」、「資金の確保が継続して安定化しない」、「寄附金が集まらない」など資金面での困り事がもっとも多く回答されていたことから共通した傾向が続いていると考えられる。

続いて昨年度多く選択された「情報の提供（41.2%）」、「広報や情報発信の支援（28.9%）」については、今年度は「イベント等に人が集まらない」、「宣伝・広報の仕方がわからない」、「インターネットの使い方がわからない」などが関連する項目と考えられる。これら情報の収集と発信に関する領域では、

今年度は基礎的な「使い方」「仕方」が分からないという問の建て方をした。経験的にはこのような基礎的な困り事の先には、当該事業の目的や対象を踏まえた広報の内容や方法の戦略化が必要であり、昨年度の支援ニーズにはこれらの高度なニーズも含まれていたと推測される。インターネットの使い方や宣伝・広報の基本的なスキルを修得することに加え、ターゲットを明確にした上で効果的な内容を効果的な方法で広報するレベルの高い支援まで連続的に取り組んでいく必要がある。

今年度測定した「困り事」は、特定の領域についてだけの個別的なものか、それとも困っている NPO 等は全般的に困っているのか、この点を明らかにするため、各領域の回答を合算して合計得点を算出し、その得点をもとに、それぞれ上位群、中位群、下位群の 3 グループを設けて、これらが互いに関連しているかどうかを調べた。5 つの領域をクロスして分析すると、10 のクロス分析ができ、カイ 2 乗検定の結果、すべての分析について有意な差があることが分かり、同時にスピアマンの相関係数によって、すべての分析について中間の強さの正の相関があることが分かった。このことから、ある領域の合計得点が高いグループ（困っていないグループ）は、他の領域においても合計得点が高いグループ（困っていないグループ）になるというように、中間の強さの正の相関があることが確かめられた。すなわち、NPO 等が困っていることについては、特定の領域については困っているが別の領域については全然困っていないというようにバラバラには存在しておらず、困りを感じている NPO 等は全体に困りを感じており、困りを感じていない NPO 等もやはり全般的に困りを感じていない状況にあると言える。

表 1 各領域の困りのクロス集計の検定結果と相関係数

	カイ 2 乗検定の漸近有意確率	スピアマンの相関係数
「団体の運営方法」×「人手、人材」	0.000	0.551
「団体の運営方法」×「施設、設備」	0.000	0.478
「団体の運営方法」×「情報の収集、発信」	0.000	0.570
「団体の運営方法」×「他との協働、連携」	0.000	0.540
「人手、人材」×「施設、設備」	0.000	0.435
「人手、人材」×「情報の収集、発信」	0.000	0.521
「人手、人材」×「他との協働、連携」	0.000	0.510
「施設、設備」×「情報の収集、発信」	0.000	0.475
「施設、設備」×「他との協働、連携」	0.000	0.525
「情報の収集、発信」×「他との協働、連携」	0.000	0.580

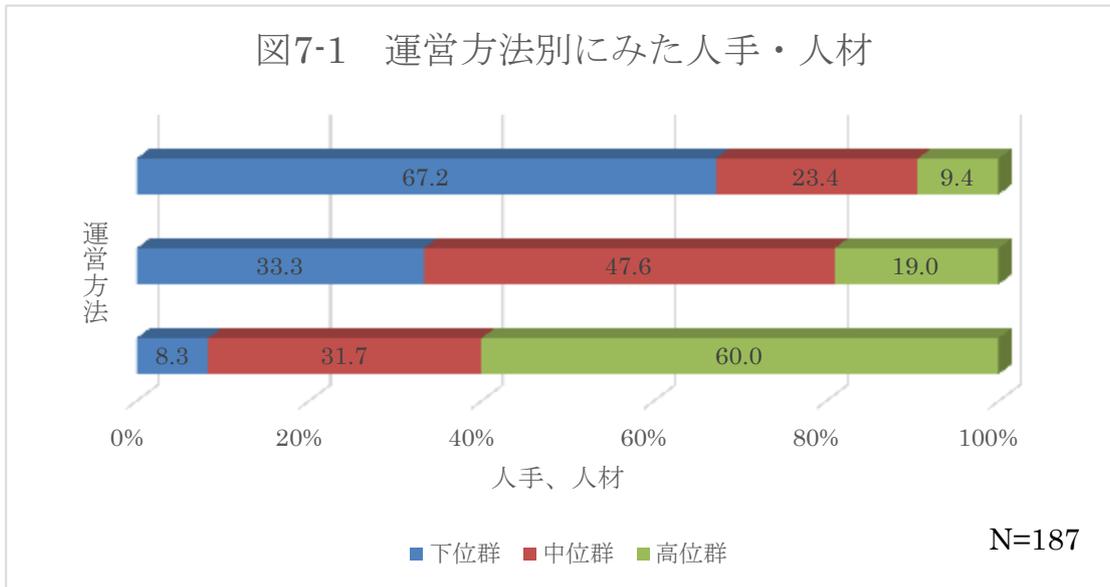
＜解説＞

カイ 2 乗検定：ここで用いているカイ 2 乗検定は、独立した 2 変数のクロス分析をした結果、有意な差があるかどうかを確かめる検定である。本報告書では、一般に用いられる 5%水準で有意な差があるかどうかを検定している（95%の確率で差があるといえる）。

スピアマンの相関係数：相関とは、2 つの変数間の相互関係の強さを表す。正の相関はいっぽうの変数が増加すれば他方の変数も増加するという関係を表し、負の相関は一方の変数が増加すると他方の変数は減少するという関係を表す。相関の強さは、一般に 0.2 未満の場合相関はないと判断され、0.2～0.4 で弱い相関、0.4～0.7 中間の強さの相関、0.7 を越えると強い相関があると判断される。今回の分析では、すべての分析で中間の強さの正の相関が認められた。なお、スピアマンの相関係数は、順位尺度の

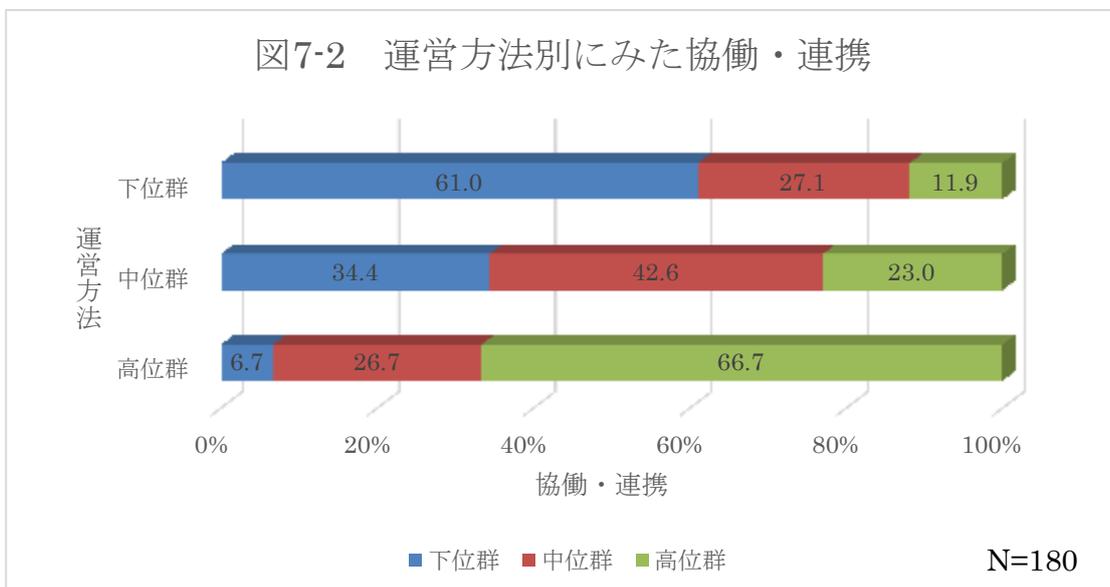
データについて用いる相関の分析である。

どの分析も同様の結果が出ているので、ここでは2つのクロス分析のみ例示する（図7-1、7-2）。運営方法の領域の3グループ（高位群、中位群、低位群）と人手・人材の3グループをクロスさせると、高位群は高位群に、中位群は中位群に、低位群は低位群になっている割合が多く、運営方法の領域で困り事が多いグループは人手人材の領域でも困り事が多いという傾向が読み取れる（図7-1）。



同様に、運営方法の3グループと協働・連携の3グループをクロスさせても、同じ傾向が見られる。取り組みの特性によって特定の領域にのみ課題が感じられているというよりも、全般的に課題を多く感じている団体と全般的に課題を感じていない団体というように、領域を越えて活動上の困りが感じられていると言える。

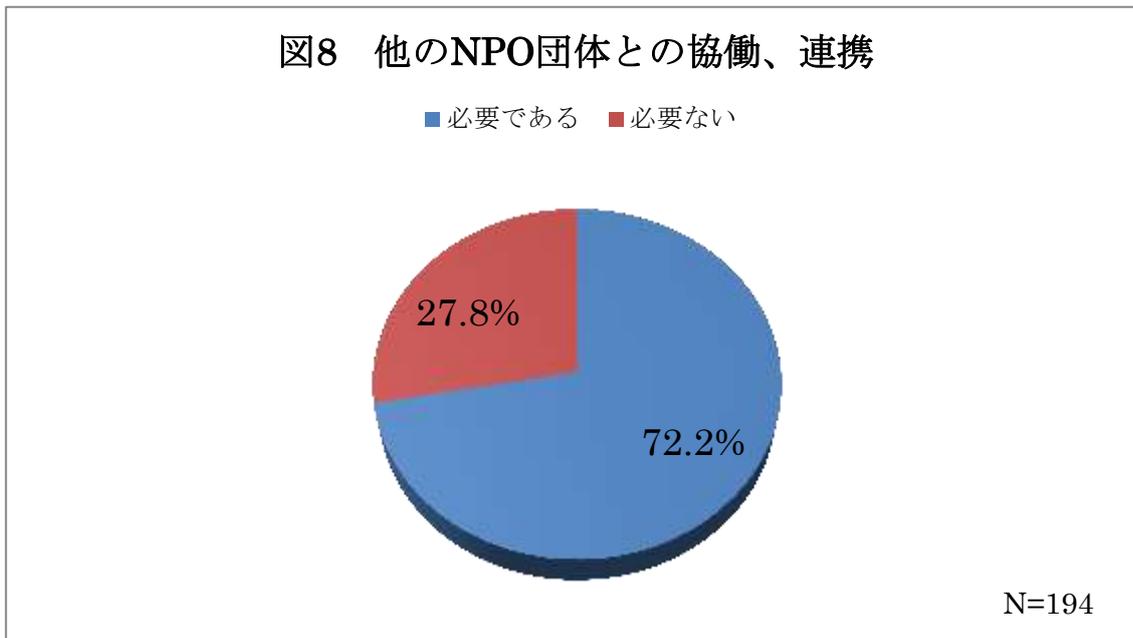
このことから、現況においては、取り組みの発展や関係づくりなどに積極的に取り組もうとする団体は特定領域ではなく全般的に様々な課題に直面すると言え、取り組みの支援方策においてもこのように互いに関連する形で出現する課題を、個々に解決するだけでなく互いに関連づけながら（たとえば運営方法に関する課題をそれだけで解決するというイメージではなく人材の問題や協働・連携の問題と関連づけながら解決するよう取り組むことで）、課題の解決を図るという支援が必要と考えられる。



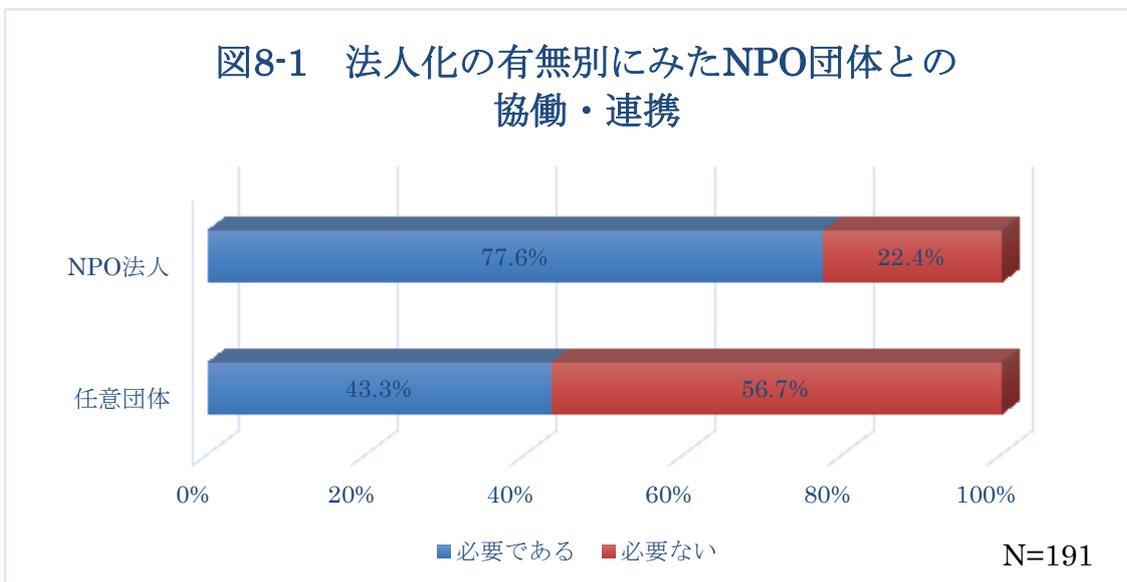
2) 協働・連携について

①他のNPO団体との協働・連携

協働・連携の必要性について、まず他のNPO団体との協働・連携について尋ねたところ、「必要である」が72.2%であり、必要とする答えが7割以上を占めた(図8)。全般的に、組織単独で活動するのみならず協働・連携を行う必要性はあるという認識が広がっているといえる。一方、「必要ない」という回答も27.8%あり、自団体のみで活動していく意向の団体もある。このような団体については、一律に協働・連携を行うよう働きかけていっても団体の意向や活動状況に合わないケースもあるであろう。当面は、協働・連携が必要であると考えているものの、その経験がないあるいは少ない団体の協働・連携を有効に推進していくことが課題になる。

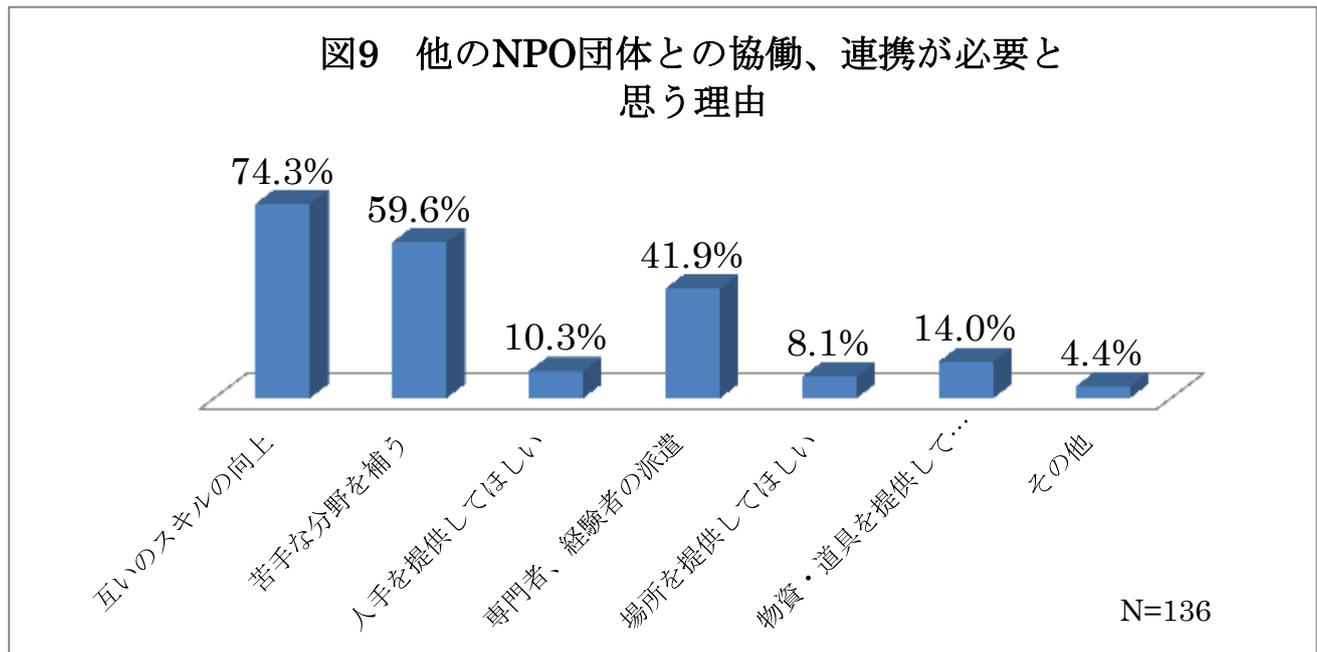


法人化の有無別にみても、「必要である」という回答がNPO法人では77.6%に達しているのに対し、任意団体では43.3%にとどまっており、NPO法人の方が他のNPO団体との協働・連携の必要性を強く感じていることが分かる(図8-1)。



他の NPO 団体との協働・連携が必要であると回答した団体に、必要と思う理由を 3 つまでの複数回答で尋ねた。その結果が図 9 である。「互いのスキルの向上」が 74.3%と最も多く、協働・連携を通して団体の力量を向上させようという意図が強く持たれていることがわかる。続いて、「苦手な分野を補う (59.6%)」と「専門者、経験者の派遣 (41.9%)」の 2 つが他の項目に比べ突出して多く選択されていた。この 3 つが協働・連携を行う主要なメリットと捉えられていると考えられる。

自団体単独で取り組みを行うことに加えて、他の NPO 団体と協働・連携することが、実際に力量の向上や苦手分野のカバーにつながるのか、つなげるためにはどのような支援が必要かを今後さらに検討していく必要がある。たとえば、協働・連携を行う際のポイントを整理することや、有効に行われた協働・連携の事例を情報共有するなどの取り組みが有効な支援につながると考えられる。

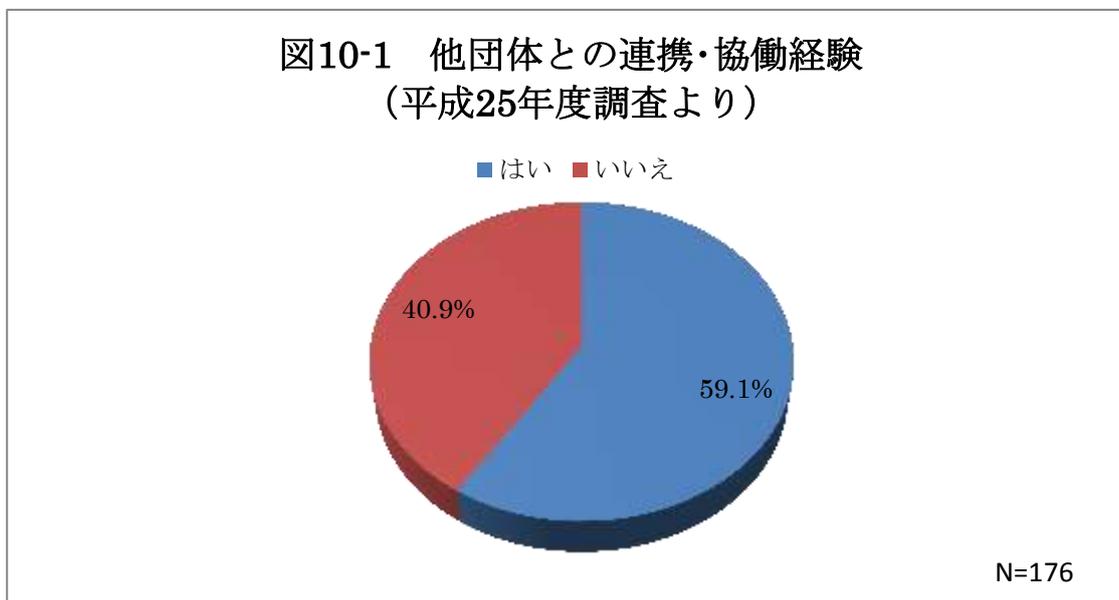


②行政との協働・連携

行政との協働・連携については、「必要である」という回答が91.2%に及んだ（図10）。NPO 団体が協働・連携を考える際に、やはり行政がもっとも重要な相手と捉えられていると考えられる。

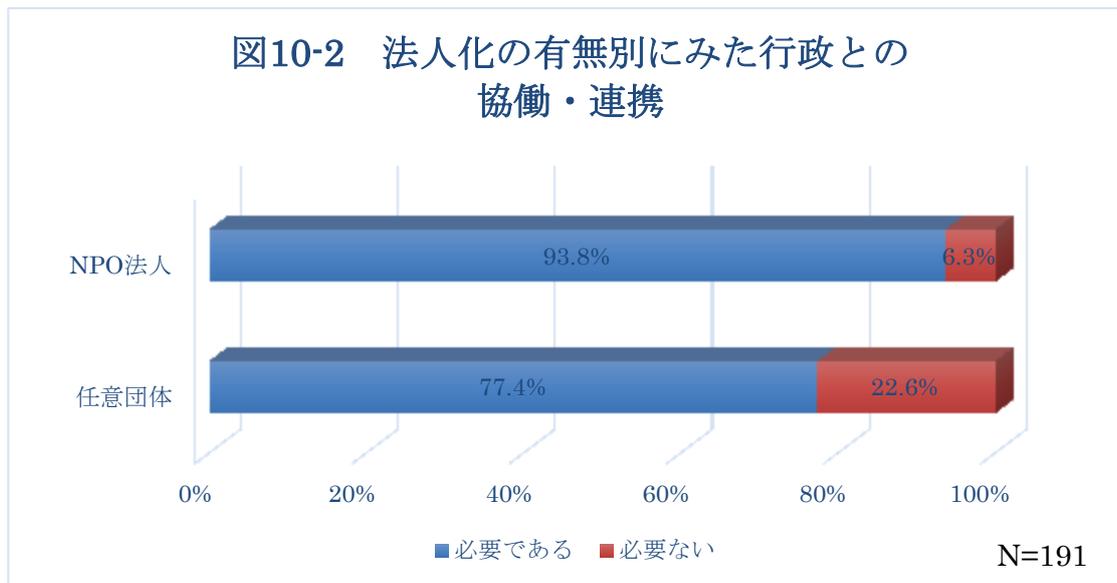


昨年度の調査（図10-1）では、他団体との協働・連携経験があるのは59.1%とほぼ6割であり、協働・連携が必要であると認識しつつ実際には協働・連携を行ったことがない団体が約3割存在することになる。これに経験の少ない団体を加えれば、協働・連携経験の蓄積はNPO 団体の支援において当面の重要課題と捉えられよう。



行政との協働・連携について法人化の有無別にみると、やはり NPO 法人のニーズが高い (図 10-2)。ただし、任意団体においても「必要である」という回答が 77.4%と 8 割近くを占めており、行政との協働・連携については、NPO 法人・任意団体ともに必要性が広く感じられているといえる。

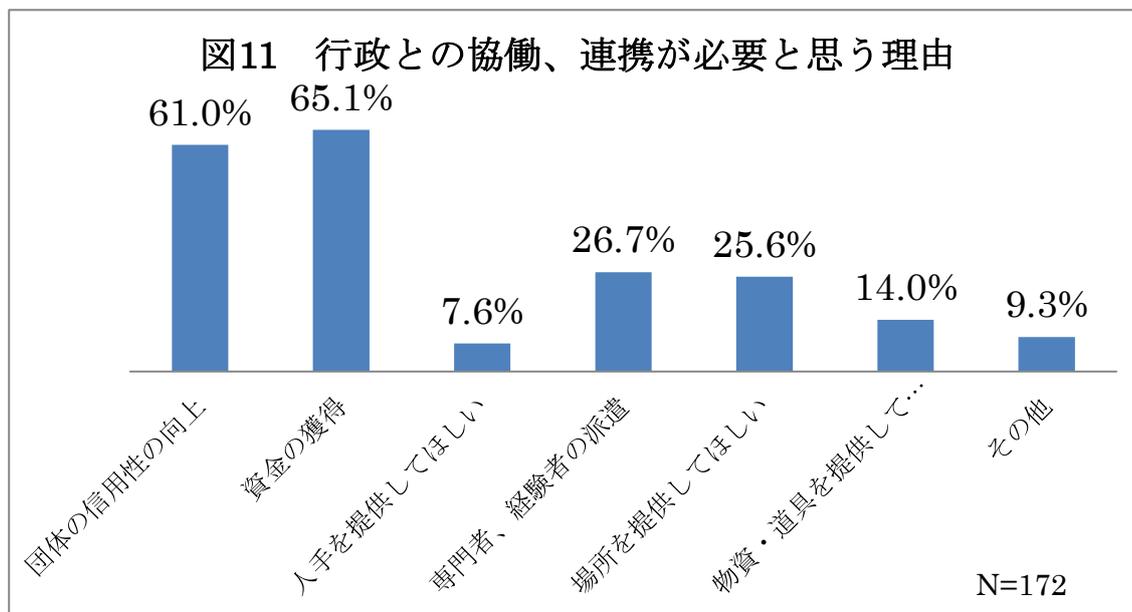
図10-2 法人化の有無別にみた行政との協働・連携



行政との協働・連携が必要だと思うと回答した団体に、その理由を 3 つまでの複数回答で尋ねた。その結果が図 11 である。「資金の獲得」が 65.1%でもっとも多く、僅差で「団体の信用性の向上」が 61.0%と続いている。この 2 つが特に重要な理由といえそうである。さらに、「専門者、経験者の派遣 (26.7%)」と「場所を提供してほしい (25.6%)」も比較的多く回答されている。

委託事業などを通して活動するための資金を獲得するという資金の面がやはり強く意識されており、これに加えて行政との協働・連携を通して自団体の信用性を高めたり、専門者に関わってもらえるようにしたりすることで団体の機能を高めようという意図が見て取れる。

図11 行政との協働、連携が必要と思う理由

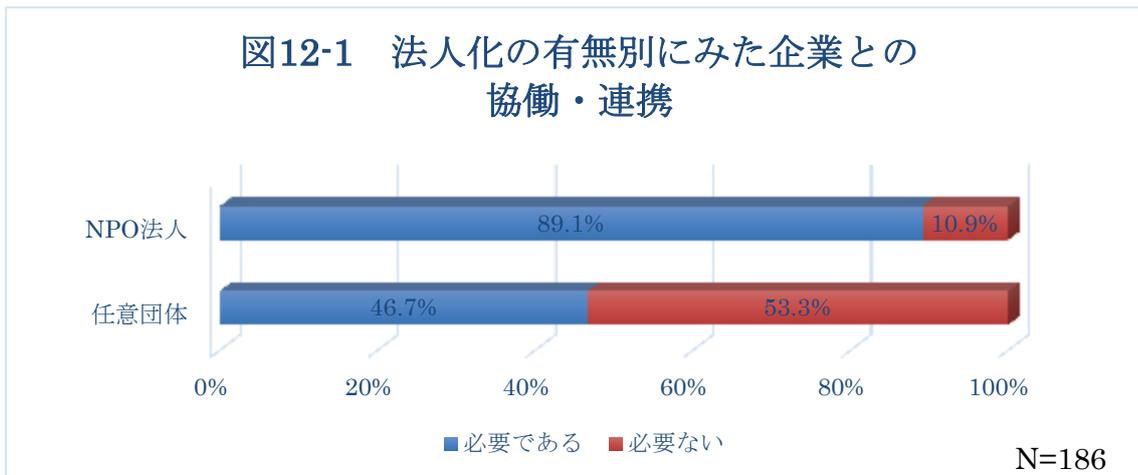


③企業との協働・連携

企業との協働・連携についても、「必要である」という回答は82.0%と8割以上を占め、大半の団体は企業との協働・連携の必要性を感じている（図12）。差は大きくはないものの、他のNPO団体との協働・連携よりも企業との協働・連携の方が必要であるという回答が多い。行政との協働・連携に続いて主要な課題と捉えられているようである。



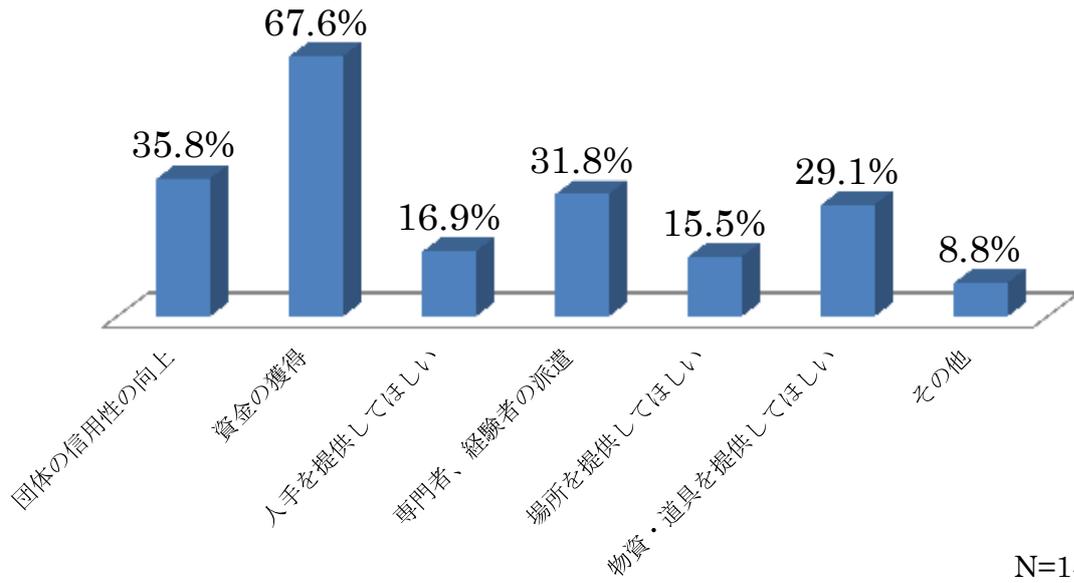
法人化の有無別にみても、やはりNPO法人の方が企業との協働・連携にも積極的である（図12-1）。



任意団体においては、「必要である」という回答が46.7%と半数以下であり、NPO法人との認識が大きく異なる。

企業との協働・連携が必要だと回答した団体に、その理由を3つまでの複数回答で尋ねた。回答は図13の通りである。「資金の獲得」が67.6%と特に多い。資金の獲得の方途として企業との協働・連携が捉えられている傾向がある。続いて「団体の信用性の向上(35.8%)」や「専門者、経験者の派遣(31.8%)」、「物資・道具を提供してほしい(29.1%)」なども多く選択されている。資金のみならず多様なメリットが実感できるよう有効な協働・連携事例の蓄積を図る必要がある。

図13 企業との協働、連携が必要と思う理由

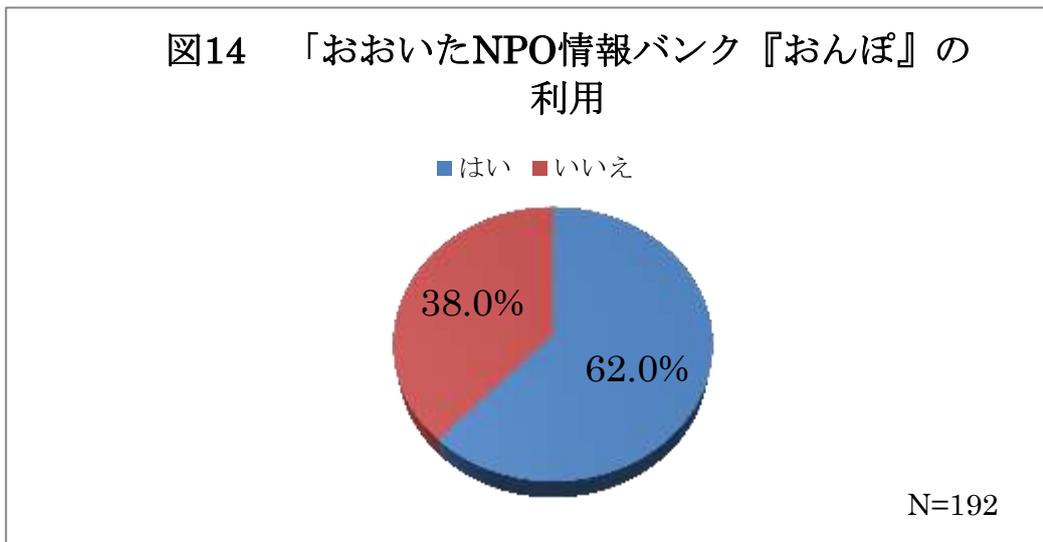


N=148

3) 情報の収集・発信について

①おおいた NPO 情報バンク「おんぽ」の利用

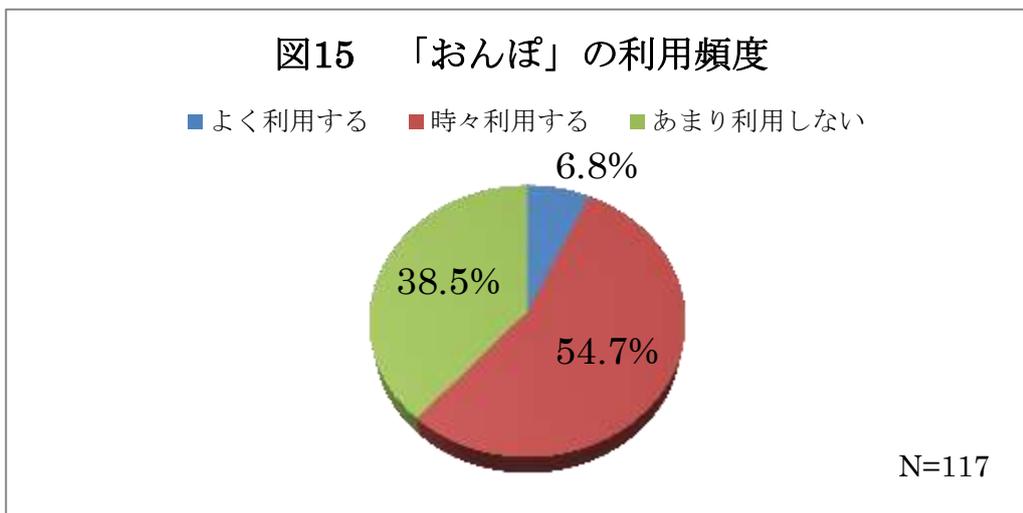
おおいた NPO 情報バンク「おんぽ」の利用については、「はい」が 62.0%、「いいえ」が 38.0%であった（図 14）。過半数の NPO 等は「おんぽ」を利用しており、もともとインターネットを通じた情報発信には興味のない団体もあることを考慮に入れば、低くない数字である。近年めじろん共創応援基金での公募事業への応募条件になるなど、NPO 等の情報発信を推進する取り組みが成果を生んでいると考えられる。ただ、サブクエスチョンで「おんぽ」の利用頻度で「よく利用する」が少なかったことなどから、「おんぽ」での情報提供の内容や情報発信の戦略化などにはまだ課題も残っていることが考えられる。



②「おんぽ」の利用頻度

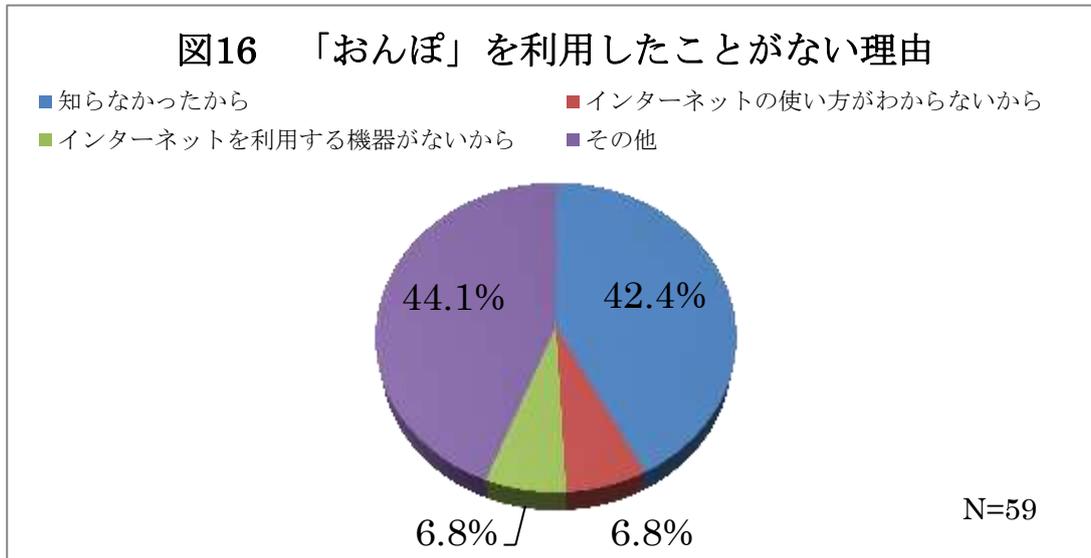
「おんぽ」を利用している団体に対し、利用頻度を尋ねた。「時々利用する」が 54.7%と最も多く、以下「あまり利用しない」38.5%、「よく利用する」6.8%の順となっていた（図 15）。時々利用するという回答にはかなり幅があると考えられ、「よく利用する」は少ないことを考えると、全体的に「おんぽ」の利用頻度は高いとは言えないようである。

「おんぽ」の利用には、情報の収集と発信の両面が考えられるが、それぞれの面でのメリットを各団体に感じてもらい、より積極的に利用してもらえようさらに取り組んでいくことが望ましい。



③ 「おんぼ」を利用したことがない理由

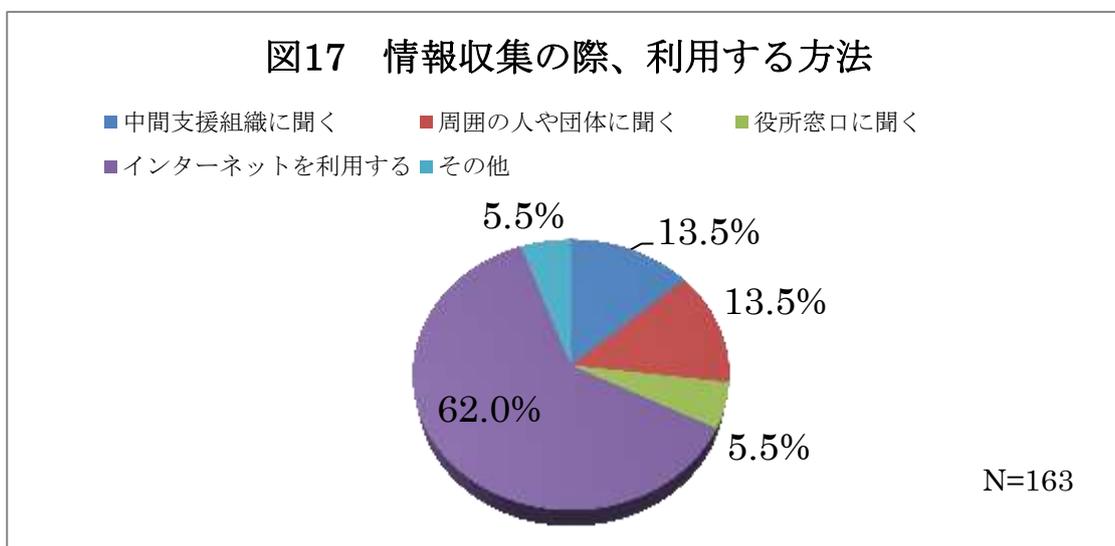
「おんぼ」を利用したことがない団体には、利用したことがない理由を回答してもらった。「その他」が44.1%ともっとも多く、「知らなかったから」が42.4%でそれに続く（図16）。「インターネットの使い方がわからないから」と「インターネットを利用する機器がないから」はそれぞれ6.8%にとどまった。インターネットの利用が広く普及した今日では、利用環境や使い方については問題が減少しており、それだけに「おんぼ」について知ってもらい、そのメリットを実感してもらうことで、積極的に活用してもらうための具体的方策が必要になっているといえる。



④ 情報収集の際、利用する方法

情報収集の際、利用する方法についての回答結果は図17の通りである。「インターネットを利用する」が62.0%ともっとも多い。インターネットの利用が広く普及したことを受け、地理的・時間的制約のないインターネットを活用した情報収集は非常に重要になってきていると考えられる。しかし、インターネットは情報収集の入口としては非常に使いやすい半面、本当に優れた情報を収集したり、情報の裏付けをとったりするためにはかなりレベルの高い知識やスキルが求められる。その意味で、情報収集におけるスキルアップの機会を提供することは、この面での重要な支援となるであろう。

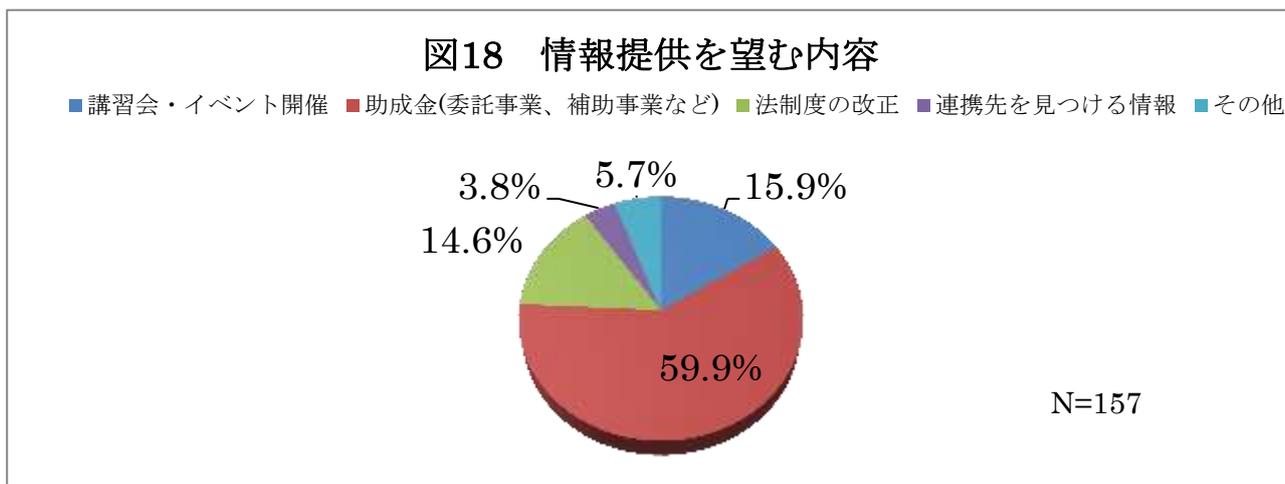
インターネットに続いては「中間支援組織に聞く」と「周囲の人や団体に聞く」が13.5%、「役所窓口」に聞く」と「その他」が5.5%となっていた。これらの口コミによる情報収集も引き続き重要である。情報の性質に応じ、情報収集の方法を有効に使い分けるスキルも必要である。



⑤情報提供を望む内容

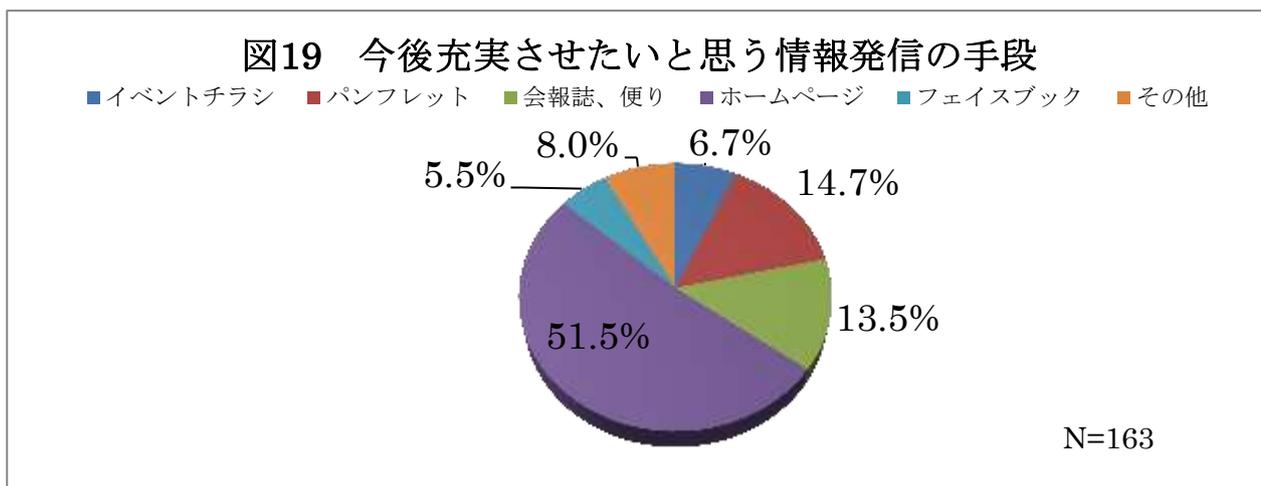
情報提供を望む内容としては、「助成金（委託事業、補助事業など）」が 59.9%と特に多く回答された（図 18）。資金面での困りが多かったことに合わせ、資金調達に向けた助成金に関する情報が最も重視されていることは理解できる。しかし、現実的には各団体がいかに委託事業等の申請書を作成するためのスキルやビジョンを高めても、すべての団体が委託事業等を獲得することは難しい。裏返して言えば、助成金の支給だけに団体のニーズが偏らないような魅力的な支援方策の開発やその広報が今後の課題である。

情報提供を望む内容としては、以下「講習会・イベント開催（15.9%）」、「法制度の改正（14.6%）」などが続いている。団体の力量を高めるため、学び知る機会も引き続き求められている。



⑥今後充実させようと思う情報発信の手段

今後充実させようと思う情報発信の手段としては、「ホームページ」が 51.5%ともっとも多く、続いて「パンフレット（14.7%）」、「会報誌、便り（13.5%）」、「その他（8.0%）」などとなっている（図 19）。ホームページが半数を超えて選択されている。ホームページは団体の情報を発信する入口の機能に始まり、内容を充実させればかなり多量で詳細な情報も集積でき、一時的なイベント等の情報も掲載できるなど、団体の意図に合わせて情報の内容や量を自由にデザインできるメリットを持つ。半面、常にホームページの魅力を維持するためには、内容の充実や更新を恒常的に図る必要がある。取り組みの業務量に比べスタッフが手薄な場合は、ホームページの更新等が滞るケースも少なくない。本来やりたい取り組みとそれを発信するためのホームページ管理業務のバランスをとる必要がある。



4) 資金や場所、物品、人材育成について

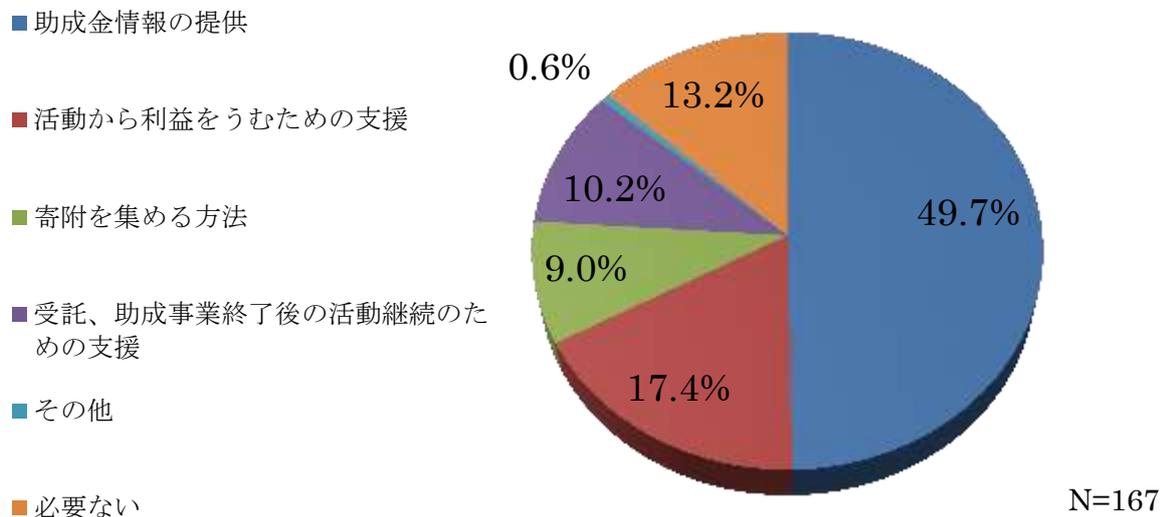
① 資金に関して必要だと思う支援

資金面に関して必要だと思う支援を尋ねたところ、回答は図 20 のようになった。やはり「助成金情報の提供」が 49.7%と特に多い。「活動から利益を生むための支援 (17.4%)」、「必要ない (13.2%)」、「受託、助成事業終了後の活動継続のための支援 (10.2%)」、「寄附を集める方法 (9.0%)」などがこれに続く。

NPO 等が活動費を活動の中で利益を出すことで確保することは、活動の安定や発展を図るうえで重要なことである。しかし、現状ではソーシャル・ビジネスとして収益性を高いレベルで確保している団体はごく少数である。企業との協働・連携などを通して、どのようにすれば活動から利益を生み出すことができるか（かつ団体の本来の活動目的から外れることなく）を検討する必要がある。

受託・補助事業などが終了した後、その事業で実施した取り組みを継続・発展させるための資金を確保することは、受託・補助事業での取り組みを継続・発展させるために重要である。このことは、受託・補助事業を実施し、その後の事業費の減少という課題に取り組んだ団体にしか実感できないことである。にもかかわらず 10.2%の回答があったということは、受託・補助事業の実施を経て、協働・連携の課題を具体的に感じている団体の増加を示すものであろう。モデル事業が事業期間だけの取り組みにとどまり「元の木阿弥」になってしまわぬよう、支援方策を講じていく必要がある。

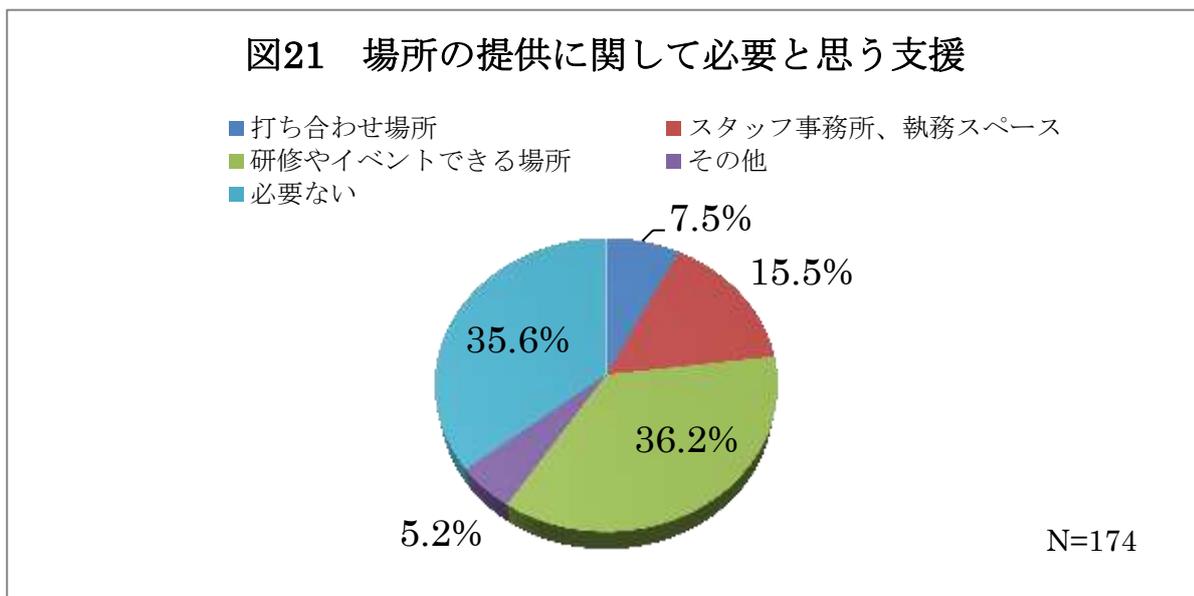
図20 資金に関して必要だと思う支援



② 場所の提供に関して必要と思う支援

場所の提供に関して必要と思う支援では、「研修やイベントできる場所」が 36.2%と最も多く、「必要ない」の 35.6%がこれに続く（図 21）。「スタッフの事務所、執務スペース（7.5%）」や「打ち合わせ場所（5.2%）」のニーズはあまり高くない。ある程度広いスペースでないと対応できない研修やイベントなど人数が多く集まる場所へのニーズが認められる一方で、活動上そのような場所を必要としていない団体も少なくない。

占有スペースだけでこれらの場所を確保するには多くの予算を必要とする。他方、共用スペース（その都度利用申請をする公共施設など）の場合は、使用申請の手間や使えない可能性、機器等が使えない（設置されていない）などの問題が生じがちである。「低い料金で、使い勝手がよく、安定して使える」場所の開発や有効な利用を考えていく必要がある。

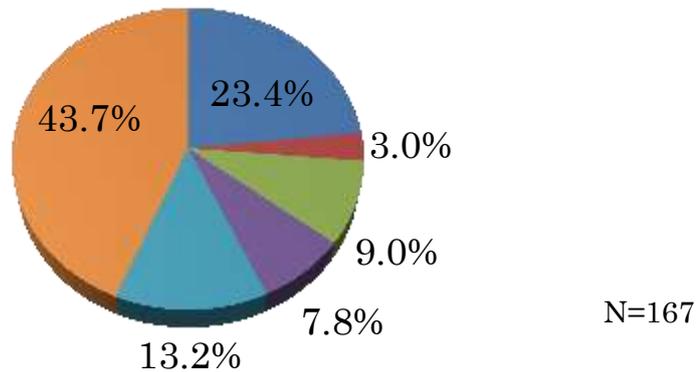


③物品の貸し出しに関して必要だと思う支援

物品の貸し出しに関して必要だと思う支援については図 22 の回答を得た。「必要ない」が 43.7%と最も多い。選択肢として挙げた物品の価格は下がってきており、団体や個人で所有しているケースも増加したことから、支援は必要ないという団体が増えていると考えられる。ニーズの高かった物品としては、「プロジェクター（23.4%）」、「その他（13.2%）」などがある。必要ないという回答がかなりを占めたことから、NPO 等が使用する施設すべてでこれらの物品を貸出しできるように整備する必要は高くないと考えられるが、他方これらの物品を貸し出すところが近くにないとこれらを所有していない団体は非常に困ることになることから、地域全体として効果的効率的に利用できるような整備が求められる。

図22 物品の貸出に関して必要と思う支援

■ プロジェクター ■ スクリーン ■ パソコン ■ ビデオカメラ ■ その他 ■ 必要ない



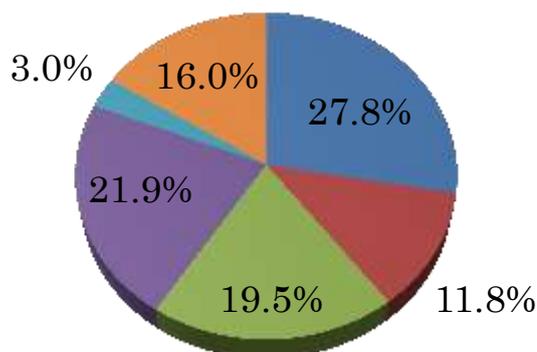
④人材を育成するために必要と思う支援

人材を育成するために必要と思う支援では、「講演会やセミナーの開催」が 27.8%と最も多く、以下「交流会、情報交換会の開催 (21.9%)」、「関係機関、団体への実習 (19.5%)」、「必要ない (16.0%)」などが続いている。相対的にニーズは広く分布している (図 23)。

講演会やセミナー等に関してはこれまでもかなり開催されており、その内容や効果が評価されていると捉えることができる。その上で、単なる承り学習に終わるのでなく、研修等を受けた後に実際の業務や取り組みの改善・開発に役立つような強度の強い講演会・セミナーとなるよう、その方法や内容を工夫していく必要がある。参加型学習はその一助となると考えられるし、講演会やセミナーを交流会・情報交換会などと組み合わせて実施しネットワークづくりにも役立てるなど、様々な工夫が可能である。

図23 人材を育成するために必要と思う支援

■ 講演会やセミナーの開催 ■ 参加重視のワークショップ
 ■ 関係機関、団体への実習 ■ 交流会、情報交換会の開催
 ■ その他 ■ 必要ない

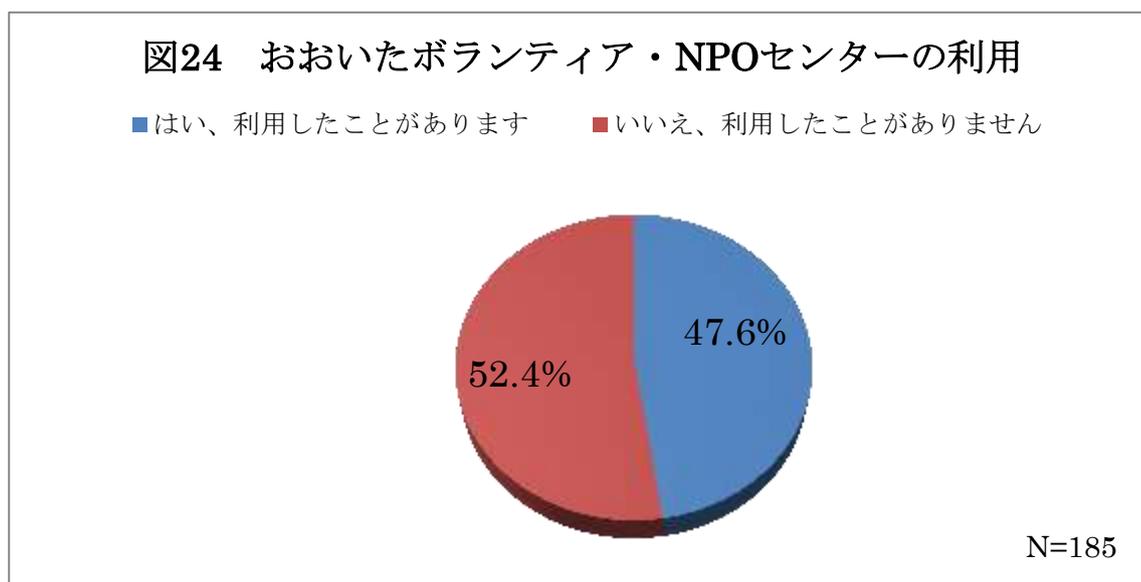


5) おおいたボランティア・NPOセンターについて

① おおいたボランティア・NPOセンターの利用

おおいたボランティア・NPOセンターの利用については、「はい、利用したことがあります」が47.6%、「いいえ、利用したことはありません」が52.4%で利用したことがない団体の方がわずかに多い（図24）。研修やセミナーを受講する、情報を収集する、業務に関する相談を行うなどセンターを利用しようとする具体的な目的がなければ利用は促進されない。その意味では、これまでいくつかの団体がこのセンターの運営にかかわる中で、利用経験が増えつつあることは評価できる。

今後はセンターの機能をさらに発信することで、センター利用者のすそ野を拡大するとともに、センター利用のメリットをさらに高めるように工夫を行う必要がある。おおいたボランティア・NPOセンターは数年前から大分県社会福祉会館内に移転し、大分県社会福祉協議会が運営する大分県ボランティア・市民活動センターと隣り合って業務を行うようになったことは、このようなメリットの向上に役立つことが期待される。あわせて、場所的には離れることになったが、大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課（県民活動支援室）との連携を十分に図ることも必要である。



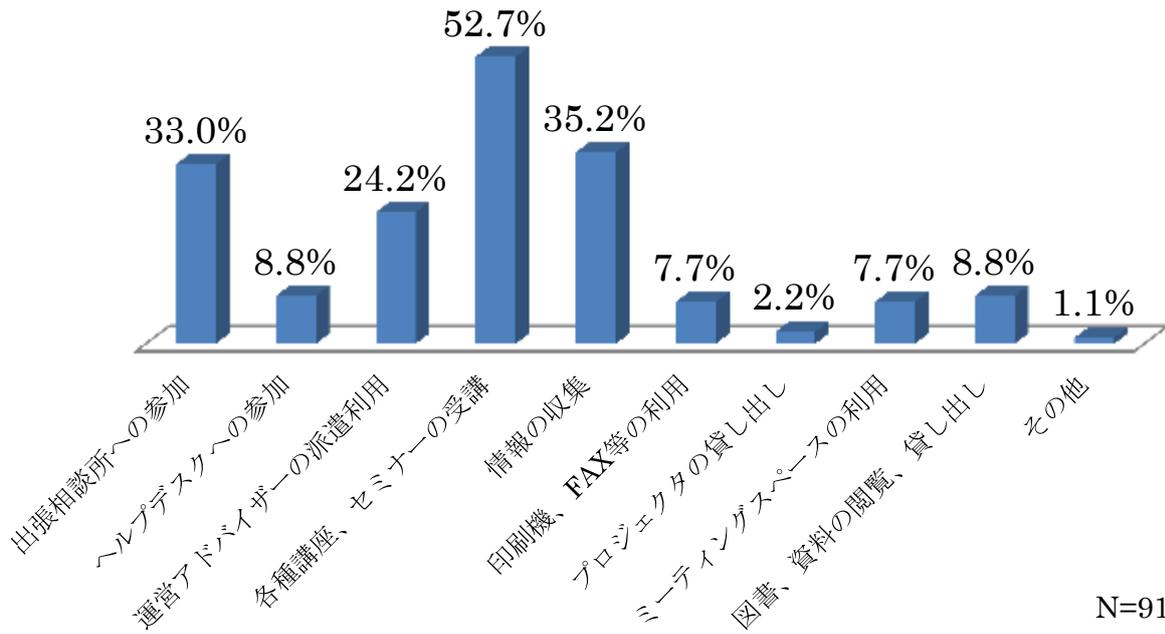
② おおいたボランティア・NPOセンターを利用した内容

ボランティア・NPOセンターを利用した内容については選択数に制限を設けない複数回答で尋ね、図25の結果を得た。「各種講座、セミナー」が52.7%と最も多く、「情報の収集（35.2%）」や「出張相談所への参加（33.0%）」などが続いている。

センターを利用する主要な目的として講座・セミナーの受講は重要な役割を果たしている。人材育成の支援の箇所で指摘したように、定着しつつあるこれらの講座・セミナーをさらに普及させるとともに、参加型学習の導入、交流会・情報交換会などの機能の付加などを通してその機能をさらに高めることが期待される。

出張相談所の利用が多く回答されている。大分県の中でもセンターから遠隔の地域で活動している団体にとっては、直接センターを訪問しての利用は難しい面もある。その意味では、出張相談所やネット利用も含めた情報提供は有効な方策である。

図25 ボランティア・NPOセンターを利用した内容

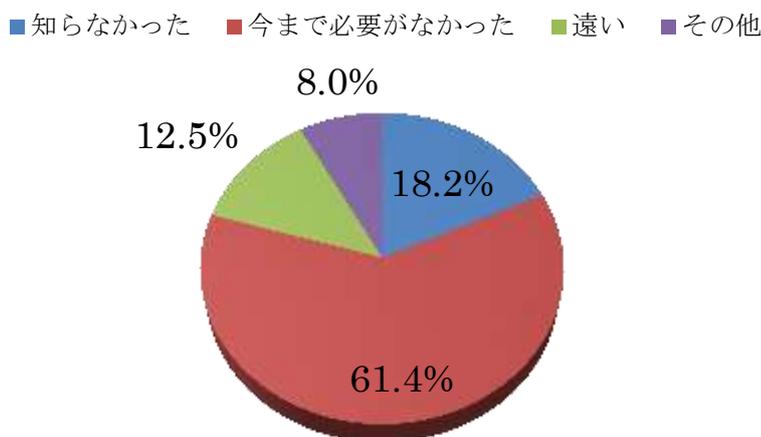


③ おおいたボランティア・NPOセンターを利用したことがない理由

センターを利用したことがない団体には、利用したことがない理由を尋ねた。「今まで必要がなかった」が61.4%と6割以上を占めている(図26)。続いて「知らなかった(18.2%)」、「遠い(12.5%)」などとなっている。

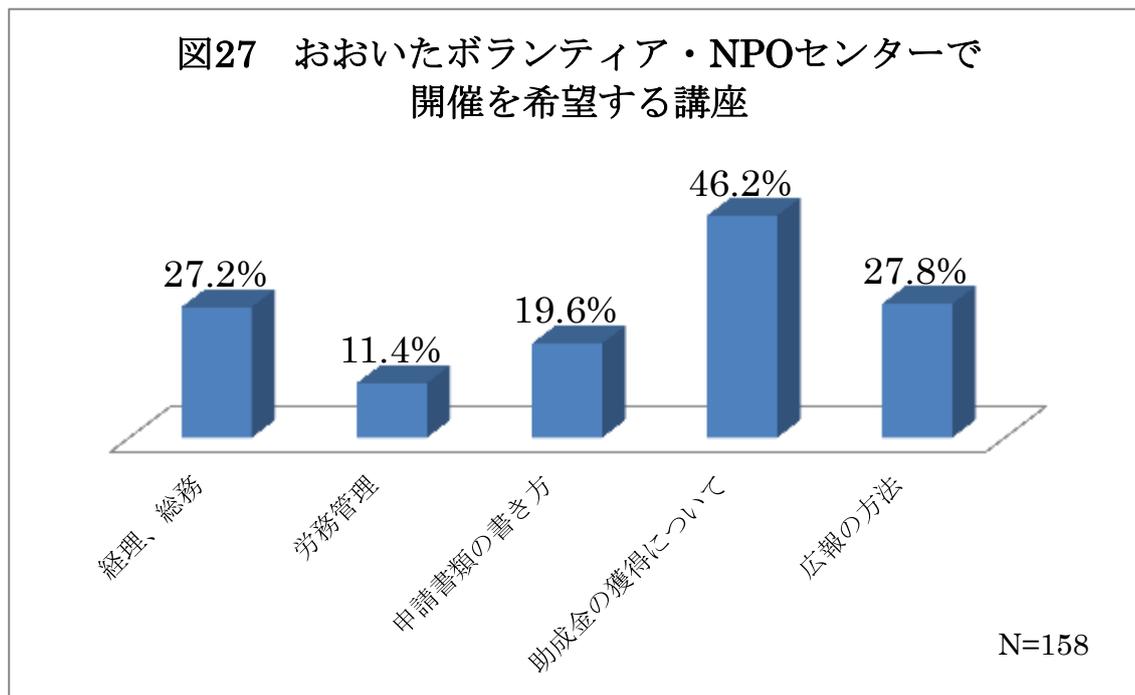
センターを十分活動していただくためには、まず利用する必要がないと考えている約6割の団体にセンター利用のメリットを発信し感じてもらう取り組みが必要である。その上で知らなかった団体(ということはセンターの事業に関わりが生じるような活動をあまり行っていない団体)にも知ってもらうこと、遠隔の地域からも利用したくなるような事業内容の充実あるいは来所しなくてもセンターの機能が一部利用できるようネットを活用した情報提供や相談を充実させることなどが将来的な課題と考えられる。

図26 ボランティア・NPOセンターを利用したことがない理由



④ おおいたボランティア・NPOセンターで開催を希望する講座

センターでの開催を希望する講座については、選択数に制限を設けない複数回答で尋ねた。回答は図27の通りである。「助成金の獲得について」が46.2%ともっとも高く、「広報の方法(27.8%)」、「経理、総務(27.2%)」、「申請書類の書き方(19.6%)」、「労務管理(11.4%)」の順となっている。活動資金を獲得するための助成事業の公募に強い関心が持たれていることから、センターの講座においても助成金の獲得が主要な関心になっている。他方、広報や経理、総務など、NPO等が日常的に取り組む業務についてのニーズも示されている。これらの部分でNPO等にとって講座の受講が高い効果を持つことを示していくことも課題である。



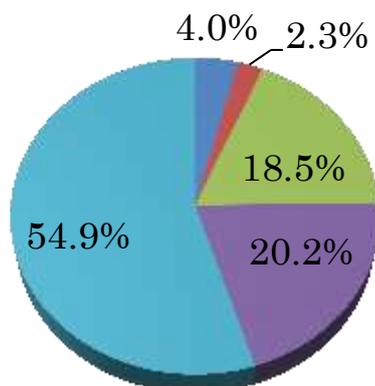
⑤ おおいたボランティア・NPOセンターの運営アドバイザー派遣料金

センターがNPO等に運営アドバイザーを派遣する際の派遣料金としてどの程度の額であれば利用するか尋ねた。回答は図28の通りである。「有料なら利用しない」が54.9%と半数以上を占めている。続いて「2,000円/回(20.2%)」、「3,000円/回(18.5%)」など低い料金を望む声が大半を占める。運営アドバイザーに来てもらって改善を図るという発想自体がない団体もあろうし、予算規模が小さくて招聘する予算が厳しいという団体もあろう。

他方、おおいたボランティア・NPOセンターは、県の委託事業により中間支援を行っている公益財団法人が運営している。センター運営費は現状では委託事業費から支出されているが、将来的にセンターの機能を充実させていくためには、センター独自で収益を上げることも考えていく必要がある。そのためには、運営アドバイザーを積極的に利用して業務の効率化や高度化を図り、その派遣料金を妥当あるいは効果に対して安価であると受け止めるような風土を形成していく必要がある。

図28 ボランティア・NPOセンターの
運営アドバイザー派遣料金

■ 6,000円/回以下 ■ 4,000円/回 ■ 3,000円/回 ■ 2,000円/回 ■ 有料なら利用しない



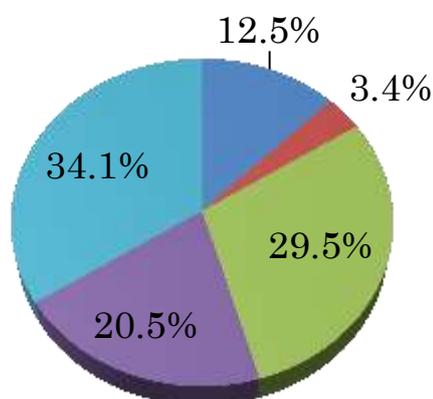
N=173

⑥おおいたボランティア・NPOセンターの講座、セミナーの受講

センターの講座、セミナーの受講に関しても利用してよい金額を尋ねた。「有料なら参加しない」が34.1%ともっとも多く、以下「1,000円/回(29.5%)」、「500円/回(20.5%)」、「2,000円/回以下(12.5%)」、「1,500円/回(3.4%)」の順となっている(図29)。運営アドバイザー派遣料金と同様、講座・セミナーの受講についても受講料の支出には非常にシビアな結果となっている。遠隔地の場合受講料に加え交通費の支出も必要なわけで、高額な受講料の支出は厳しいという現状は理解できる。しかし、センターの側からいえば、講座・セミナーで受講料を十分確保して自主事業として独立採算で運営できることが望ましいが、現状ではかなり厳しいといわざるを得ない。

図29 ボランティア・NPOセンターの
講座、セミナーの受講

■ 2,000円/回以下 ■ 1,500円/回 ■ 1,000円/回 ■ 500円/回 ■ 有料なら参加しない

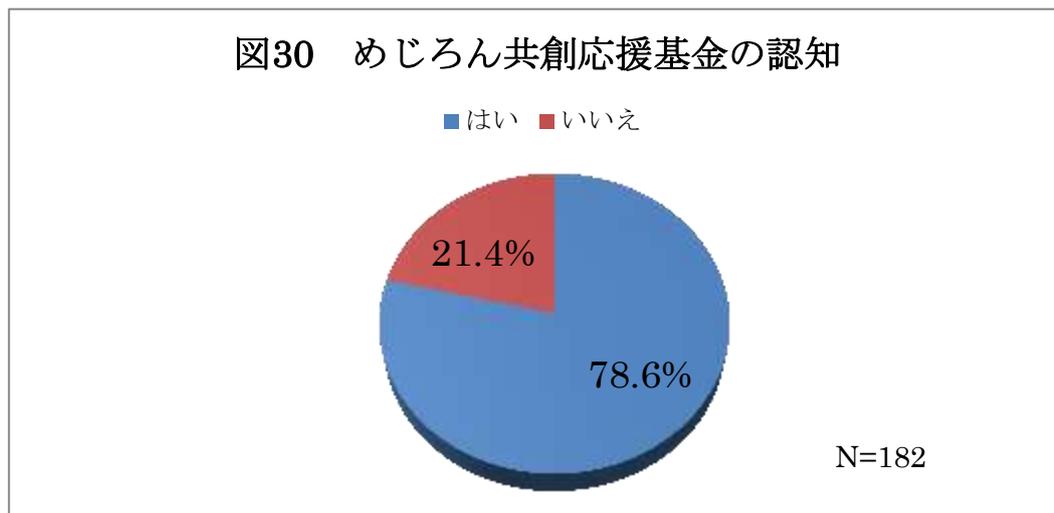


N=176

(2) めじろん共創応援基金について

1) めじろん共創応援基金の認知

「めじろん共創応援基金」を知っているかどうか尋ねたところ、「はい」が78.6%、「いいえ」が21.4%となっている（図30）。平成25年1月のめじろん共創応援基金の設立から1年半程度でNPO等から8割近い認知を得たことは積極的な情報発信や各種講座の実施等の成果として高く評価できる。基金を必要としない団体、基金による研修等様々な機会を利用するニーズがない団体もあると考えられることから、今後は認知度をさらに向上させる取り組みも必要であるが、認知の具体性や具体的な関わりの部分をさらに充実させる取り組みが必要だといえよう。



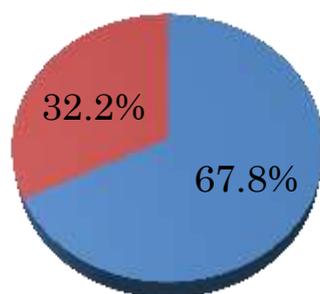
2) めじろん共創応援基金による助成事業の公募への興味

「めじろん共創応援基金」が実施している助成事業の公募に興味があるかどうかを尋ねた。「はい、興味があります」が67.8%と7割近くを占めている（図31）。3分の2以上のNPO等が助成事業の公募に興味があるということは、助成事業の申請や実施を通じて自組織の力量を向上させ活動の資金を確保しようとするNPO等の積極的な姿勢がうかがえる。

現実的には、大分県に所在するNPO等が約750（NPO法人：500、任意団体：250）あるのに対し、めじろん共創応援基金が実施できる助成事業は2本程度と少ないことから、このようなニーズに応じていく上では限界がある。県や市町村などの行政が実施する委託事業、企業との連携事業、NPO等との協働・連携事業など多様な形でこのようなニーズに対応する必要がある。

図31 めじろん共創応援基金による助成事業の
公募への興味

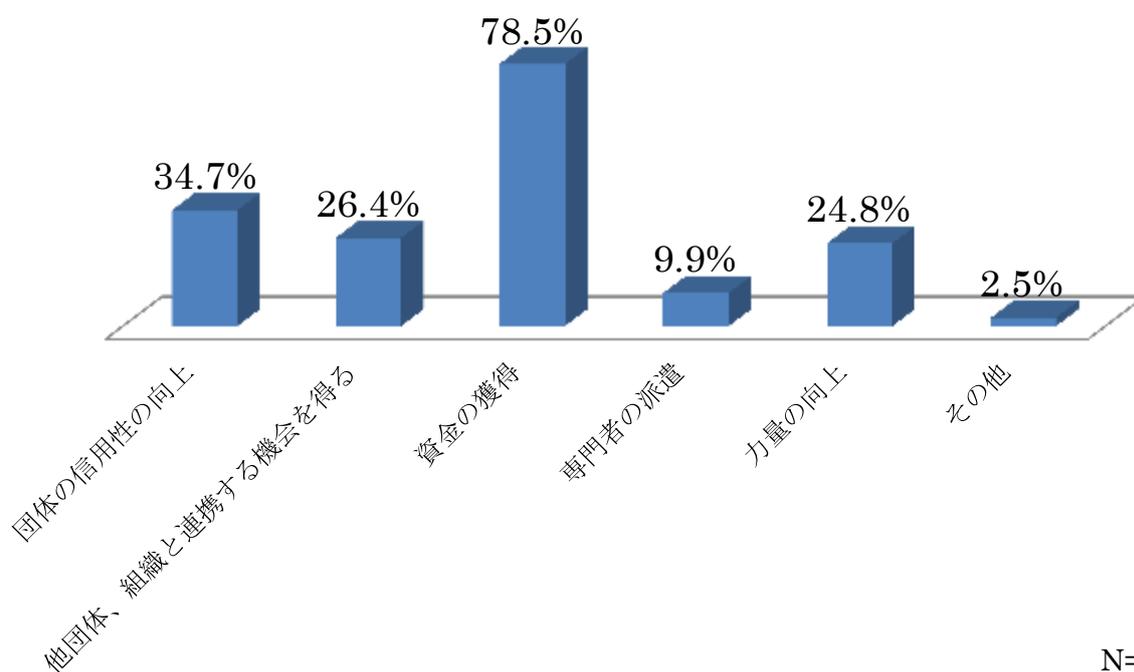
■ はい、興味があります ■ いいえ、興味がありません



N=183

助成事業の公募に興味がある理由を選択数に制限を設けない複数回答で尋ねた。回答は図 31-1 の通りである。もっとも多かったのは、「資金の獲得」の 78.5%で、8 割近くが選択している。以下、「団体の信用性の向上」(34.7%)、「他団体、組織と連携する機会を得る」(26.4%)、「力量の向上」(24.8%)などが続いているが、選択率はあまり高くない。助成事業に応募する際に、資金を獲得することが目的であることは当然ではある。しかし、単純に資金の獲得のみを求めているのか、副次的には様々な効果を意識しているのかについては、今回の調査だけでは判断できずさらに継続して検討する必要がある。ただ、採択される可能性が高い申請書類を作成するうえでも、助成・委託事業の質の高い報告書を作成するうえでも、事業実施に複数のメリットを想定できていることが望ましく、事業の受託にどのようなメリットがあるかについては、事例の共有などを通して認知を広めていく必要がある。

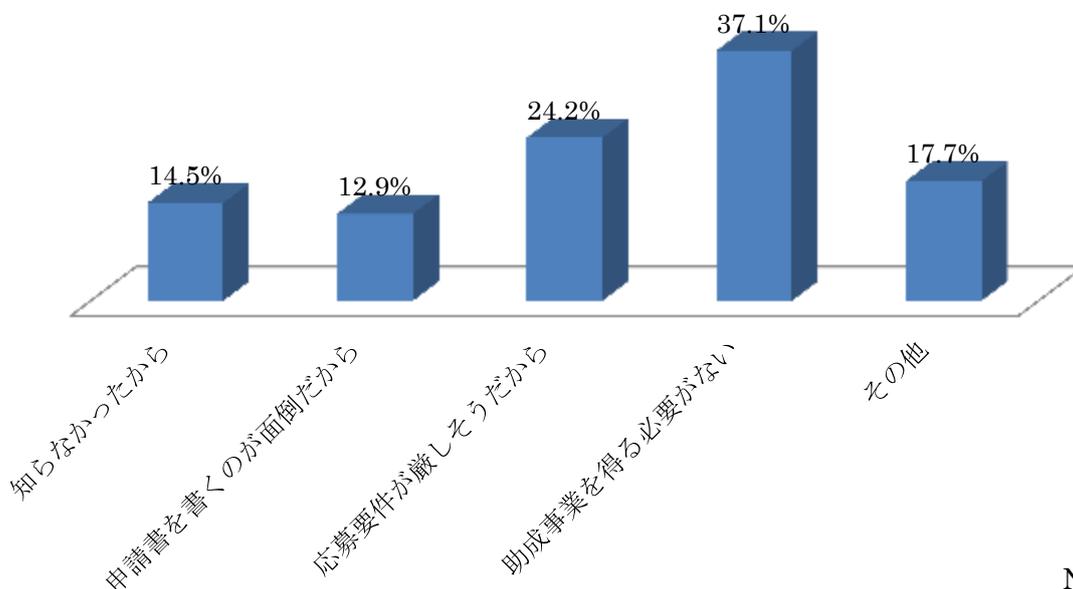
図31-1 助成事業の公募に興味がある理由



N=121

助成事業の公募に興味がない理由を制限なしの複数回答で尋ねた。「助成事業を得る必要がない」が37.1%で最も多く、以下、「応募要件が厳しそうだから」(24.2%)、「その他」(17.7%)、「知らなかったから」(14.5%)、「申請書を書くのが面倒だから」(12.9%)の順となっている(図31-2)。有効回答数は、62である。助成事業について必要性を感じないNPO等が少なくとも1割以上は存在する。団体の活動方針として助成事業に応募するニーズを持たない団体が存在するのは当然である。しかし、助成事業への応募の単なる資金面だけでないメリットを考慮に入れると、これらの組織についても、協働・連携などを通して力量を向上させる、他団体とつながりを作るなどの機会が得られるよう支援する必要がある。また、助成事業に関する情報発信を充実させて知らないという事例を減らすとともに、一般的に求められる団体としての要件を普段の活動から満たすよう取り組むことや申請書の書き方などについては、研修の機会などを通して働きかける必要がある。

図31-2 助成事業の公募に興味がない理由

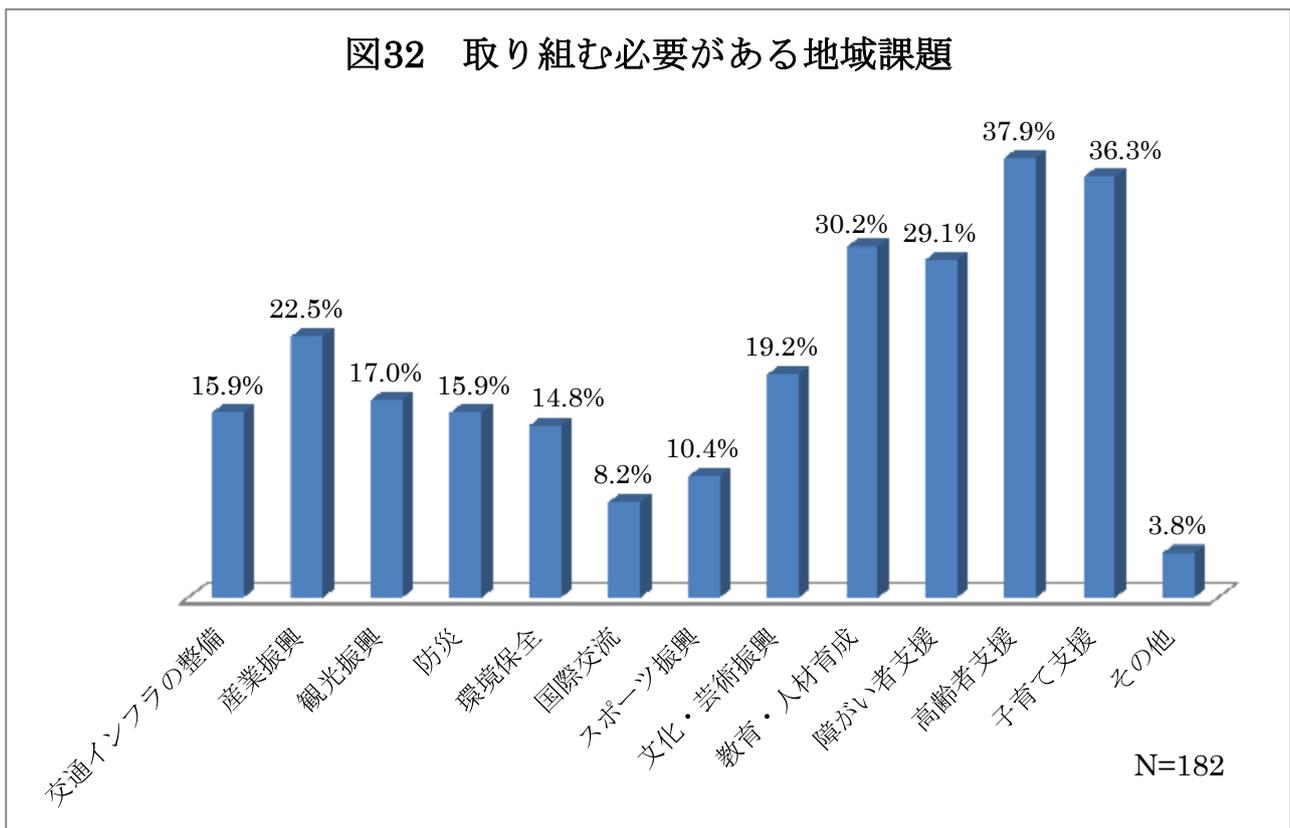


N=62

(3) 地域課題について

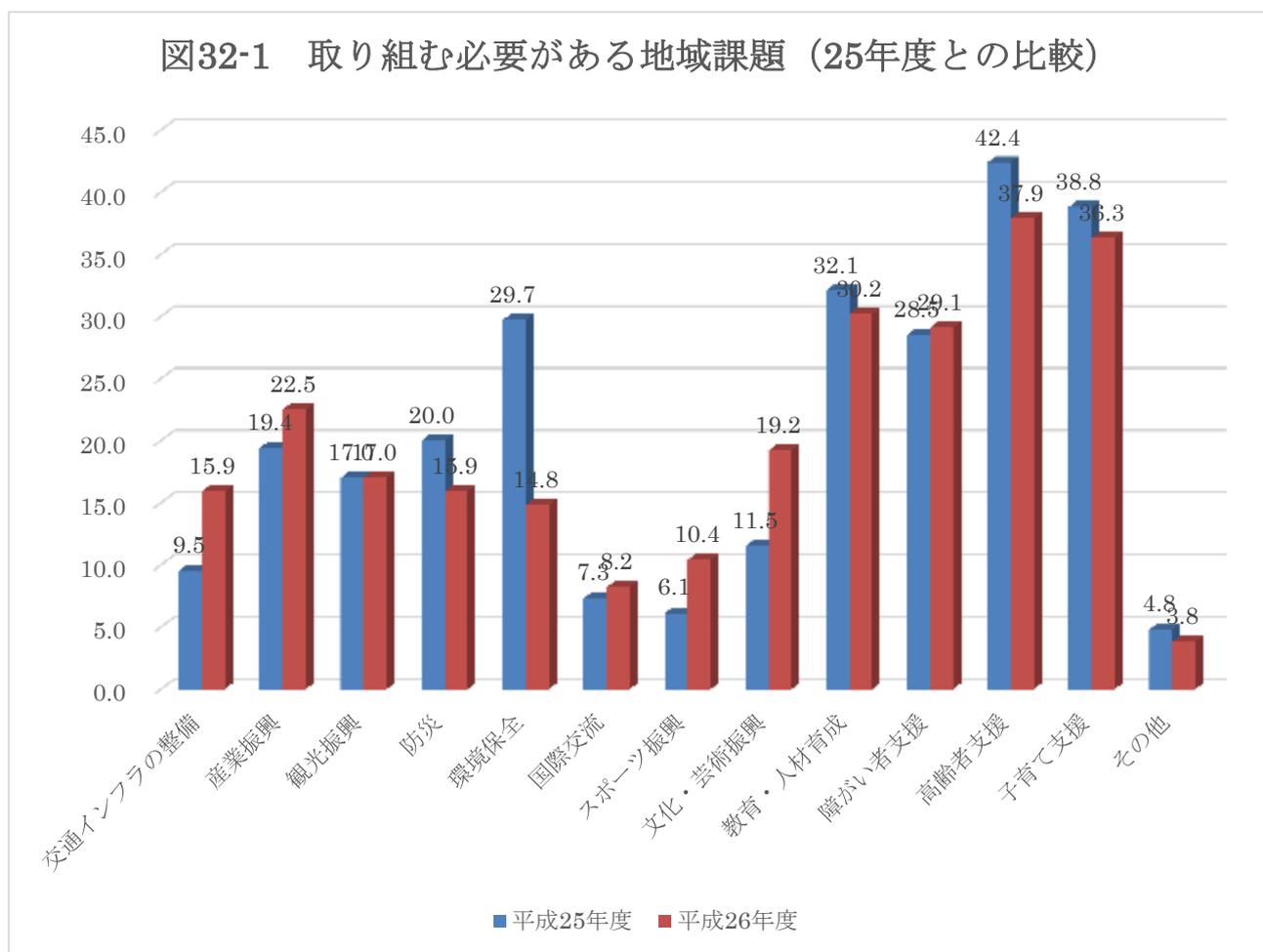
取り組む必要のある地域課題について3つまでの複数回答を得た。「高齢者支援」が37.9%ともっとも多く、以下「子育て支援」(36.3%)、「教育・人材育成」(30.2%)、「障がい者支援」(29.1%)、「産業振興」(22.5%)などとなっている(図32)。高齢者、子ども、障がい者など対象を焦点化した人づくりや支援が多くの組織に重要な地域課題ととらえられていることが分かる。教育・人材育成と合わせ、人づくりが重要な課題となっている。

他の選択肢もおおむね10%台で選択されており、NPO等全体としては、幅広い地域課題が感じられていると捉えることができる。その中で、従来NPO等としてはこれまで直接の取り組みが少なかった領域、たとえば産業振興や防災などについては、これを主たる活動領域とする団体も必要であるが、他の領域で主として活動する団体がこれらのテーマにも取り組むことによって、新しい機能を発揮することが期待される。たとえば、高齢者支援や障がい者支援に取り組むNPO等はそこで培ったネットワークを防災にも活用できると考えられるし、取り組みの中で生じる企業との協働・連携が結果的に産業振興につながることも期待される。地域課題の解決にNPO等が貢献していることを地域住民に目に見える形で情報発信していくことは、今後のNPO等の活動充実のために(資金面でも、メンバーや協力者の増加の面でも)重要な取り組みである。



取り組むべき地域課題については、平成 25 年度の「おおいた協働のまちづくり」実態調査でも同様のことを設問した。質問紙調査では、通常回答項目を並べる順番が項目の選択に一定の影響を与えると考えられることから、今年度は 25 年度調査と項目を逆順にして尋ねてみた。今年の項目の配列にあわせて 25 年度と今年度の回答結果を並べてみると、図 32-1 のようになる。有効回答数は平成 25 年度が 165、平成 26 年度が 182 である。変動の大きかった項目としては「環境保全（25 年度：29.7%→26 年度：14.8%）」、「交通インフラの整備（25 年度：9.5%→26 年度：15.9%）」、「文化・芸術振興（25 年度：11.6%→26 年度：19.2%）」などがあるが、全体としては昨年度の調査結果に近い結果が今年度も見られた。

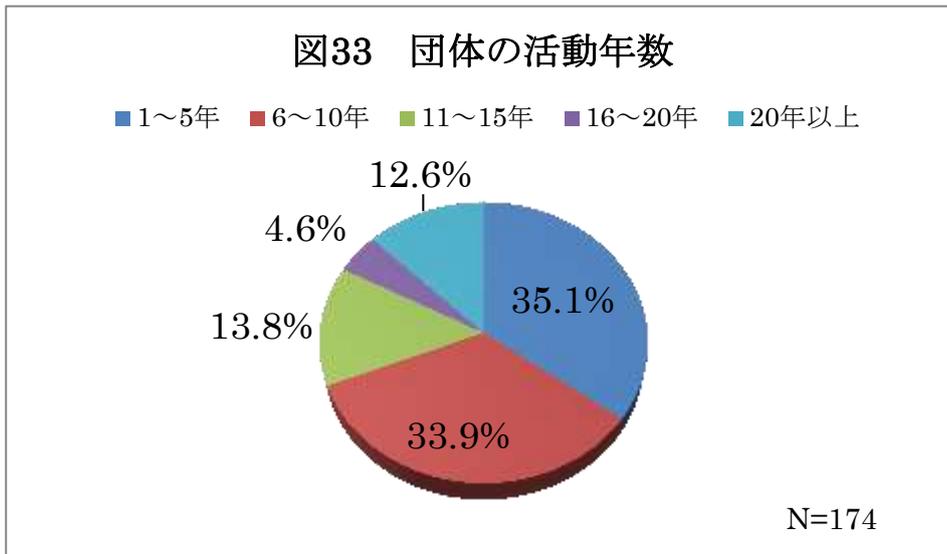
図32-1 取り組む必要がある地域課題（25年度との比較）



(4) 基礎項目について

1) 活動年数

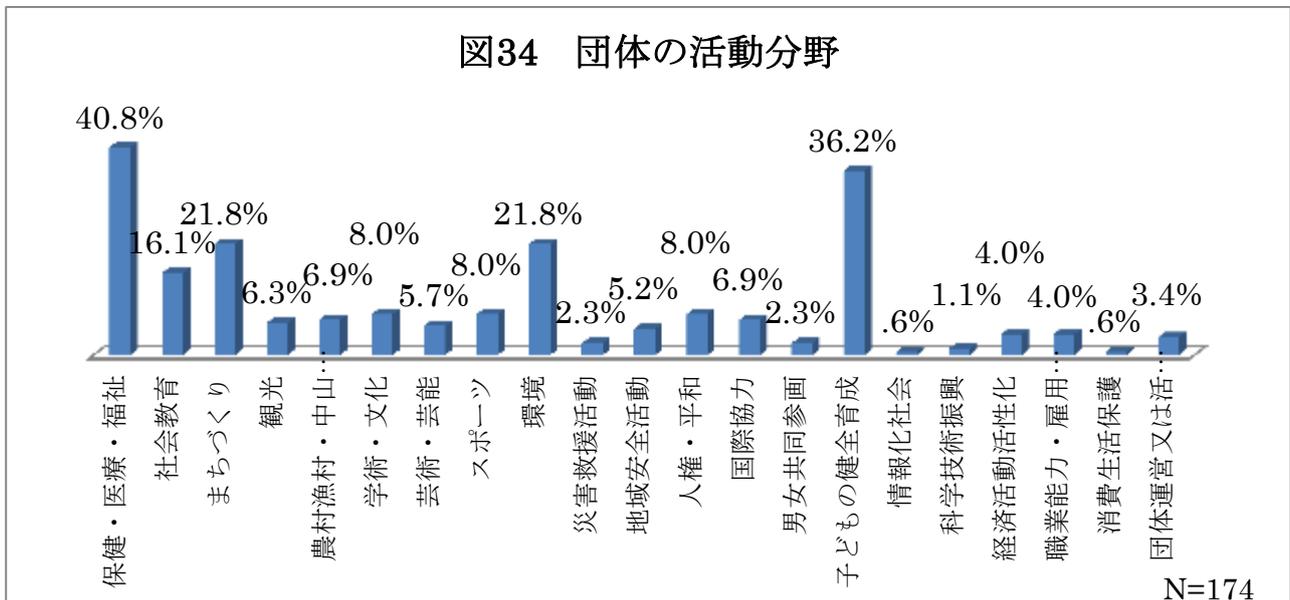
今回調査にご協力いただいた NPO 等の団体の活動年数は、図 33 の通りである。「1～5年」が 35.1% ともっとも多く、以下「6～10年 (33.9%)」、「11～15年 (13.8%)」、「20年以上 (12.6%)」、「16～20年 (4.6%)」の順となっている。全体に活動年数が短い団体が多い。NPO 法人やその前身としての任意団体の活動年数では年数の長い団体ももう少し多いことから、活動年数が長い団体においては調査への協力を何度もする中で調査への回答の意欲が低下していることも考えられる。



2) 活動分野

団体の活動分野については、3つまでの複数回答を得た。その結果が図 34 である。「保健・医療・福祉」が 40.8% ともっとも多く、以下「子どもの健全育成 (36.2%)」、「まちづくり (21.8%)」、「環境 (21.8%)」、「社会教育 (16.1%)」、「学術・文化 (8.0%)」、「スポーツ (8.0%)」等がこれに続く。全体の回答数の平均は 2.10 である。

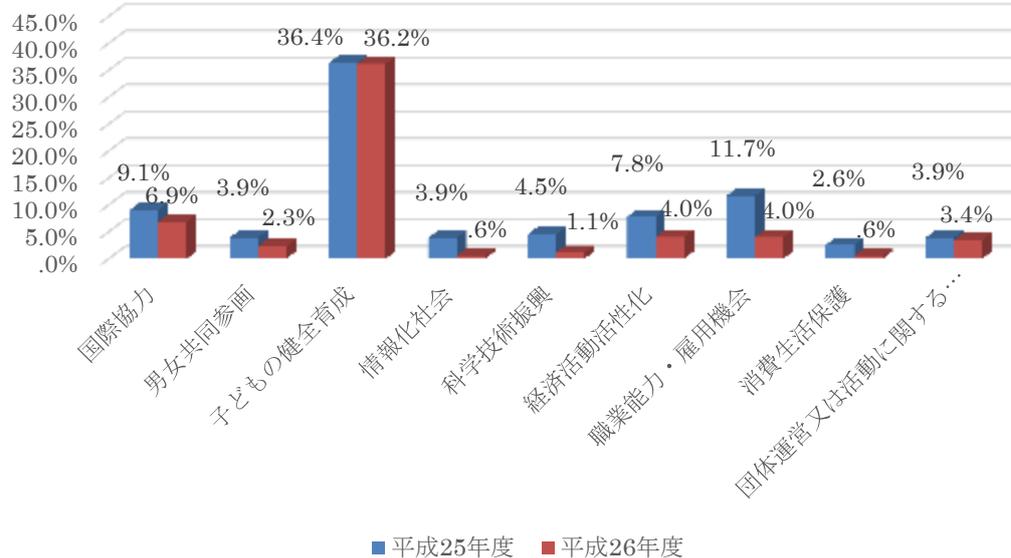
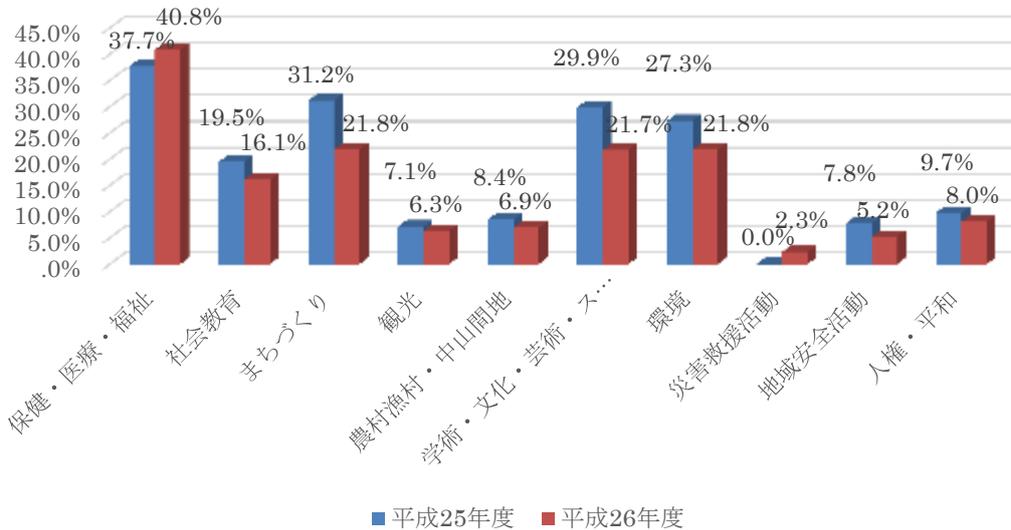
やはり保健・医療・福祉の分野で活動している団体が多く、続いては子どもの健全育成やまちづくり、社会教育などが互いに関連する領域として活発に取り組まれている傾向が読み取れる。



平成25年度調査では、「学術・文化」と「芸術・芸能」、「スポーツ」をまとめて「学術・文化・芸術・スポーツ」と設定して設問していたので、それにあわせて集計し比較すると、図34-1のようになる。

今年度は調査票の末尾で尋ねたことも影響したのか全体に選択数が減っている（25年度：2.62→26年度2.10）。特に減少が目立ったのは、「まちづくり」、「職業能力・雇用機会」、「学術・文化・芸術・スポーツ」、「環境」などである。一方、「保健・医療・福祉」はむしろ増加している。

図34-1 団体の活動分野（25年度との比較）

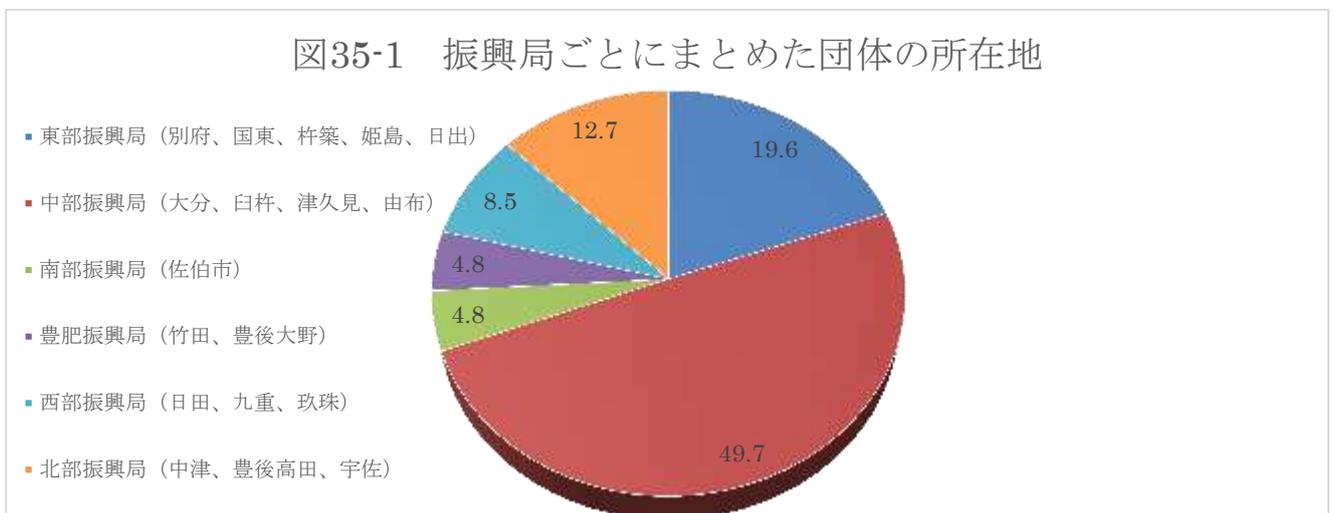


3) 所在地

団体の所在地は図 35 の通りである。「大分市」が 43.4%と 4 割強を占めている。続いて「別府市 (12.2%)」、「中津市 (6.9%)」など基本的に人口の多い自治体に NPO 等は多く所在している。中山間地では、何らかの取り組みを行う場合に、当該領域で活動している NPO 等が近くに所在していない可能性もある。県内のどこに NPO 等が所在しているかという視点とは別に、特定の領域においてどの程度 NPO 等の活動が地域をカバーしているかを地域住民 (利用者) の視点からも明らかにする必要がある。



団体の所在地を 6 振興局のエリアごとにまとめて集計すると、図 35-1 のようになる。「中部振興局」が 49.7%とほぼ半数を占める。以下「東部振興局(19.6%)」、「北部振興局(12.7%)」、「西部振興局(8.5%)」、「南部振興局 (4.8%)」、「豊肥振興局 (4.8%)」の順となっている。振興局単位で見ても、NPO 等の所在は偏っており、地域での取り組みにあたっては、広域で NPO 等を把握し紹介するなど、支援方策を講じる必要があるとみられる。



3. まとめ

平成 26 年度「おおいた協働のまちづくり」に関する実態調査「NPO 活動の支援について」は、NPO 等の活動を支援するために、NPO 等がどのようなことで困っており、それに対してどのような支援を行う必要があるかを検討するために、調査を行う領域を焦点化して実施した。その結果、以下の事項が明らかになった。

○団体が困っていること

団体が困っている率が高かったのは、「団体の運営方法に関する困り事」の中の「資金不足」、「資金確保の継続的安定化」、「寄附金が集まらない」などの資金的な問題であった。また、「人手、人材に関する困り事」の中の「スタッフの人数が不足」、「会員、仲間が増えない」、「力量の高いスタッフが不足」などスタッフや会員の確保も困っている団体が多かった。

資金面の問題も、スタッフや会員の確保も、団体にとって切実な問題であり、支援の取り組みによって、そう簡単に解決できる問題でもない。資金面の問題だけをとって、行政の委託・補助事業の実施や企業の助成事業、NPO 等の取り組みのソーシャル・ビジネス化、ソーシャル・ファンドの形成など様々な取り組みを並行して行い組み合わせしていく必要のある複合的な問題である。今回の調査結果を受け、NPO 等の困り事が深刻なこれらの問題に対してどのような支援方策を（適切に組み合わせながら）講じていくかを検討していく必要がある。

今回の団体が困っていることの分析からは、あることについて困っている団体は他のことについても困っている、言い換えれば活発に活動する中で様々な困り事を実感している団体もあれば、特に困り事を感じていない団体もあるという傾向を読み取ることができた。このことから、一方では、様々な困り事に直面している団体がそれらを解決していけるよう個々の問題ごとにあるいはそれらを組み合わせで解決することを支援する取り組みが必要である。他方、現状では特に困り事を感じていない団体についても、活動のさらなる充実や発展に向けて、気づいていない困り事を発見しその解決の取り組みを通して団体の力量を向上させるような支援も必要である。

○協働・連携について

協働・連携が必要であるという回答が 7 割以上を占め、全体的に協働・連携の必要性が広く認知されていると考えられる。しかし、昨年度調査によれば、実際に協働・連携経験がある団体は約 6 割にとどまっている。協働・連携のニーズはあるのに実際に行ったことはない団体の支援は当面の重要課題であろう。協働・連携は「互いのスキルの向上」や「苦手な分野を補う」ために行うと意識している団体が多く、協働・連携先としてはやはり行政が強く意識されているが、企業との協働・連携ニーズも高く多様な相手と多様な協働・連携を行うよう支援する必要がある。

○情報の収集・発信について

おおいた NPO 情報バンク「おんぼ」を利用する NPO 等は 6 割に達している。しかし、利用頻度はあまり高いとはいえないことも考え合わせると、「おんぼ」の利用を一層促進するような取り組みを行うことにより、NPO 等の情報がより多様により利用しやすい形で収集され発信されることが望まれる。

情報の収集・発信に際しては、インターネットだけに偏ることなく、いろんなチャンネルから情報を収集し、いろんなチャンネルを通して情報発信していくことが有効と考えられる。様々なメディアをより有効に使いこなす方法について検討や情報共有が必要である。

○おおいたボランティア・NPOセンターについて

半数近いNPO等がボランティア・NPOセンターを利用したことがあり、講座・セミナーや情報の収集、出張相談所への参加などの形でセンターが利用されている。今後も助成金の獲得など団体のニーズに沿って、講座の開催をはじめ様々な支援方策が講じられることが期待される。しかし、その一方で、運営アドバイザー派遣や講座・セミナーの受講などについては、高い料金を払ってもというニーズは低く、無料もしくはそれに近い形でなければ活発な利用は望めそうにないという厳しい現状も確認された。

○めじろん共創応援基金について

基金の認知は8割近くに達し、基金が実施する助成事業の公募にも7割近くの団体が興味を示すなど、めじろん共創応援基金が広く知られその活動にも関心が持たれつつあることがうかがえた。一方助成事業に興味がある最大の理由は現状では資金の獲得であり、基金の取り組みに関わる多様なメリットをさらに広く発信していく必要がある。

○地域課題について

取り組む必要のある地域課題については、「高齢者支援」、「子育て支援」、「教育・人材育成」、「障がい者支援」など多様な問題について幅広い関心があることが確認された。これらの地域課題に複合的に取り組む（たとえば、子育て支援と高齢者支援を重ね合わせ双方にメリットがあるような取り組み）ことも必要であろう。

今回の調査では、NPO等の団体が困っていることを明らかにし、その支援方策を検討することを重点的な目的として調査を設計した。その結果明らかになった資金面や人員面の課題はそう簡単に解決できる課題ではないが、様々な支援方策を講じ、またそれらを組み合わせて有効な支援方策を展開していく必要がある。

4. 資料

(1) 調査票

平成 26 年度「おおいた協働のまちづくり」に関する実態調査

本年度アンケートのテーマ「NPO活動の支援について」

【提出】平成 25 年 6 月 25 日(水)までに、メール: search@mejiron.org、FAX:097-555-9771、
または同封の「返信用封筒」で返信、投函して下さい。

1. 支援の内容 について

問1 貴団体の現状についてお尋ねします。

以下の各事項について、どの程度お困りかを1~4まで1つ選んで○で囲んで下さい。

(1) 「団体の運営方法」について

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない
a. 事業報告書等の書類の書き方がわからない ⇒	1	2	3	4
b. 経理の仕方がわからない ⇒	1	2	3	4
c. 労務管理の仕方がわからない ⇒	1	2	3	4
d. 資金が不足している ⇒	1	2	3	4
e. 資金の確保が継続して安定化しない ⇒	1	2	3	4
f. 寄附金が集まらない ⇒	1	2	3	4
g. 会員が高齢で活動を続けられない ⇒	1	2	3	4
h. その他(内容:) ⇒	1	2	3	4

(2) 「人手、人材」について

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない
a. 力量の高いスタッフが不足している ⇒	1	2	3	4
b. スタッフの人数が不足している ⇒	1	2	3	4
c. 会員、仲間が増えない ⇒	1	2	3	4
d. 気軽に相談できるメンバーがない ⇒	1	2	3	4
e. その他(内容:) ⇒	1	2	3	4

(3) 「施設、設備」について

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない
a. 事務所が確保できない ⇒	1	2	3	4
b. 活動場所が確保できない ⇒	1	2	3	4
c. 機材・道具の不足(内容:) ⇒	1	2	3	4
d. その他(内容:) ⇒	1	2	3	4

(4) 「情報の収集、発信」について

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない
a. インターネットの使い方がわからない ⇒	1	2	3	4
b. 宣伝・広報の仕方がわからない ⇒	1	2	3	4
c. イベント等に人が集まらない ⇒	1	2	3	4
d. その他(内容:) ⇒	1	2	3	4

(5) 「他との協働、連携」について

	困っている	少し 困っている	あまり 困っていない	困っていない
a. 他のNPO団体と協働、連携できない	→ 1	2	3	4
b. 行政と協働、連携できない	→ 1	2	3	4
c. 企業と協働、連携できない	→ 1	2	3	4
d. ボランティア派遣の仲介をしてほしい	→ 1	2	3	4
e. 物品提供の仲介をしてほしい	→ 1	2	3	4
f. 他団体や企業の紹介をしてほしい	→ 1	2	3	4
g. その他（内容： ）	→ 1	2	3	4

問2 「他のNPO団体」との協働、連携は必要だと思いますか？

1. 必要である 2. 必要ない

↓

「1. 必要である」と答えた方、理由を教えてください。（3つまで可）

- a. 互いのスキルの向上 b. 苦手な分野を補う c. 人手を提供して欲しい d. 専門者、経験者の派遣
e. 場所を提供して欲しい f. 物資・道具を提供して欲しい g. その他（ ）

問3 「行政」との協働、連携は必要だと思いますか？

1. 必要である 2. 必要ない

↓

「1. 必要である」と答えた方、理由を教えてください。（3つまで可）

- a. 団体の信用性の向上 b. 資金の獲得 c. 人手を提供して欲しい d. 専門者、経験者の派遣
e. 場所を提供して欲しい f. 物資・道具を提供して欲しい g. その他（ ）

問4 「企業」との協働、連携は必要だと思いますか？

1. 必要である 2. 必要ない

↓

「1. 必要である」と答えた方、理由を教えてください。（3つまで可）

- a. 団体の信用性の向上 b. 資金の獲得 c. 人手を提供して欲しい d. 専門者、経験者の派遣
e. 場所を提供して欲しい f. 物資・道具を提供して欲しい g. その他（ ）

問5 大分県では、NPOに関する助成金やイベント、セミナーに関する情報を「おいたNPO情報バンク『おんぼ』」で発信しています。『おんぼ』を利用したことがありますか？

1. はい、利用したことがあります。

2. いいえ、利用したことはありません。

↓

「1. はい」と答えた方

どの程度『おんぼ』を利用していますか？

- a. よく利用する
b. 時々利用する
c. あまり利用しない

↓

「2. いいえ」と答えた方

利用したことがない理由を教えてください

- a. 知らなかったから
b. インターネットの使い方がわからないから
c. インターネットを利用する機器がないから
d. その他（内容： ）

問6 活動に必要な「情報を収集」する際、詳しい情報を調べるには主にどのような方法を利用しますか？ 1つ選んで○で囲んで下さい。

1. 中間支援組織に聞く（※中間支援組織：地域や行政、企業等の間に立ってNPOを支援する組織）
2. 周囲の人や団体に聞く 3. 役所窓口に行く 4. インターネットを利用する 5. その他（内容： ）

(2) 調査結果集計

1. 支援の内容 について

問1 貴団体の現状についてお尋ねします。

以下の各事項について、どの程度お困りかを1~4まで1つ選んで○で囲んで下さい。

(1)「団体の運営方法」について

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない
a. 事業報告書等の書類の書き方がわからない ⇒	1	2	3	4
b. 経理の仕方がわからない ⇒	1	2	3	4
c. 労務管理の仕方がわからない ⇒	1	2	3	4
d. 資金が不足している ⇒	1	2	3	4
e. 資金の確保が継続して安定化しない ⇒	1	2	3	4
f. 寄附金が集まらない ⇒	1	2	3	4
g. 会員が高齢で活動を続けられない ⇒	1	2	3	4
h. その他(内容:) ⇒	1	2	3	4

a. 事業報告書等の書類の書き方がわからない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	3	1.5	1.6
少し困っている	41	21.0	22.4
あまり困っていない	61	31.3	33.3
困っていない	78	40.0	42.6
合計	183	93.8	100.0
欠損値 .00	12	6.2	
合計	195	100.0	

b. 経理の仕方がわからない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	7	3.6	3.7
少し困っている	45	23.1	24.1
あまり困っていない	63	32.3	33.7
困っていない	72	36.9	38.5
合計	187	95.9	100.0
欠損値 .00	8	4.1	
合計	195	100.0	

c. 労務管理の仕方がわからない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	9	4.6	4.9
少し困っている	39	20.0	21.3
あまり困っていない	57	29.2	31.1
困っていない	78	40.0	42.6
合計	183	93.8	100.0
欠損値 .00	12	6.2	
合計	195	100.0	

d. 資金が不足している

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	60	30.8	31.6
少し困っている	65	33.3	34.2
あまり困っていない	33	16.9	17.4
困っていない	32	16.4	16.8
合計	190	97.4	100.0
欠損値 .00	5	2.6	
合計	195	100.0	

e. 資金の確保が継続して安定化しない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	53	27.2	28.2
少し困っている	69	35.4	36.7
あまり困っていない	33	16.9	17.6
困っていない	33	16.9	17.6
合計	188	96.4	100.0
欠損値 .00	7	3.6	
合計	195	100.0	

f. 寄附金が集まらない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	46	23.6	25.1
少し困っている	69	35.4	37.7
あまり困っていない	36	18.5	19.7
困っていない	32	16.4	17.5
合計	183	93.8	100.0
欠損値 -1.00	1	.5	
.00	11	5.6	
合計	12	6.2	
合計	195	100.0	

g. 会員が高齢で活動を続けられない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	9	4.6	4.8
少し困っている	47	24.1	25.3
あまり困っていない	63	32.3	33.9
困っていない	67	34.4	36.0
合計	186	95.4	100.0
欠損値 -1.00	1	.5	
.00	8	4.1	
合計	9	4.6	
合計	195	100.0	

h. その他（内容： ）

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	4	2.1	23.5
少し困っている	2	1.0	11.8
あまり困っていない	5	2.6	29.4
困っていない	6	3.1	35.3
合計	17	8.7	100.0
欠損値 .00	178	91.3	
合計	195	100.0	

（内容）

外国人へ参加呼びかけ

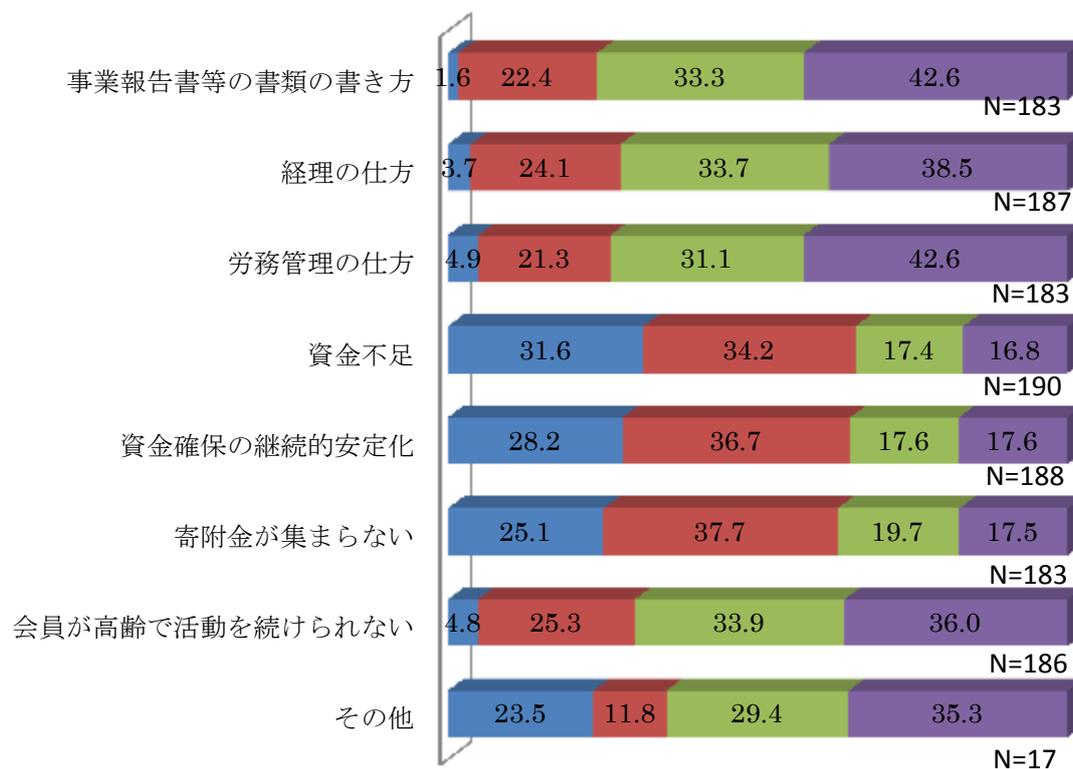
法人市民税負担が重く、活動資金がない(法人市民税 3 年分未申告、決算等 3 年分未提出)

人材確保、育成

市との関係

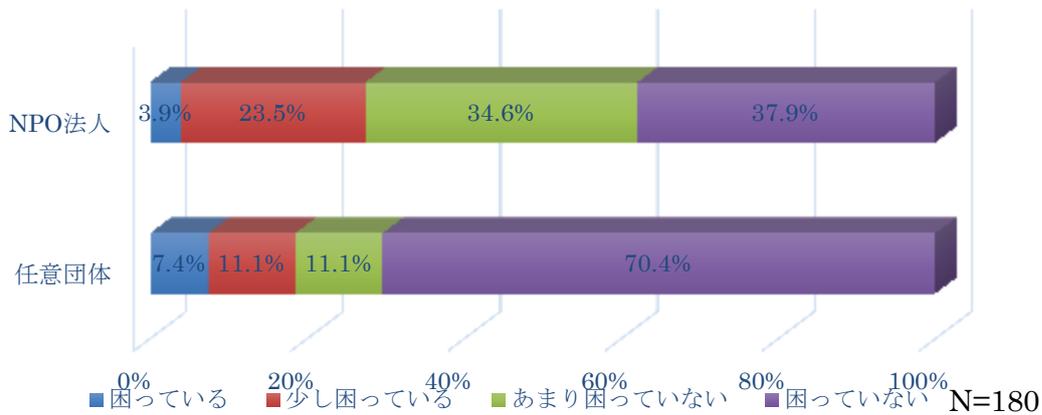
問1 (1) 団体の運営方法に関する困り

■ 困っている ■ 少し困っている ■ あまり困っていない ■ 困っていない



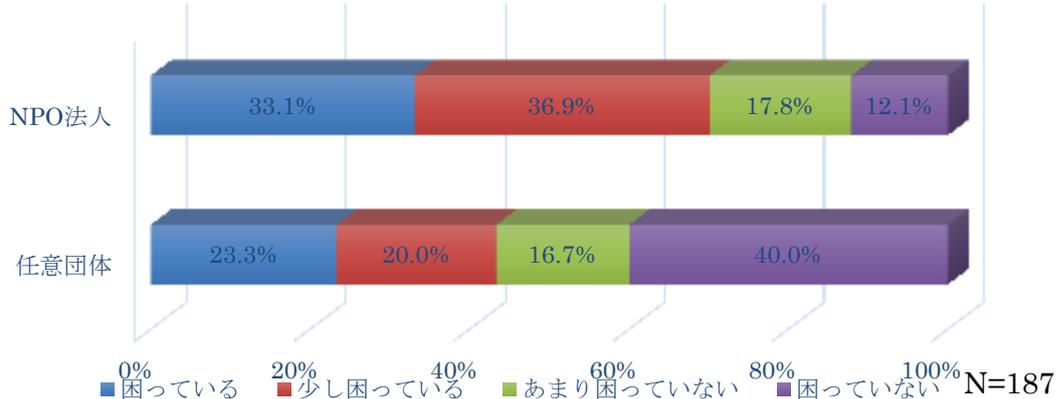
			Q11c#労務管理				合計
			1.00	2.00	3.00	4.00	
Q0	1	度数	6	36	53	58	153
		Q0 の %	3.9%	23.5%	34.6%	37.9%	100.0%
	2	度数	2	3	3	19	27
		Q0 の %	7.4%	11.1%	11.1%	70.4%	100.0%
合計		度数	9	39	57	78	183
		Q0 の %	4.9%	21.3%	31.1%	42.6%	100.0%

図2-1 法人化の有無別にみた労務管理の仕方



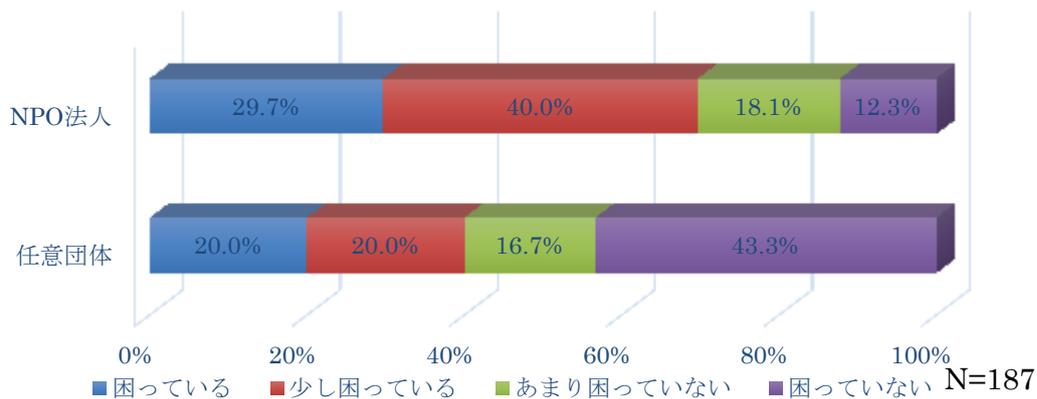
			Q11d#資金不足				合計
			1.00	2.00	3.00	4.00	
Q0	1	度数	52	58	28	19	157
		Q0 の %	33.1%	36.9%	17.8%	12.1%	100.0%
	2	度数	7	6	5	12	30
		Q0 の %	23.3%	20.0%	16.7%	40.0%	100.0%
合計		度数	60	65	33	32	190
		Q0 の %	31.6%	34.2%	17.4%	16.8%	100.0%

図2-2 法人化の有無別にみた資金の不足



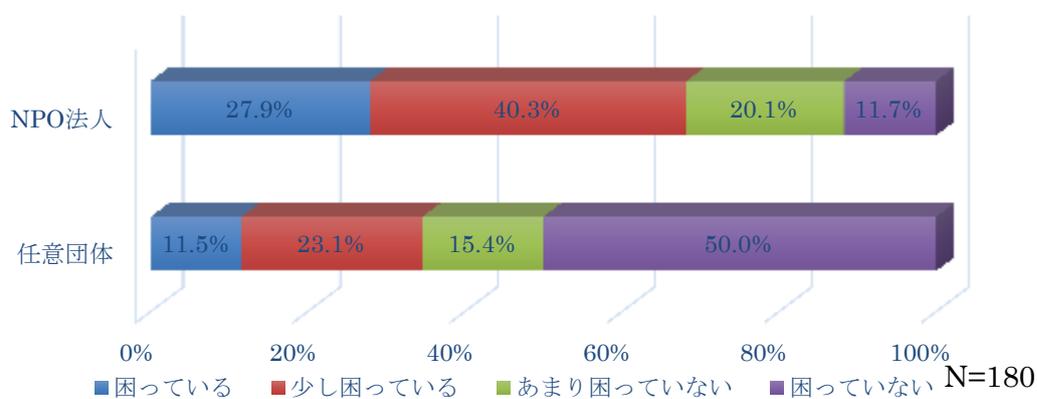
			Q11e#資金安定化				合計
			1.00	2.00	3.00	4.00	
Q0	1	度数	46	62	28	19	155
		Q0 の %	29.7%	40.0%	18.1%	12.3%	100.0%
	2	度数	6	6	5	13	30
		Q0 の %	20.0%	20.0%	16.7%	43.3%	100.0%
合計		度数	53	69	33	33	188
		Q0 の %	28.2%	36.7%	17.6%	17.6%	100.0%

図2-3 法人化の有無別にみた資金の安定化



			Q11f#寄附金				合計
			1.00	2.00	3.00	4.00	
1	度数	43	62	31	18	154	
	Q0 の %	27.9%	40.3%	20.1%	11.7%	100.0%	
2	度数	3	6	4	13	26	
	Q0 の %	11.5%	23.1%	15.4%	50.0%	100.0%	
合計	度数	46	69	36	32	183	
	Q0 の %	25.1%	37.7%	19.7%	17.5%	100.0%	

図2-4 法人化の有無別にみた寄附金



(2) 「人手、人材」について

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない
a. 力量の高いスタッフが不足している	⇒ 1	2	3	4
b. スタッフの人数が不足している	⇒ 1	2	3	4
c. 会員、仲間が増えない	⇒ 1	2	3	4
d. 気軽に相談できるメンバーがいない	⇒ 1	2	3	4
e. その他（内容：)	⇒ 1	2	3	4

a. 力量の高いスタッフが不足している

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	28	14.4	14.7
少し困っている	58	29.7	30.5
あまり困っていない	61	31.3	32.1
困っていない	43	22.1	22.6
合計	190	97.4	100.0
欠損値 .00	5	2.6	
合計	195	100.0	

b. スタッフの人数が不足している

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	31	15.9	16.1
少し困っている	77	39.5	40.1
あまり困っていない	47	24.1	24.5
困っていない	37	19.0	19.3
合計	192	98.5	100.0
欠損値 .00	3	1.5	
合計	195	100.0	

c. 会員、仲間が増えない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	34	17.4	17.7
少し困っている	60	30.8	31.3
あまり困っていない	62	31.8	32.3
困っていない	36	18.5	18.8
合計	192	98.5	100.0
欠損値 .00	3	1.5	
合計	195	100.0	

d. 気軽に相談できるメンバーがいない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	6	3.1	3.2
少し困っている	31	15.9	16.8
あまり困っていない	72	36.9	38.9
困っていない	76	39.0	41.1
合計	185	94.9	100.0
欠損値 .00	10	5.1	
合計	195	100.0	

e. その他（内容： ）

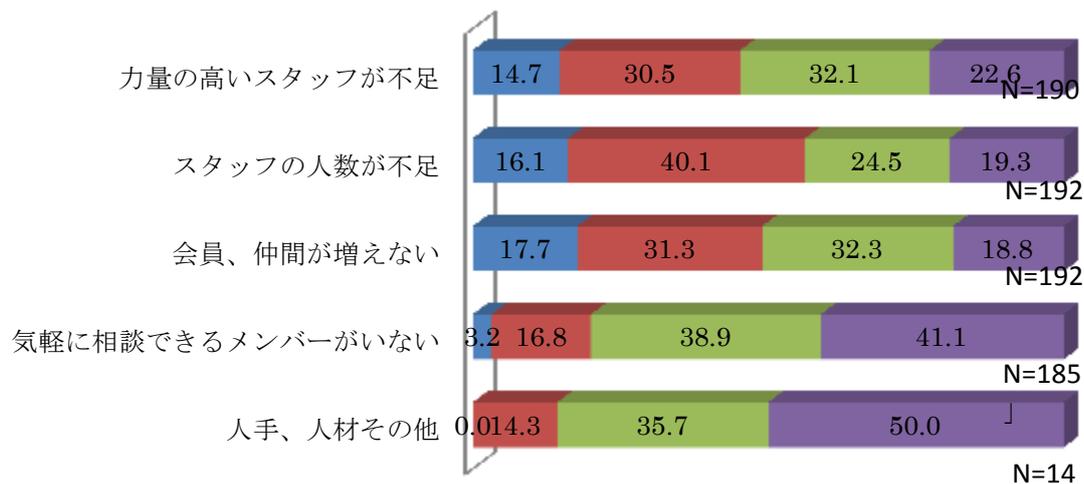
		度数	パーセント	有効パーセント
困っている		0		0.0
有効数	少し困っている	2	1.0	14.3
	あまり困っていない	5	2.6	35.7
	困っていない	7	3.6	50.0
	合計	14	7.2	100.0
欠損値	.00	181	92.8	
合計		195	100.0	

（内容）

参加外国人が増えない
メンバーの良さをどう引き出すのか

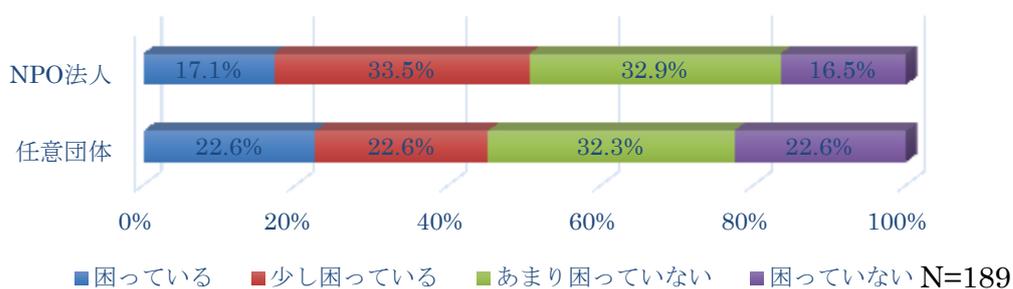
問1 (2) 人手、人材に関する困り

■ 困っている ■ 少し困っている ■ あまり困っていない ■ 困っていない



		Q12c#会員仲間				合計
		1.00	2.00	3.00	4.00	
1	度数	27	53	52	26	158
	Q0 の %	17.1%	33.5%	32.9%	16.5%	100.0%
2	度数	7	7	10	7	31
	Q0 の %	22.6%	22.6%	32.3%	22.6%	100.0%
合計	度数	34	60	62	36	192
	Q0 の %	17.7%	31.3%	32.3%	18.8%	100.0%

法人化の有無別にみた会員・仲間の増加



(3)「施設、設備」について

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない
a. 事務所が確保できない	⇒ 1	2	3	4
b. 活動場所が確保できない	⇒ 1	2	3	4
c. 機材・道具の不足（内容： ）	⇒ 1	2	3	4
d. その他（内容： ）	⇒ 1	2	3	4

a. 事務所が確保できない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	16	8.2	8.5
少し困っている	29	14.9	15.3
あまり困っていない	42	21.5	22.2
困っていない	102	52.3	54.0
合計	189	96.9	100.0
欠損値 .00	6	3.1	
合計	195	100.0	

b. 活動場所が確保できない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	9	4.6	4.8
少し困っている	31	15.9	16.6
あまり困っていない	51	26.2	27.3
困っていない	96	49.2	51.3
合計	187	95.9	100.0
欠損値 -1.00	2	1.0	
.00	6	3.1	
合計	8	4.1	
合計	195	100.0	

c. 機材・道具の不足（内容： ）

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	21	10.8	11.3
少し困っている	44	22.6	23.7
あまり困っていない	61	31.3	32.8
困っていない	60	30.8	32.3
合計	186	95.4	100.0
欠損値 .00	9	4.6	
合計	195	100.0	

(内容)

d. その他（内容： ）

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	1	.5	5.9
少し困っている	3	1.5	17.6
あまり困っていない	4	2.1	23.5
困っていない	9	4.6	52.9
合計	17	8.7	100.0
欠損値 .00	178	91.3	
合計	195	100.0	

（内容）

駐車場の確保

倉庫等

コピー機、障がいを持つ人が施錠できる自動ドアの鍵の工事

車両の確保

事務所の不明、利用者使用の療育器具

改築中

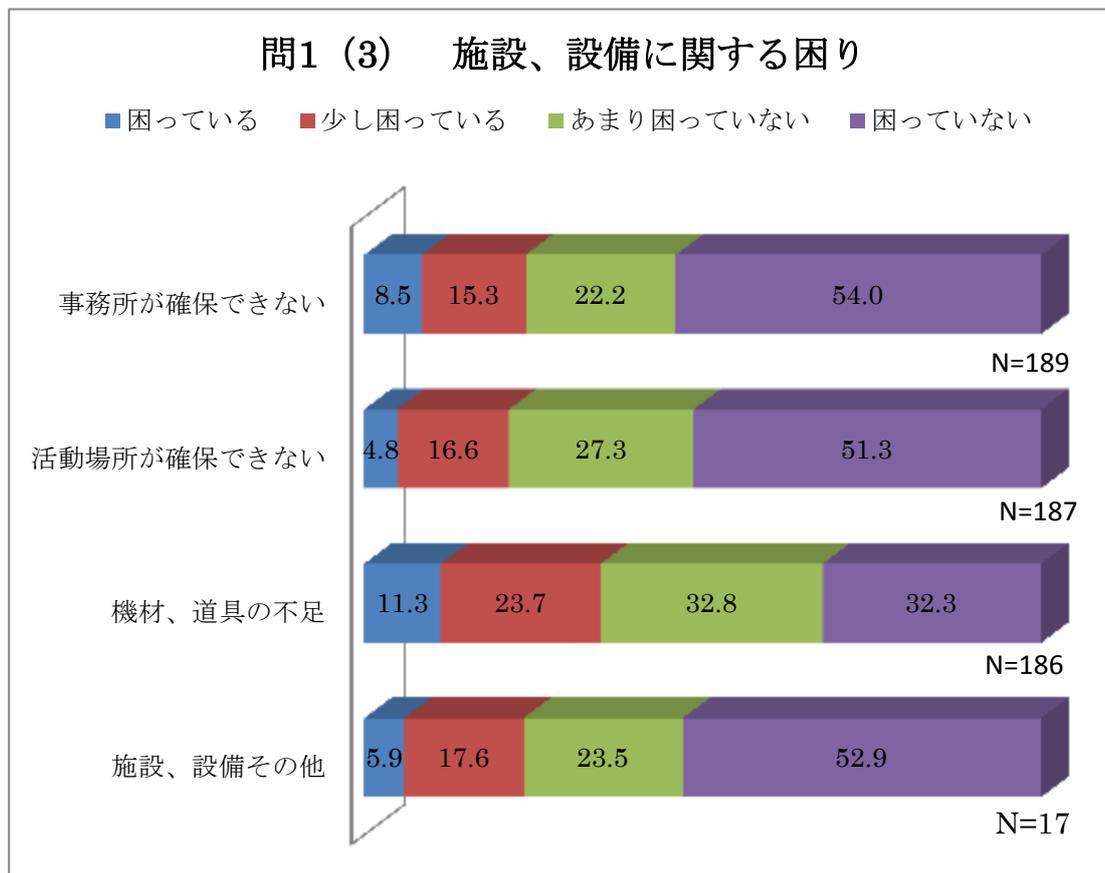
事務所が狭い

会専用のパソコンプロジェクター

情報の提供

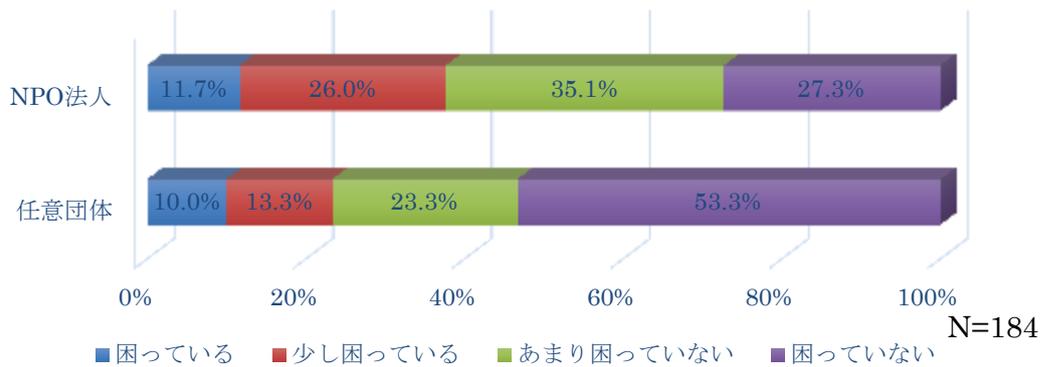
必要な PC ソフトを購入したい

車、掃除道具



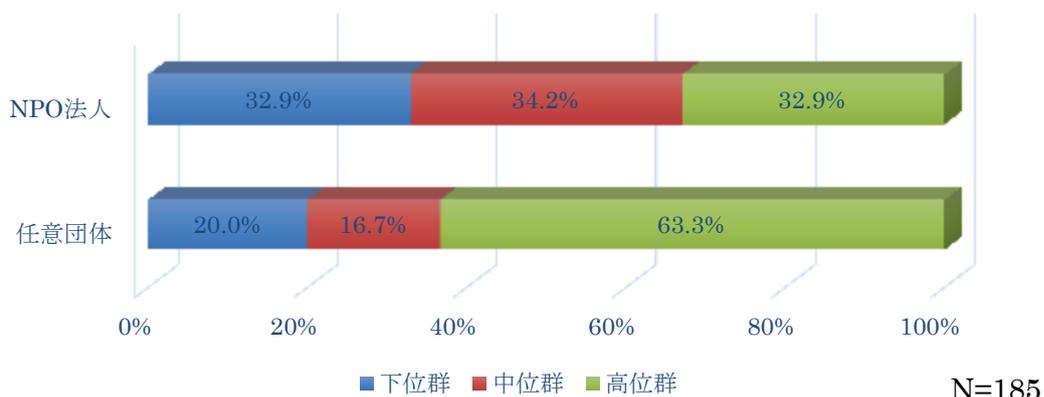
		Q13c#機材道具				合計
		1.00	2.00	3.00	4.00	
1	度数	18	40	54	42	154
	Q0 の %	11.7%	26.0%	35.1%	27.3%	100.0%
2	度数	3	4	7	16	30
	Q0 の %	10.0%	13.3%	23.3%	53.3%	100.0%
合計	度数	21	44	61	60	186
	Q0 の %	11.3%	23.7%	32.8%	32.3%	100.0%

図4-1 法人化の有無別にみた機材・道具の不足



		Q13group			合計
		1.00	2.00	3.00	
1	度数	51	53	51	155
	Q0 の %	32.9%	34.2%	32.9%	100.0%
2	度数	6	5	19	30
	Q0 の %	20.0%	16.7%	63.3%	100.0%
合計	度数	58	59	71	188
	Q0 の %	30.9%	31.4%	37.8%	100.0%

図4-2 法人化の有無別にみた「施設・設備」の困り



(4)「情報の収集、発信」について

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない
a. インターネットの使い方がわからない	⇒ 1	2	3	4
b. 宣伝・広報の仕方がわからない	⇒ 1	2	3	4
c. イベント等に人が集まらない	⇒ 1	2	3	4
d. その他（内容：)	⇒ 1	2	3	4

a. インターネットの使い方がわからない

	度数	パーセント	有効パーセント
困っている	0		
有効数 少し困っている	28	14.4	15.1
あまり困っていない	58	29.7	31.2
困っていない	100	51.3	53.8
合計	186	95.4	100.0
欠損値 .00	9	4.6	
合計	195	100.0	

b. 宣伝・広報の仕方がわからない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	5	2.6	2.7
少し困っている	47	24.1	25.0
あまり困っていない	64	32.8	34.0
困っていない	72	36.9	38.3
合計	188	96.4	100.0
欠損値 .00	7	3.6	
合計	195	100.0	

c. イベント等に人が集まらない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	11	5.6	5.9
少し困っている	59	30.3	31.4
あまり困っていない	59	30.3	31.4
困っていない	59	30.3	31.4
合計	188	96.4	100.0
欠損値 .00	7	3.6	
合計	195	100.0	

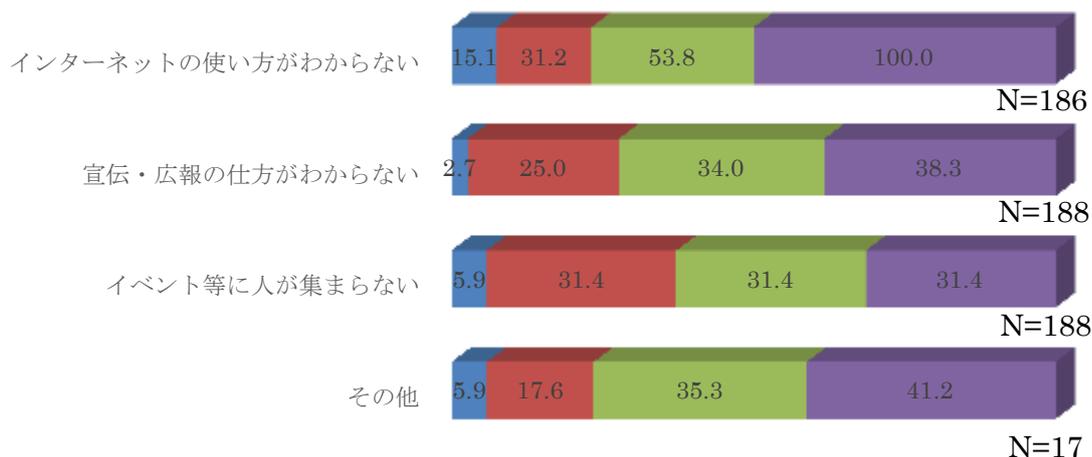
d. その他（内容：)

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	1	.5	5.9
少し困っている	3	1.5	17.6
あまり困っていない	6	3.1	35.3
困っていない	7	3.6	41.2
合計	17	8.7	100.0
欠損値 .00	178	91.3	
合計	195	100.0	

(内容)
 広報紙の編集
 会報の発行など
 障がい者の雇用
 メンバーの視野を広げること

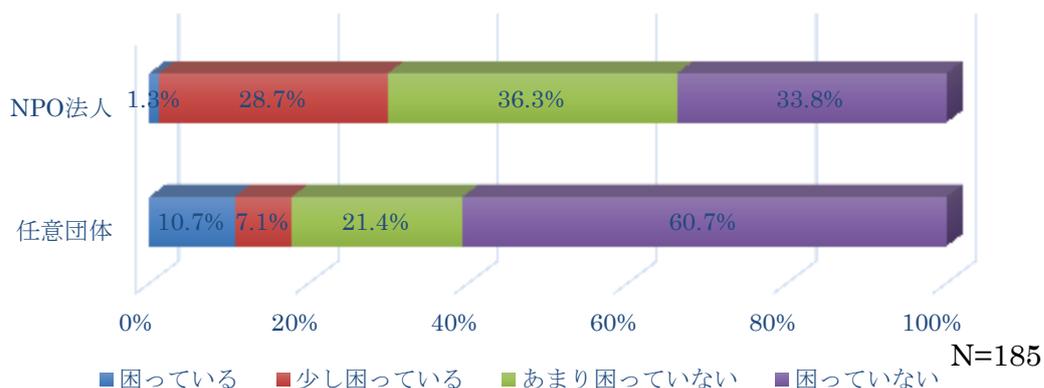
問1 (4) 情報の収集、発信に関する困り

■ 困っている ■ 少し困っている ■ あまり困っていない ■ 困っていない



		Q14b#宣伝広報				合計
		1.00	2.00	3.00	4.00	
1	度数	2	45	57	53	157
	Q0 の %	1.3%	28.7%	36.3%	33.8%	100.0%
2	度数	3	2	6	17	28
	Q0 の %	10.7%	7.1%	21.4%	60.7%	100.0%
合計	度数	5	47	64	72	188
	Q0 の %	2.7%	25.0%	34.0%	38.3%	100.0%

図5-1 法人化の有無別にみた宣伝・広報の仕方



d. ボランティア派遣の仲介をしてほしい

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	7	3.6	3.8
少し困っている	25	12.8	13.7
あまり困っていない	81	41.5	44.3
困っていない	70	35.9	38.3
合計	183	93.8	100.0
欠損値 -1.00	1	.5	
.00	11	5.6	
合計	12	6.2	
合計	195	100.0	

e. 物品提供の仲介をしてほしい

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	11	5.6	6.0
少し困っている	39	20.0	21.2
あまり困っていない	75	38.5	40.8
困っていない	59	30.3	32.1
合計	184	94.4	100.0
欠損値 -1.00	1	.5	
.00	10	5.1	
合計	11	5.6	
合計	195	100.0	

f. 他団体や企業の紹介をしてほしい

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	15	7.7	8.2
少し困っている	40	20.5	21.9
あまり困っていない	69	35.4	37.7
困っていない	59	30.3	32.2
合計	183	93.8	100.0
欠損値 -1.00	1	.5	
.00	11	5.6	
合計	12	6.2	
合計	195	100.0	

g. その他（内容：）

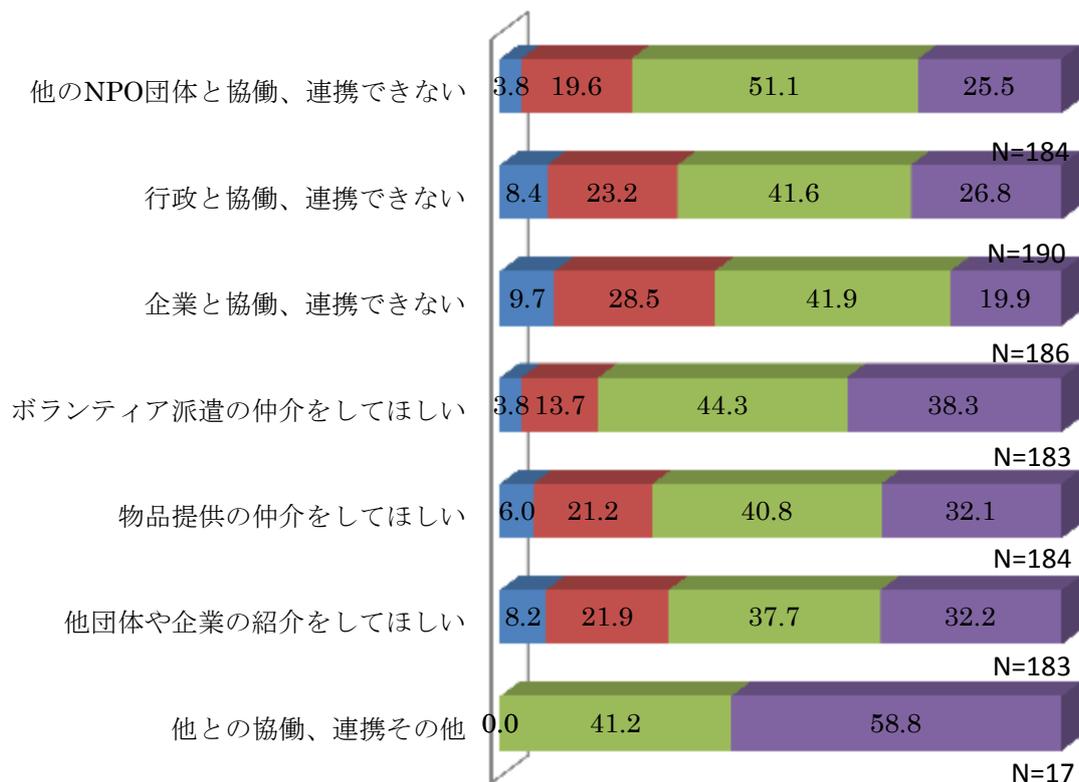
	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 困っている	0	0.0	0.0
少し困っている	0	0.0	0.0
あまり困っていない	7	3.6	41.2
困っていない	10	5.1	58.8
合計	17	8.7	100.0
欠損値 -1.00	1	.5	
.00	177	90.8	
合計	178	91.3	
合計	195	100.0	

（内容）

会の活動がまだそこまで行っていないように思います
他との協働、連携はなし

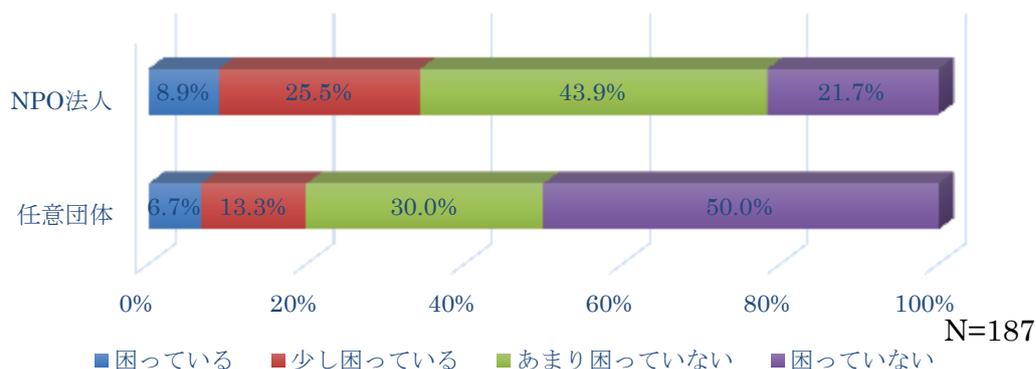
問1 (5) 他との協働、連携に関する困り

■ 困っている ■ 少し困っている ■ あまり困っていない ■ 困っていない



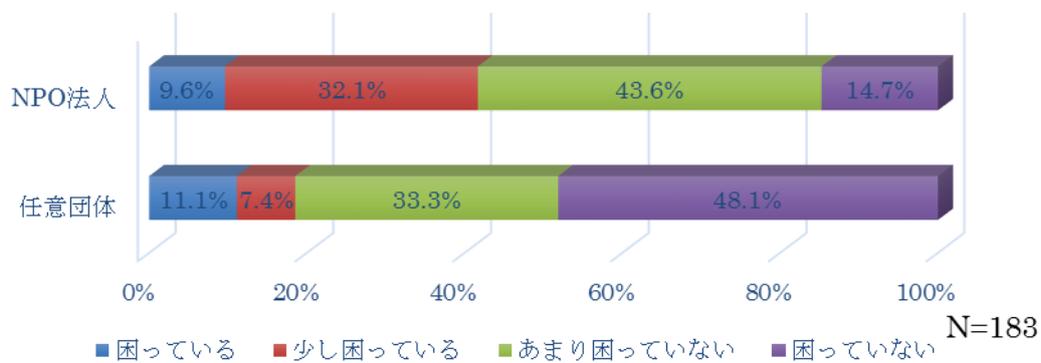
		Q15b#行政				合計
		1.00	2.00	3.00	4.00	
1	度数	14	40	69	34	157
	Q0 の %	8.9%	25.5%	43.9%	21.7%	100.0%
2	度数	2	4	9	15	30
	Q0 の %	6.7%	13.3%	30.0%	50.0%	100.0%
合計	度数	16	44	79	51	190
	Q0 の %	8.4%	23.2%	41.6%	26.8%	100.0%

図6-1 法人化の有無別にみた行政との協働・連携



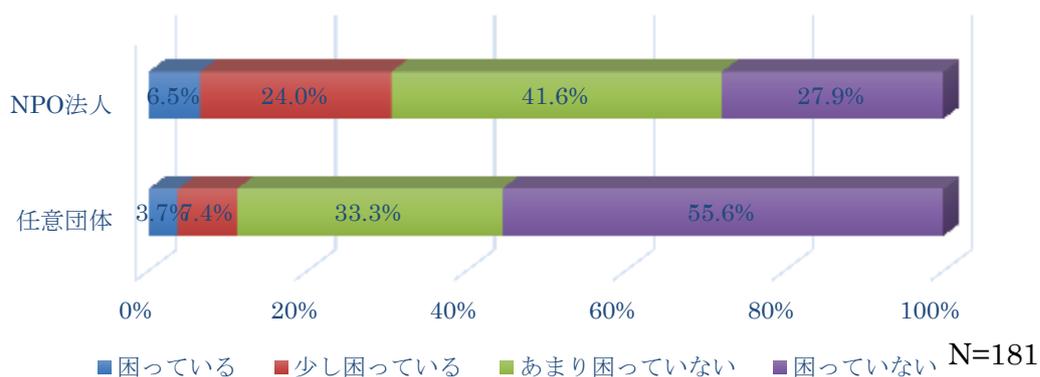
		Q15c#企業				合計
		1.00	2.00	3.00	4.00	
1	度数	15	50	68	23	156
	00 の %	9.6%	32.1%	43.6%	14.7%	100.0%
2	度数	3	2	9	13	27
	00 の %	11.1%	7.4%	33.3%	48.1%	100.0%
合計	度数	18	53	78	37	186
	00 の %	9.7%	28.5%	41.9%	19.9%	100.0%

図6-2 法人化の有無別にみた企業との協働・連携



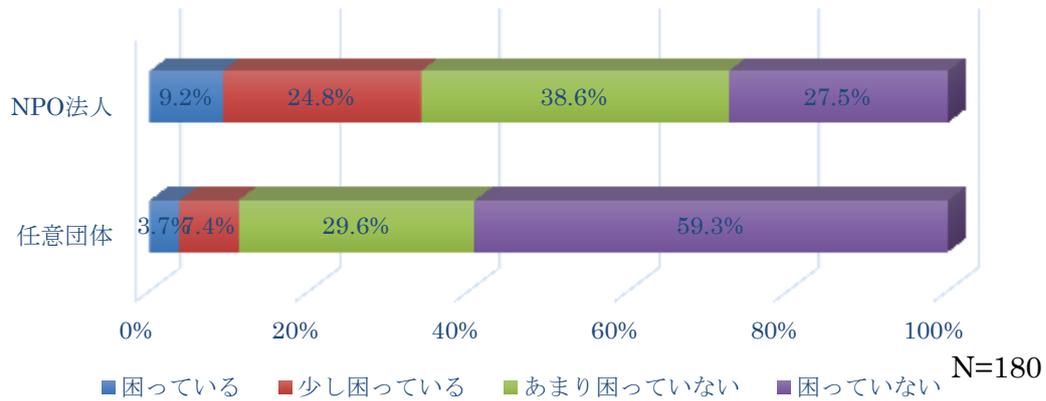
		Q15e#物品提供仲介				合計
		1.00	2.00	3.00	4.00	
1	度数	10	37	64	43	154
	00 の %	6.5%	24.0%	41.6%	27.9%	100.0%
2	度数	1	2	9	15	27
	00 の %	3.7%	7.4%	33.3%	55.6%	100.0%
合計	度数	11	39	75	59	184
	00 の %	6.0%	21.2%	40.8%	32.1%	100.0%

図6-3 法人化の有無別にみた物品提供の仲介



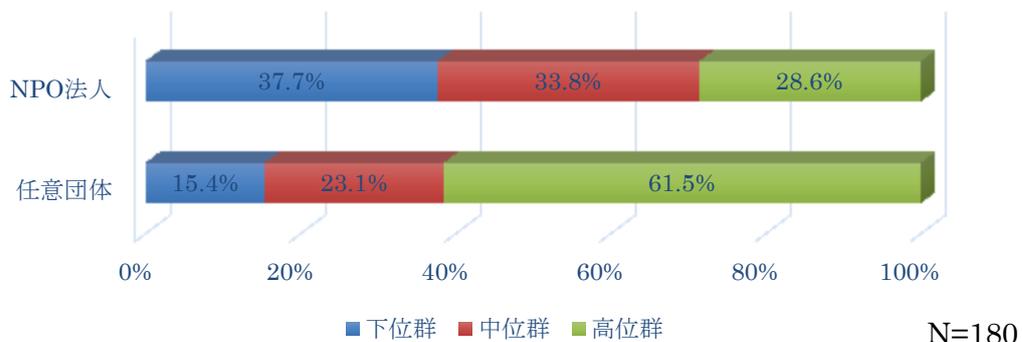
		Q15f#紹介				合計
		1.00	2.00	3.00	4.00	
1	度数	14	38	59	42	153
	Q0 の %	9.2%	24.8%	38.6%	27.5%	100.0%
2	度数	1	2	8	16	27
	Q0 の %	3.7%	7.4%	29.6%	59.3%	100.0%
合計	度数	15	40	69	59	183
	Q0 の %	8.2%	21.9%	37.7%	32.2%	100.0%

図6-4 法人化の有無別にみた他団体や企業の紹介



		Q15group			合計
		1.00	2.00	3.00	
1	度数	58	52	44	154
	Q0 の %	37.7%	33.8%	28.6%	100.0%
2	度数	4	6	16	26
	Q0 の %	15.4%	23.1%	61.5%	100.0%
合計	度数	62	59	62	183
	Q0 の %	33.9%	32.2%	33.9%	100.0%

図6-5 法人化の有無別にみた「協働・連携」の困り



問2 「他のNPO団体」との協働、連携は必要だと思いますか？

1. 必要である 2. 必要ない

↓

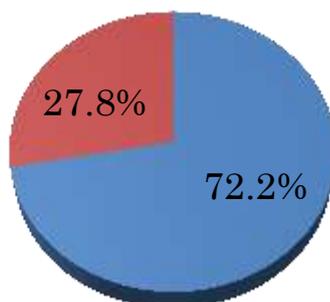
「1. 必要である」と答えた方、理由を教えてください。（3つまで可）

- a. 互いのスキルの向上 b. 苦手な分野を補う c. 人手を提供して欲しい
 d. 専門者、経験者の派遣 e. 場所を提供して欲しい f. 物資・道具を提供して欲しい
 g. その他（ ）

		度数	パーセント	有効パーセント
有効数	必要である	140	71.8	72.2
	必要ない	54	27.7	27.8
	合計	194	99.5	100.0
欠損値	.00	1	.5	
合計		195	100.0	

問2 他のNPO団体との協働、連携

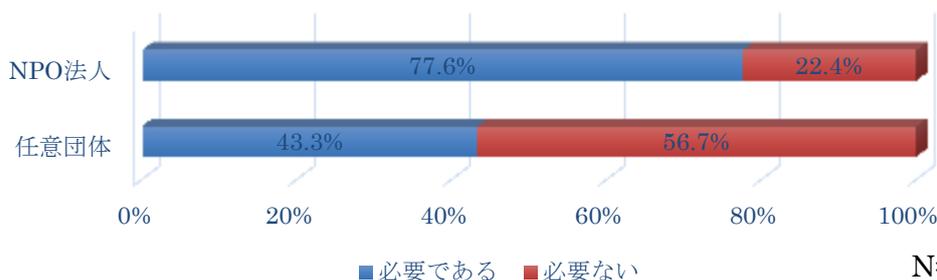
■ 必要である ■ 必要ない



N=194

		Q2NPO 協働の必要性		合計
		1.00	2.00	
1	度数	125	36	161
	Q0 の %	77.6%	22.4%	100.0%
2	度数	13	17	30
	Q0 の %	43.3%	56.7%	100.0%
合計	度数	140	54	194
	Q0 の %	72.2%	27.8%	100.0%

図8-1 法人化の有無別にみたNPO団体との協働・連携



N=191

	応答数		ケースのパーセント
	度数	パーセント	
\$Q21 ^a 互いのスキルの向上	101	34.9%	74.3%
苦手な分野を補う	81	28.0%	59.6%
人手を提供してほしい	14	4.8%	10.3%
専門家、経験者の派遣	57	19.7%	41.9%
場所を提供してほしい	11	3.8%	8.1%
物資・道具を提供してほしい	19	6.6%	14.0%
その他	6	2.1%	4.4%
合計	289	100.0%	212.5%

(その他)

新しい活動へつなぐ

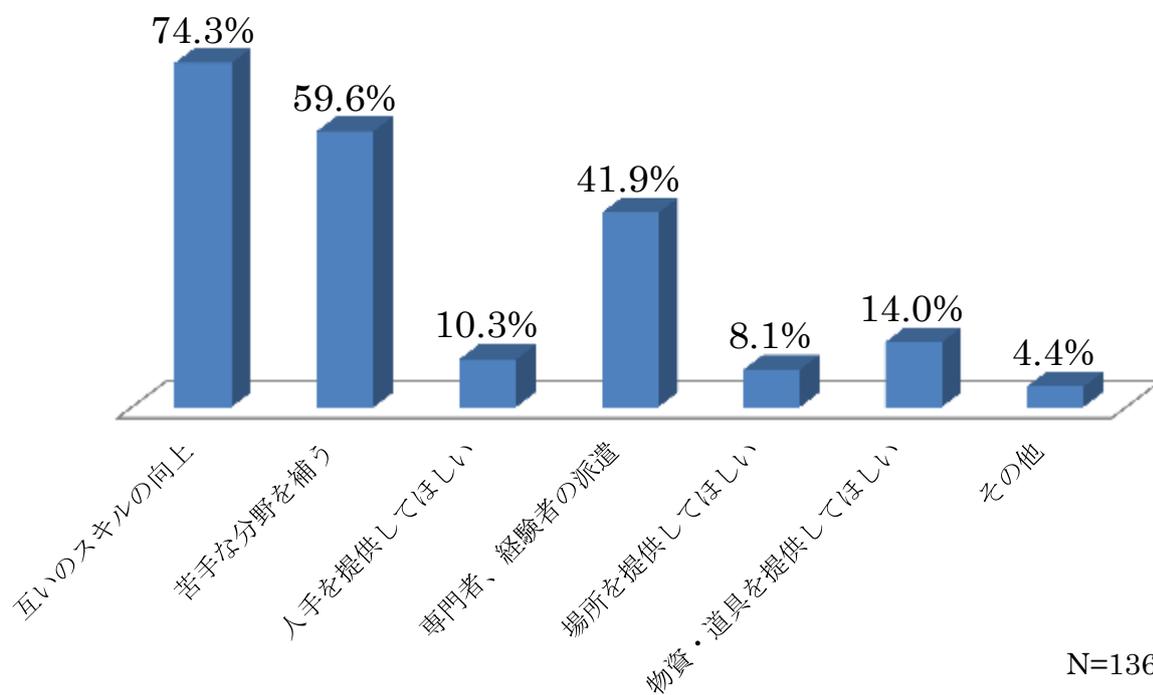
情報交換

情報交換等

社会環境、整備の協働

活動範囲の拡大

問2-1 他のNPO団体との協働、連携が必要と思う理由



問3 「行政」との協働、連携は必要だと思いますか？

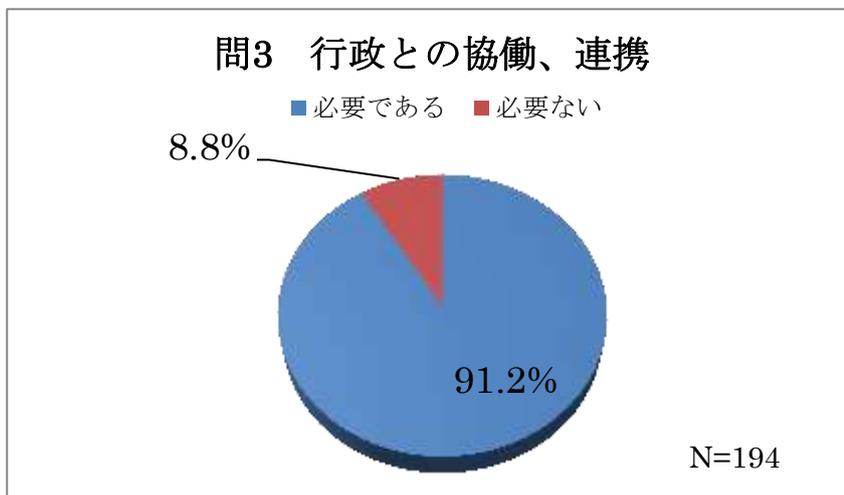
1. 必要である 2. 必要ない

↓

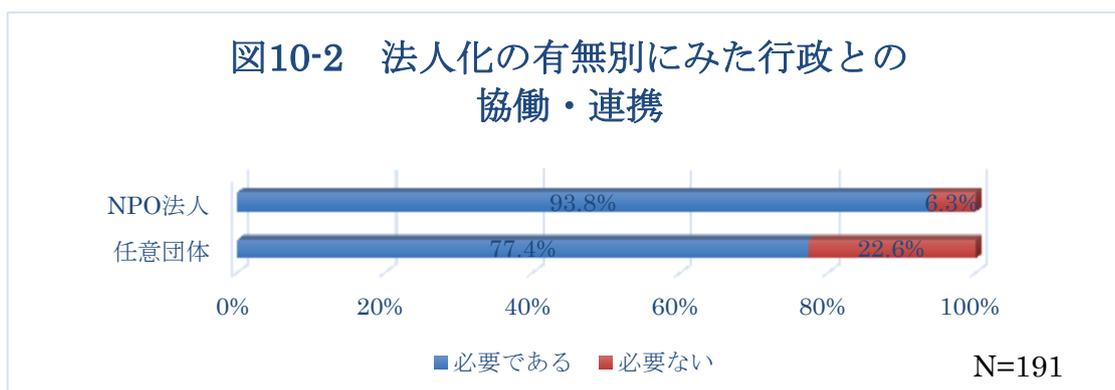
「1. 必要である」と答えた方、理由を教えてください。（3つまで可）

- a. 団体の信用性の向上 b. 資金の獲得 c. 人手を提供して欲しい d. 専門者、経験者の派遣
e. 場所を提供して欲しい f. 物資・道具を提供して欲しい g. その他（ ）

		度数	パーセント	有効パーセント
有効数	必要である	177	90.8	91.2
	必要ない	17	8.7	8.8
	合計	194	99.5	100.0
欠損値	.00	1	.5	
合計		195	100.0	



		Q3 行政との協働		合計
		1.00	2.00	
1	度数	150	10	160
	Q0 の %	93.8%	6.3%	100.0%
2	度数	24	7	31
	Q0 の %	77.4%	22.6%	100.0%
合計	度数	177	17	194
	Q0 の %	91.2%	8.8%	100.0%



	応答数		ケースのパーセント
	度数	パーセント	
\$Q31 ^a 団体の信用性の向上	105	29.2%	61.0%
資金の獲得	112	31.1%	65.1%
人手を提供してほしい	13	3.6%	7.6%
専門家、経験者の派遣	46	12.8%	26.7%
場所を提供してほしい	44	12.2%	25.6%
物資・道具を提供してほしい	24	6.7%	14.0%
その他	16	4.4%	9.3%
合計	360	100.0%	209.3%

(その他)

関係機関との仲介

問題解決のため

広報

行政でないとできない部分のフォロー

法人市民税の免除(均等割)

活動範囲の拡大

すき間を一緒にうめる

互いの情報共有

信用度

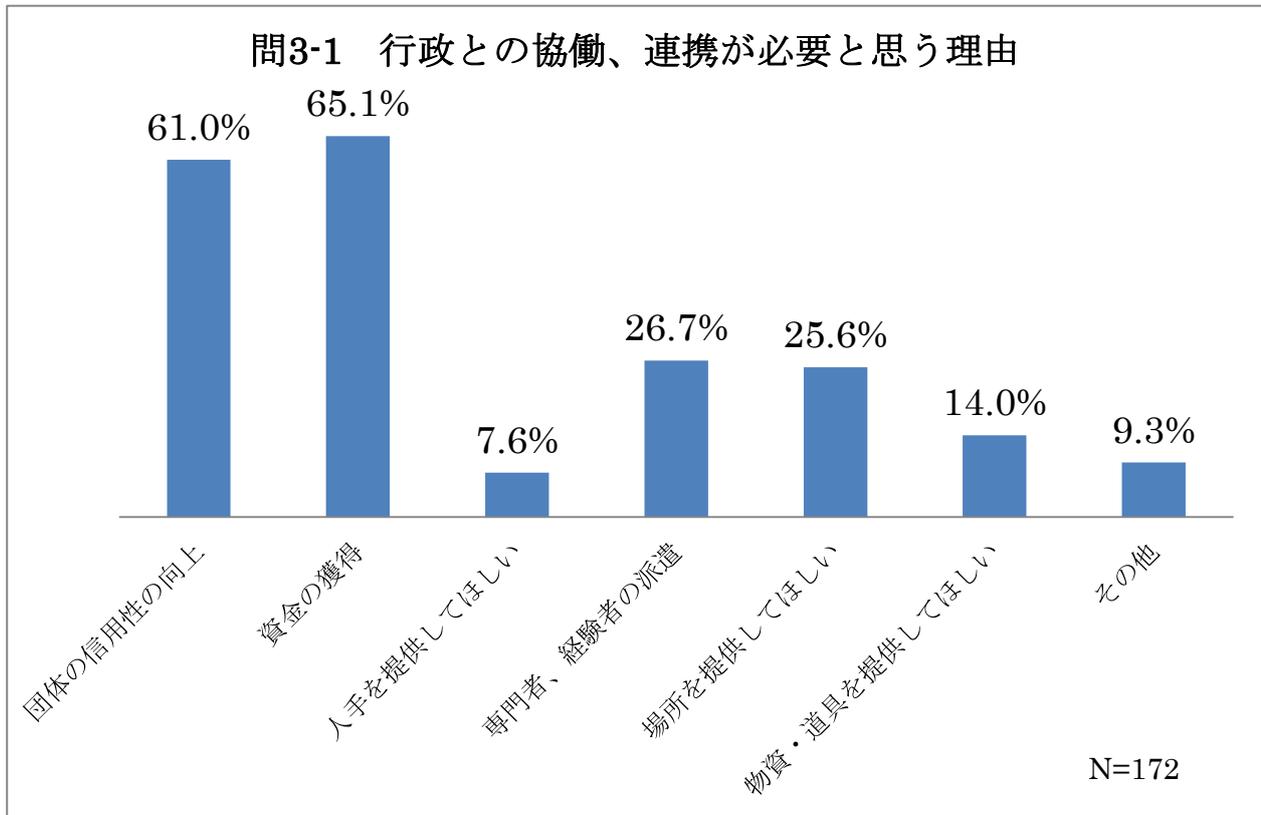
作品の販路

情報の共有

情報共有

社会環境の整備の協働、連携

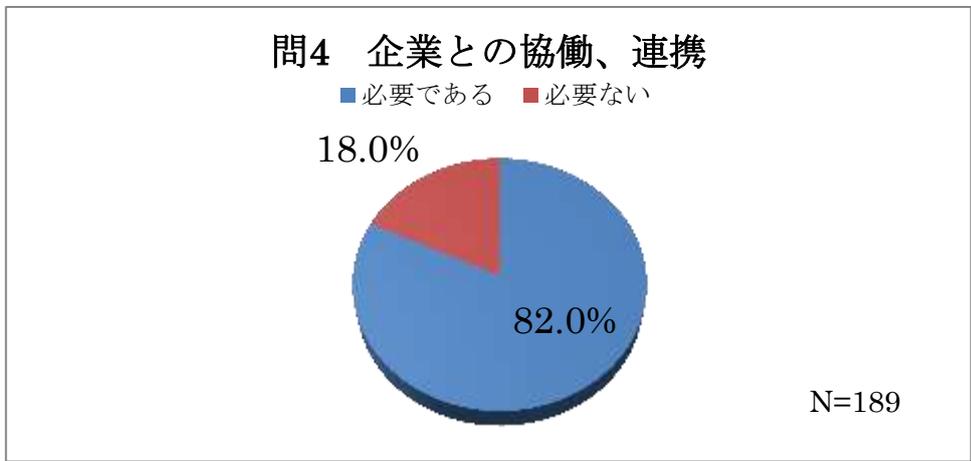
活動範囲の拡大



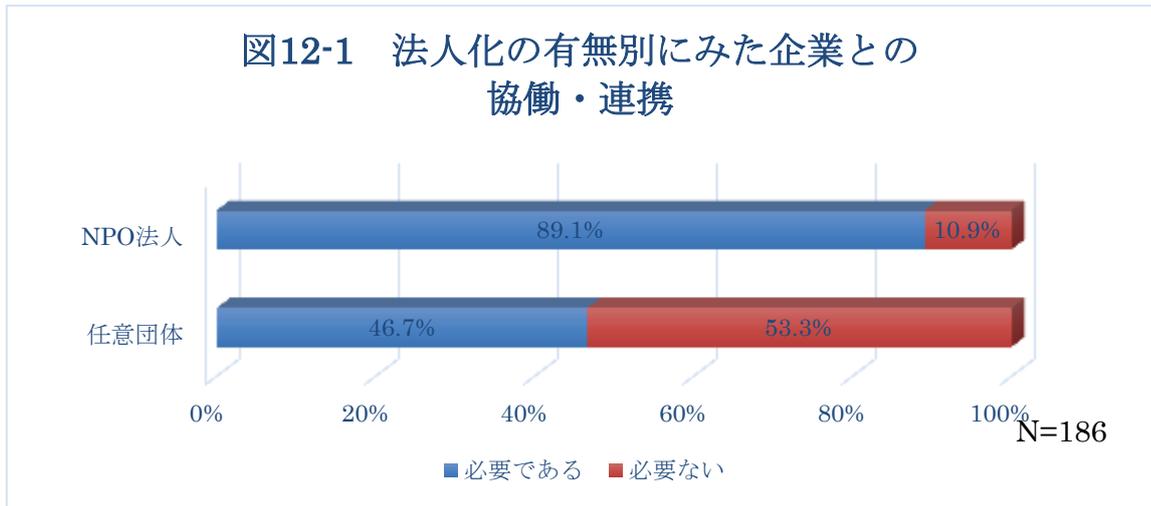
問4 「企業」との協働、連携は必要だと思いますか？

1. 必要である 2. 必要ない
↓
「1. 必要である」と答えた方、理由を教えてください。(3つまで可)
a. 団体の信用性の向上 b. 資金の獲得 c. 人手を提供して欲しい
d. 専門者、経験者の派遣 e. 場所を提供して欲しい f. 物資・道具を提供して欲しい
g. その他 ()

		度数	パーセント	有効パーセント
有効数	必要である	155	79.5	82.0
	必要ない	34	17.4	18.0
	合計	189	96.9	100.0
欠損値	.00	6	3.1	
合計		195	100.0	



		Q4 企業との協働		合計
		1.00	2.00	
1	度数	139	17	156
	Q0 の %	89.1%	10.9%	100.0%
2	度数	14	16	30
	Q0 の %	46.7%	53.3%	100.0%
合計	度数	155	34	189
	Q0 の %	82.0%	18.0%	100.0%



	応答数		ケースのパーセント
	度数	パーセント	
\$q41 ^a 団体の信用性の向上	53	17.4%	35.8%
資金の獲得	100	32.9%	67.6%
人手を提供してほしい	25	8.2%	16.9%
専門者、経験者の派遣	47	15.5%	31.8%
場所を提供してほしい	23	7.6%	15.5%
物資・道具を提供してほしい	43	14.1%	29.1%
その他	13	4.3%	8.8%
合計	304	100.0%	205.4%

(その他)

活動場所

広報

情報提供

相互の社会参加

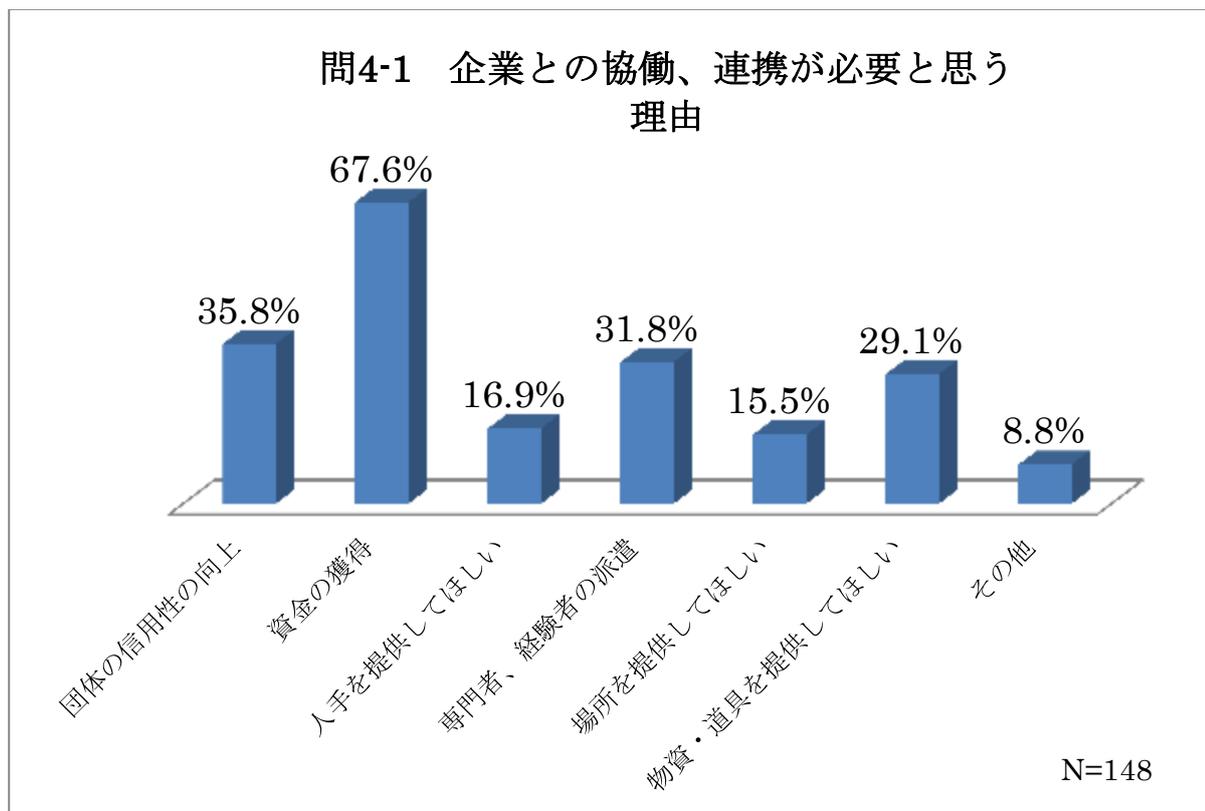
社会環境の整備の協働、連携

情報共有のため

企業の理解を得る機会となる

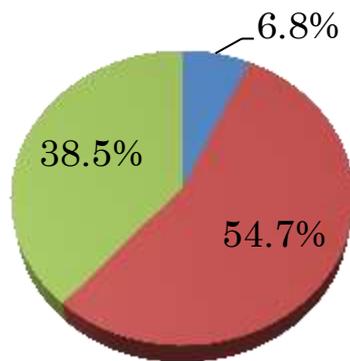
パートナーとの相乗効果が期待できる

仕事の提供、作品の販路



問5-1 「おんぼ」利用の程度

■よく利用する ■時々利用する ■あまり利用しない



N=117

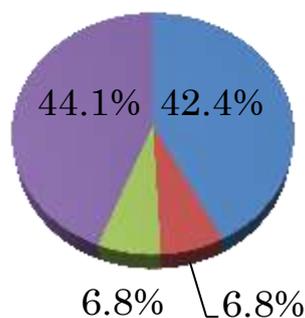
	度数	パーセント	有効パーセント
有効			
数			
知らなかったから	25	12.8	42.4
インターネットの使い方がわからないから	4	2.1	6.8
インターネットを利用する機器がないから	4	2.1	6.8
その他	26	13.3	44.1
合計	59	30.3	100.0
欠損			
値			
-1.00	2	1.0	
.00	134	68.7	
合計	136	69.7	
合計	195	100.0	

(その他)

必要性がない	特に必要性無かった
あまり必要に感じない	必要性を感じてないから
必要と思わなかった	使いづらい
NPO に移行して間がないため	設立より短期である
現在のところ必要がないから	必要ない
必要ないから	今は必要ない
利用する事項なし	活動に必要な
日々の「やること」におわれて、なぜか「おんぼ」の存在が頭から外れている。	

問5-2 「おんぼ」を利用したことがない理由

■知らなかったから
 ■インターネットの使い方がわからないから
 ■インターネットを利用する機器がないから
 ■その他



N=59

問6 活動に必要な「情報を収集」する際、詳しい情報を調べるには主にどのような方法を利用しますか？ 1つ選んで○で囲んで下さい。

1. 中間支援組織に聞く (※中間支援組織：地域や行政、企業等の間に立ってNPOを支援する組織)
 2. 周囲の人や団体に聞く 3. 役所窓口に行く 4. インターネットを利用する 5. その他(内容：)

	度数	パーセント	有効パーセント
有効			
数			
中間支援組織に聞く	22	11.3	13.5
周囲の人や団体に聞く	22	11.3	13.5
役所窓口に行く	9	4.6	5.5
インターネットを利用する	101	51.8	62.0
その他	9	4.6	5.5
合計	163	83.6	100.0
欠損			
値			
-1.00	26	13.3	
.00	6	3.1	
合計	32	16.4	
合計	195	100.0	

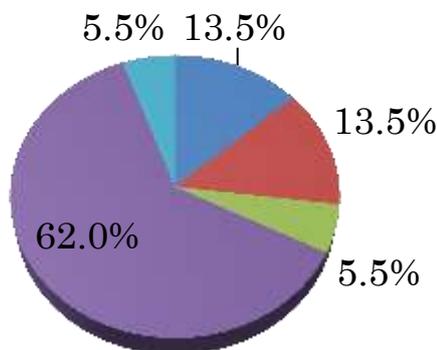
(その他)

県庁に聞く
教育委員会

情報収集をしていない

問6 情報収集の際、利用する方法

- 中間支援組織に聞く
- 周囲の人や団体に聞く
- 役所窓口に行く
- インターネットを利用する
- その他



N=163

問7 どのような内容の「情報」の提供を望みますか？ 1つ選んで○で囲んで下さい。

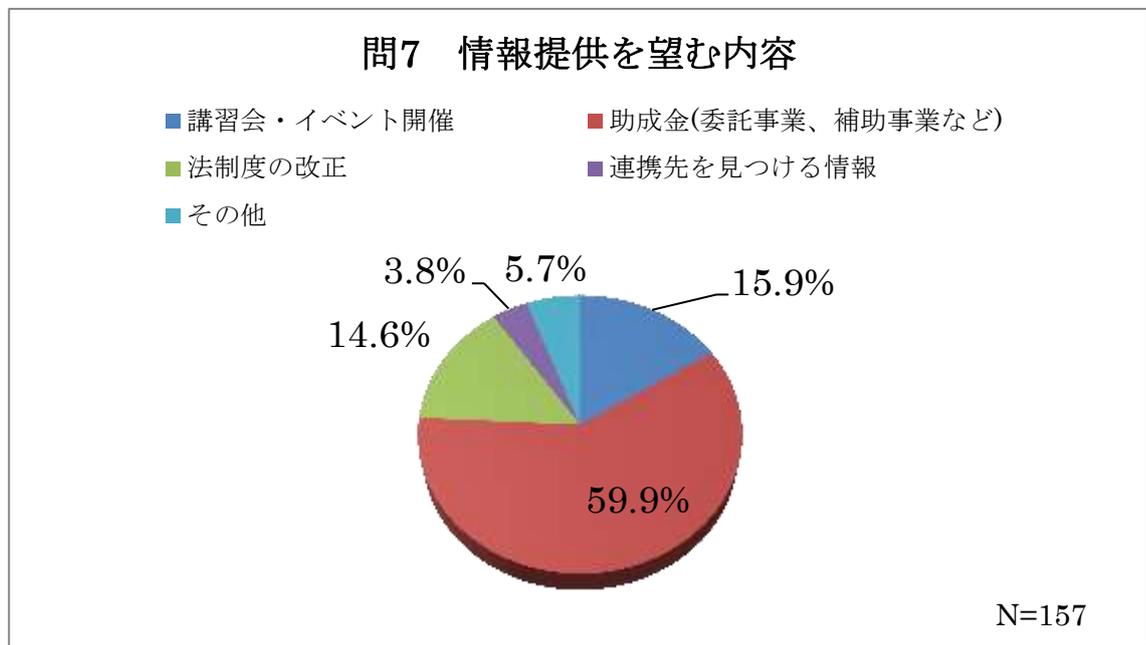
- | | | |
|---------------|---------------------|-----------|
| 1. 講習会・イベント開催 | 2. 助成金（委託事業、補助事業など） | 3. 法制度の改正 |
| 4. 連携先を見つける情報 | 5. その他（内容： ） | |

	度数	パーセント	有効パーセント
有効 講習会・イベント開催	25	12.8	15.9
数 助成金(委託事業、補助事業など)	94	48.2	59.9
法制度の改正	23	11.8	14.6
連携先を見つける情報	6	3.1	3.8
その他	9	4.6	5.7
合計	157	80.5	100.0
欠損 -1.00	23	11.8	
値 .00	15	7.7	
合計	38	19.5	
合計	195	100.0	

(その他)

社会の動きなど

天体観測、天文現象



問 8 団体情報を発信する時、今後充実させたいと思う「情報発信の手段」は何ですか？ 1つ選んで○で囲んで下さい。

- | | | | |
|------------|--------------|-----------|-----------|
| 1. イベントチラシ | 2. パンフレット | 3. 会報誌、便り | 4. ホームページ |
| 5. フェイスブック | 6. その他（内容： ） | | |

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数			
イベントチラシ	11	5.6	6.7
パンフレット	24	12.3	14.7
会報誌、便り	22	11.3	13.5
ホームページ	84	43.1	51.5
フェイスブック	9	4.6	5.5
その他	13	6.7	8.0
合計	163	83.6	100.0
欠損値			
-1.00	19	9.7	
.00	13	6.7	
合計	32	16.4	
合計	195	100.0	

(その他)

ネット全般

TEL

HP

組織

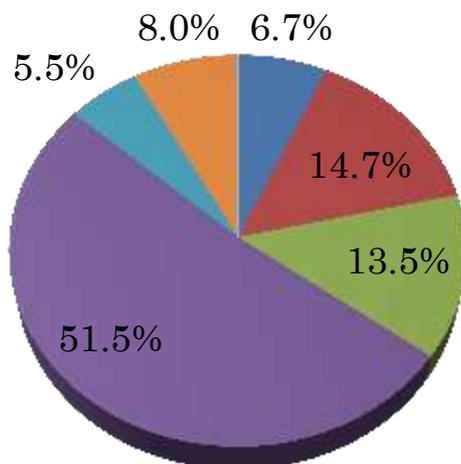
口コミ

市の広報誌

わからない

問8 今後充実させたいと思う情報発信の手段

■ イベントチラシ ■ パンフレット ■ 会報誌、便り ■ ホームページ ■ フェイスブック ■ その他



N=163

問9 「資金」に関して、必要だと思う支援を1つ選んで○で囲んで下さい。

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 助成金情報（委託事業、補助事業など）の提供 | 2. 活動から利益をうむための支援 |
| 3. 寄附を集める方法 | 4. 受託、助成事業終了後の活動継続のための支援 |
| 5. その他（内容： ） | 6. 必要ない |

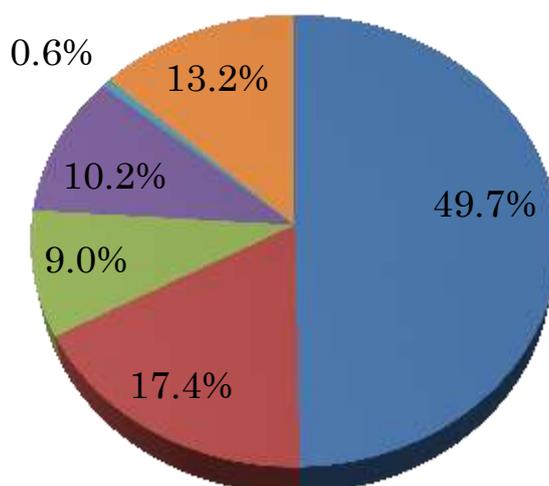
	度数	パーセント	有効パーセント
有 助成金情報の提供	83	42.6	49.7
効 活動から利益をうむための支援	29	14.9	17.4
数 寄附を集める方法	15	7.7	9.0
受託、助成事業終了後の活動継続のための支援	17	8.7	10.2
その他	1	.5	.6
必要ない	22	11.3	13.2
合計	167	85.6	100.0
欠 -1.00	18	9.2	
損 .00	10	5.1	
値 合計	28	14.4	
合計	195	100.0	

(その他)

収入の範囲内で内容を変更して提供する
資金のいることをしていないから

問9 資金に関して必要だと思う支援

- | | |
|------------|-------------------------|
| ■ 助成金情報の提供 | ■ 活動から利益をうむための支援 |
| ■ 寄附を集める方法 | ■ 受託、助成事業終了後の活動継続のための支援 |
| ■ その他 | ■ 必要ない |



N=167

問10 「場所の提供」に関して、必要と思う支援を1つ選んで○で囲んで下さい。

1. 打ち合わせ場所 (内容：)	2. スタッフ事務所、執務スペース (内容：)	3. 研修やイベントできる場所 (内容：)	4. その他 (内容：)	5. 必要ない
----------------------	-----------------------------	---------------------------	---------------	---------

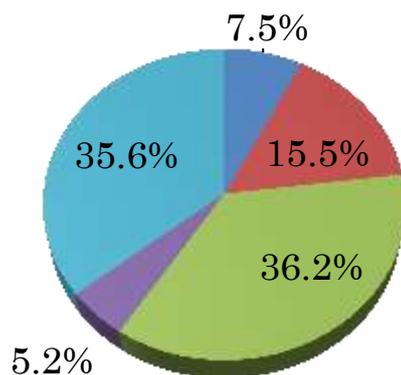
	度数	パーセント	有効パーセント
有効			
数			
打ち合わせ場所	13	6.7	7.5
スタッフ事務所、執務スペース	27	13.8	15.5
研修やイベントできる場所	63	32.3	36.2
その他	9	4.6	5.2
必要ない	62	31.8	35.6
合計	174	89.2	100.0
欠損			
値			
-1.00	5	2.6	
.00	16	8.2	
合計	21	10.8	
合計	195	100.0	

(その他)

- 実験地
- 交流の場所
- 倉庫などの収納場所
- 作業場所
- グラウンド
- 講演会
- 適正規模のホール
- 作業場
- 野外で活動できる場所
- 展示会
- 施設そのもの
- 公民館等
- 子連れ可能な場所
- 作業場所
- 道の駅
- ボランティアの心得など
- 花販売
- 公演事業、駐車場の問題など

問10 場所の提供に関して必要と思う支援

- 打ち合わせ場所
- スタッフ事務所、執務スペース
- 研修やイベントできる場所
- その他
- 必要ない



N=174

問 11 「物品の貸出し」に関して、必要と思う支援を1つ選んで○で囲んで下さい。

- | | | | |
|------------|----------|---------|-----------|
| 1. プロジェクター | 2. スクリーン | 3. パソコン | 4. ビデオカメラ |
| 5. その他 () | 6. 必要ない | | |

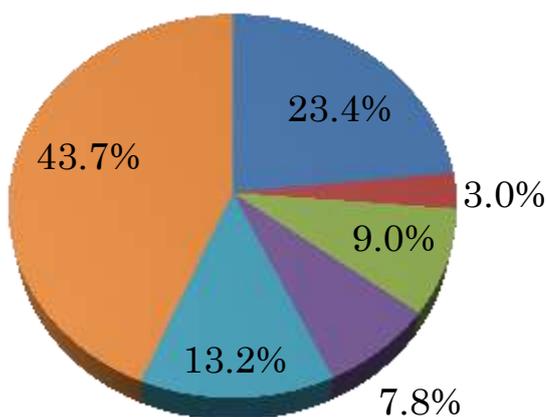
	度数	パーセント	有効パーセント
有効数			
プロジェクター	39	20.0	23.4
スクリーン	5	2.6	3.0
パソコン	15	7.7	9.0
ビデオカメラ	13	6.7	7.8
その他	22	11.3	13.2
必要ない	73	37.4	43.7
合計	167	85.6	100.0
欠損値			
-1.00	11	5.6	
.00	17	8.7	
合計	28	14.4	
合計	195	100.0	

(その他)

- スポーツ用具
- 通信カラオケ
- 作業用具
- 音響設備
- 農機具
- AED
- パワーポイント
- キャンプ用品
- ハンドマイク
- テントなど野外用
- その場その時で違う
- クーラー
- AED
- 音響等
- 赤道儀

問11 物品の貸出しに関して必要と思う支援

■ プロジェクター ■ スクリーン ■ パソコン ■ ビデオカメラ ■ その他 ■ 必要ない

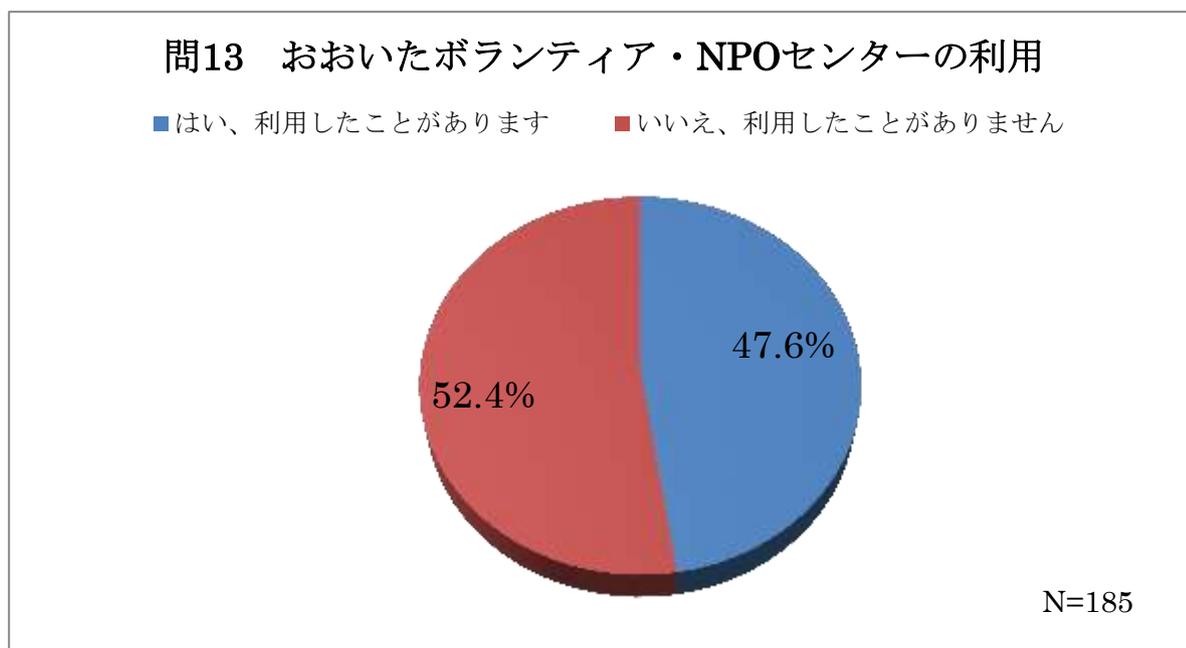


N=167

問 13 大分県が運営するNPO支援のための「おおいたボランティア・NPOセンター」を利用したことがありますか？

<p>1. はい、利用したことがあります</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><u>「1. はい」と答えた方</u></p> <p>利用した内容を教えてください（いくつでも可）</p> <ul style="list-style-type: none"> k. 出張相談室への参加 l. ヘルプデスクへの参加 m. 運営アドバイザーの派遣利用 n. 各種講座、セミナーの受講 o. 情報の収集 p. 印刷機、FAX 等の利用 q. プロジェクタの貸出し r. ミーティングスペースの利用 s. 図書、資料の閲覧、貸出し t. その他（内容： ） 	<p>2. いいえ、利用したことはありません。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><u>「2. いいえ」と答えた方</u></p> <p>その理由を教えてください。（1つ選択）</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 知らなかった b. 今まで必要性がなかった c. 遠い d. その他（内容： ）
---	---

		度数	パーセント	有効パーセント
有	はい、利用したことがあります	88	45.1	47.6
効	いいえ、利用したことはありません	97	49.7	52.4
数	合計	185	94.9	100.0
欠	-1.00	1	.5	
損	.00	9	4.6	
値	合計	10	5.1	
合計		195	100.0	



	応答数		ケースのパーセント
	度数	パーセント	
\$Q131 ^a 出張相談所への参加	30	18.2%	33.0%
ヘルプデスクへの参加	8	4.8%	8.8%
運営アドバイザーの派遣 利用	22	13.3%	24.2%
各種講座、セミナーの受講	48	29.1%	52.7%
情報の収集	32	19.4%	35.2%
印刷機、FAX 等の利用	7	4.2%	7.7%
プロジェクトの貸し出し	2	1.2%	2.2%
ミーティングスペースの 利用	7	4.2%	7.7%
図書、資料の閲覧、貸し出 し	8	4.8%	8.8%
その他	1	.6%	1.1%
合計	165	100.0%	181.3%

(その他)

パンフレットを置かせてもらう(情報発信のため)

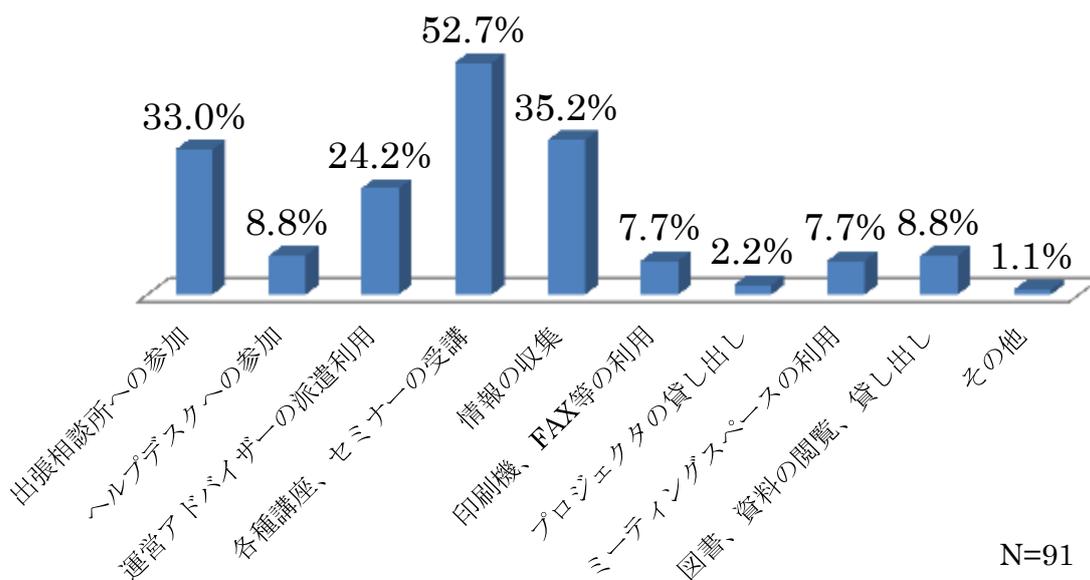
経理

質問で寄りました

立ち上げの相談

ケースバイケースで谷川さんに教えてもらってます

問13-1 ボランティア・NPOセンターを利用した内容



	度数	パーセント	有効パーセント
有効数			
知らなかった	16	8.2	18.2
今まで必要がなかった	54	27.7	61.4
遠い	11	5.6	12.5
その他	7	3.6	8.0
合計	88	45.1	100.0
欠損値			
-2.00	1	.5	
-1.00	5	2.6	
.00	101	51.8	
合計	107	54.9	
合計	195	100.0	

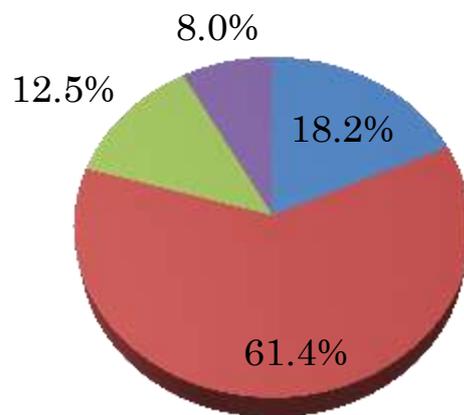
(その他)

支援内容がわからなかった
 設立したばかりだから
 必要ないから

該当しないと考えていた
 どう頼るのかわからない

問13-2 ボランティア・NPOセンターを利用した ことがない理由

■ 知らなかった ■ 今まで必要がなかった ■ 遠い ■ その他



N=88

問 14 「おおいたボランティア・NPOセンター」では、経理や労務、情報発信、申請書類の書き方等について講座やセミナー、ワークショップ等を開催しています。今後、どのような講座の開催を希望しますか？

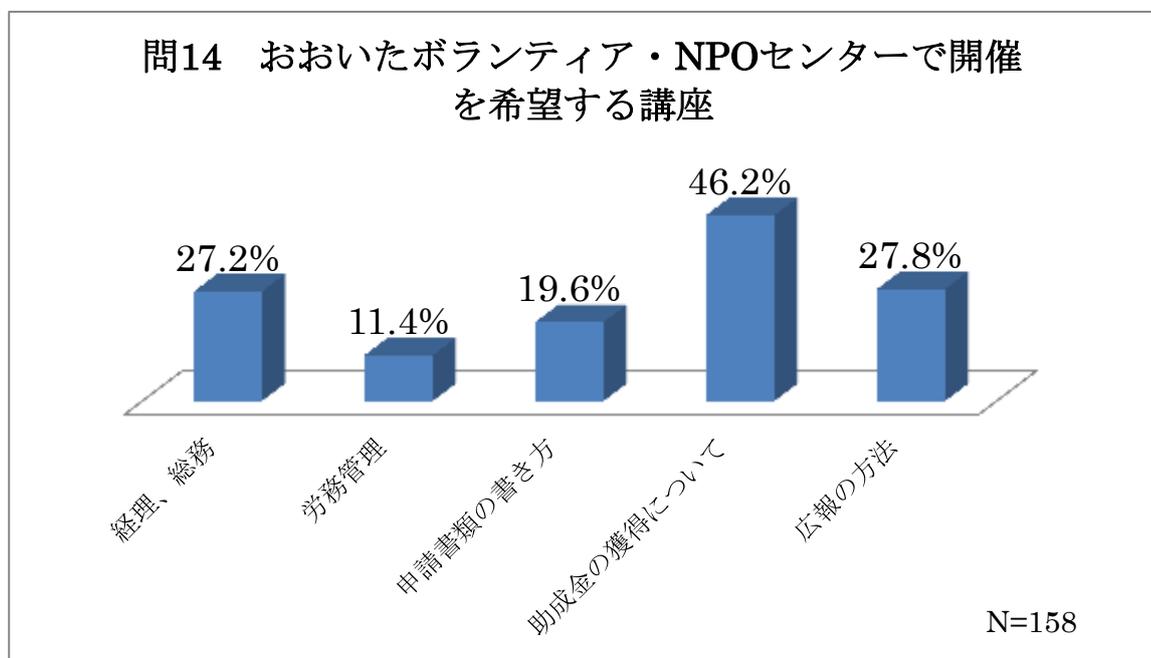
- | | | | |
|----------|--------------|-------------|---------------|
| 1. 経理、税務 | 2. 労務管理 | 3. 申請書類の書き方 | 4. 助成金の獲得について |
| 5. 広報の方法 | 6. その他（内容： ） | | |

	応答数		ケースのパーセント
	度数	パーセント	
\$Q14 ^a 経理、総務	43	19.4%	27.2%
労務管理	18	8.1%	11.4%
申請書類の書き方	31	14.0%	19.6%
助成金の獲得について	73	32.9%	46.2%
広報の方法	44	19.8%	27.8%
その他	13	5.9%	8.2%
合計	222	100.0%	140.5%

(その他)

職員、従業員の確保
事業の展開の方法
必要ありません
今のところ希望なし

地元に出かけての指導
傾聴
人員確保
希望する内容はない



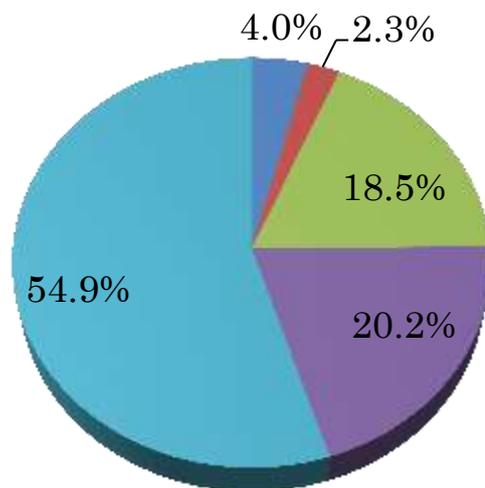
問15 現在、NPOセンターの各メニュー（印刷機利用等一部除く）は無料でご利用できますが、有料の場合、いくらなら利用・参加されますか？

■運営アドバイザー派遣（※運営アドバイザー派遣：経理、IT、運営全般等について専門者を派遣するメニュー）
 a. 6,000円/回以下 b. 4,000円/回 c. 3,000円/回 d. 2,000円/回
 e. 有料なら利用しない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数			
6,000円/回以下	7	3.6	4.0
4,000円/回	4	2.1	2.3
3,000円/回	32	16.4	18.5
2,000円/回	35	17.9	20.2
有料なら利用しない	95	48.7	54.9
合計	173	88.7	100.0
欠損値	22	11.3	
合計	195	100.0	

問15-1 ボランティア・NPOセンターの
運営アドバイザー派遣料金

■ 6,000円/回以下 ■ 4,000円/回 ■ 3,000円/回 ■ 2,000円/回 ■ 有料なら利用しない



N=173

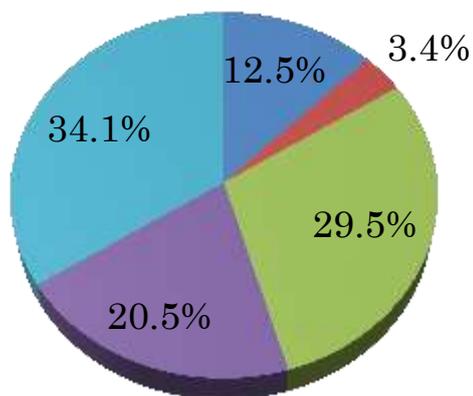
■各種講座、セミナーの受講

- a. 2,000円/回以下 b. 1,500円/回 c. 1,000円/回 d. 500円/回
e. 有料なら参加しない

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数			
2,000円/回以下	22	11.3	12.5
1,500円/回	6	3.1	3.4
1,000円/回	52	26.7	29.5
500円/回	36	18.5	20.5
有料なら参加しない	60	30.8	34.1
合計	176	90.3	100.0
欠損値			
-1.00	2	1.0	
.00	17	8.7	
合計	19	9.7	
合計	195	100.0	

問15-2 ボランティア・NPOセンターの
講座、セミナーの受講

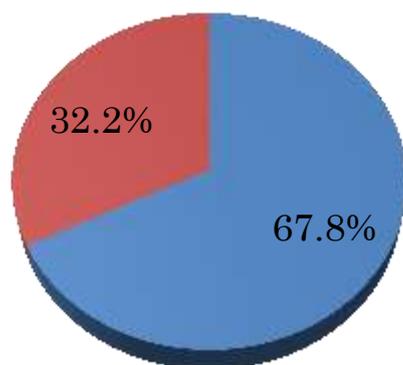
- 2,000円/回以下 ■ 1,500円/回 ■ 1,000円/回 ■ 500円/回 ■ 有料なら参加しない



N=176

問17 めじろん共創応援基金による助成事業の 公募への興味

■ はい、興味があります ■ いいえ、興味がありません



N=183

	応答数		ケースのパーセント
	度数	パーセント	
\$Q171 ^a 団体の信用性の向上	42	19.6%	34.7%
他団体、組織と連携する機会を得る	32	15.0%	26.4%
資金の獲得	95	44.4%	78.5%
専門者の派遣	12	5.6%	9.9%
力量の向上	30	14.0%	24.8%
その他	3	1.4%	2.5%
合計	214	100.0%	176.9%

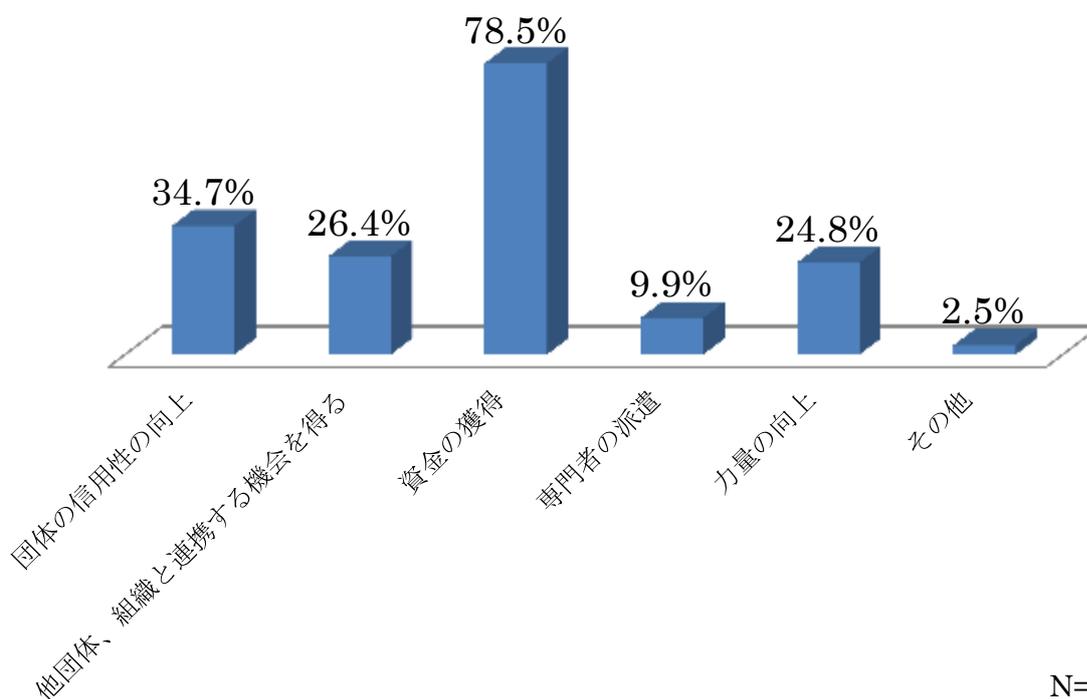
(その他)

紹介した為

助成事業の細目等

基金の動行

問17-1 助成事業の公募に興味がある理由



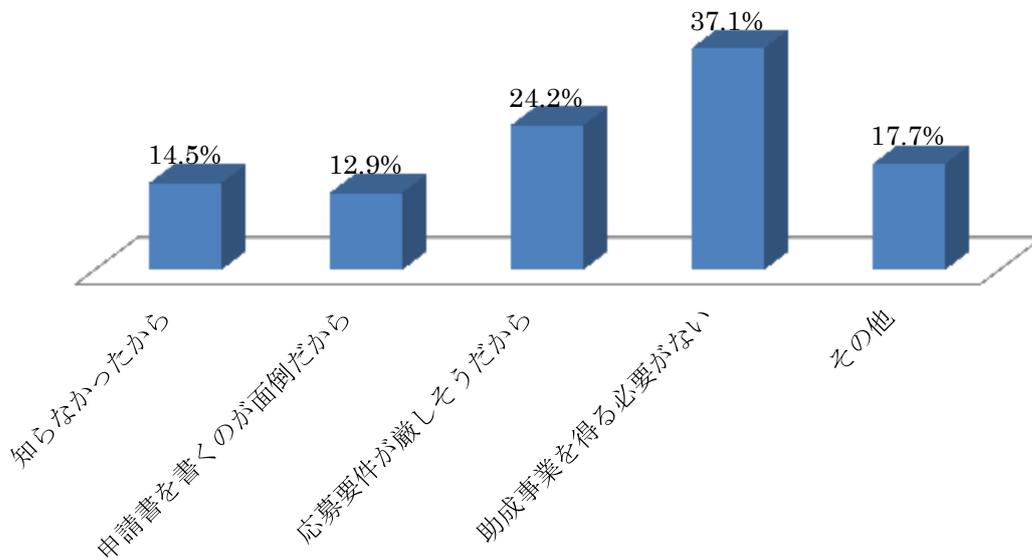
N=121

	応答数		ケースのパーセント
	度数	パーセント	
\$Q172 ^a 知らなかったから	9	13.6%	14.5%
申請書を書くのが面倒だから	8	12.1%	12.9%
応募要件が厳しそうだから	15	22.7%	24.2%
助成事業を得る必要がない	23	34.8%	37.1%
その他	11	16.7%	17.7%
合計	66	100.0%	106.5%

(その他)

- 希望内容に合致しないから
- 理事会の理解が得られない
- 市から助成を受けている
- 現在必要がない
- 高齢で遠いから

問17-2 助成事業の公募に興味がない理由



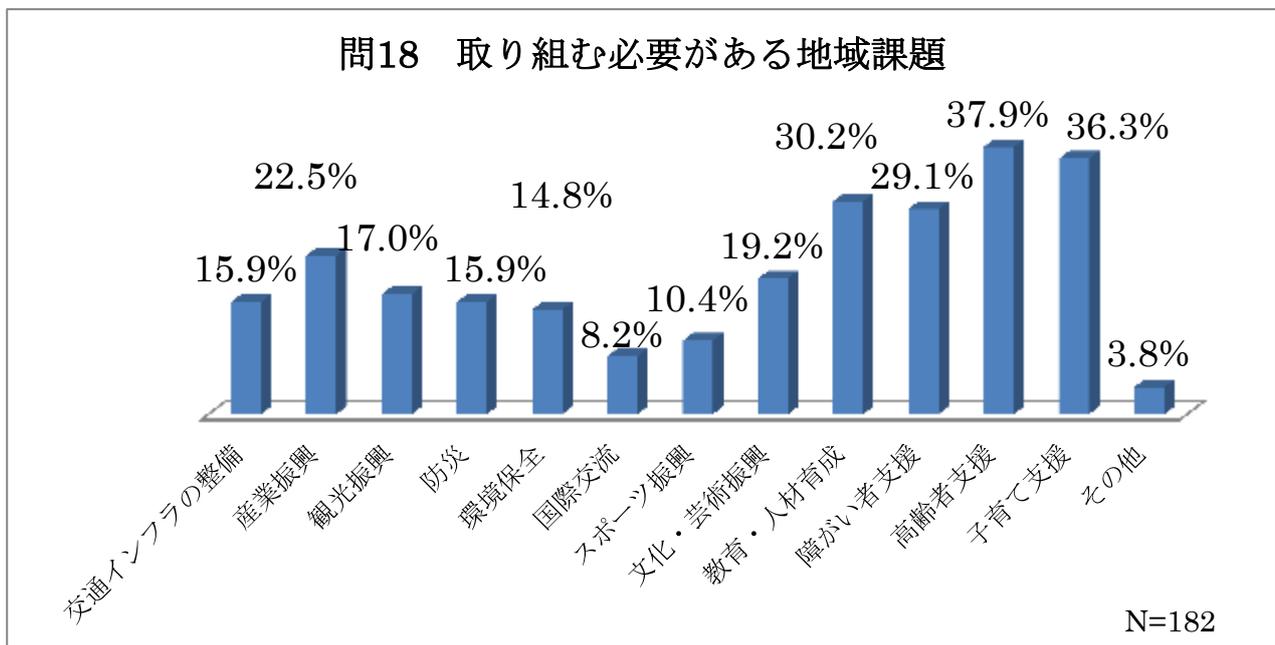
N=62

3. 地域課題について

問18 今後、大分県内で特に取り組んでいかななくてはならないと思う「地域課題」は、何だと思えますか？ 主要なものを3つまで選んで「○」で囲んでください。また、その内容を教えてください。

1. 交通インフラの整備 ()	8. 文化・芸術振興 ()
2. 産業振興 ()	9. 教育・人材育成 ()
3. 観光振興 ()	10. 障がい者支援 ()
4. 防災 ()	11. 高齢者支援 ()
5. 環境保全 ()	12. 子育て支援 ()
6. 国際交流 ()	13. その他 ()
7. スポーツ振興 ()	

	応答数		ケースのパーセント
	度数	パーセント	
\$Q18^a\$ 交通インフラの整備	29	6.1%	15.9%
産業振興	41	8.6%	22.5%
観光振興	31	6.5%	17.0%
防災	29	6.1%	15.9%
環境保全	27	5.7%	14.8%
国際交流	15	3.2%	8.2%
スポーツ振興	19	4.0%	10.4%
文化・芸術振興	35	7.4%	19.2%
教育・人材育成	55	11.6%	30.2%
障がい者支援	53	11.1%	29.1%
高齢者支援	69	14.5%	37.9%
子育て支援	66	13.9%	36.3%
その他	7	1.5%	3.8%
合計	476	100.0%	261.5%



- 交通インフラの整備
 - 県外への移動に時間がかかる
 - 大分に集中させない
 - 障がい者の交通アクセス
 - 県民、観光客ともにわかりやすい交通手段の提示、設備
 - 鹿児島～福岡まで高速でつなぐ
 - 東九州自動車道
 - 車イス、松葉杖利用者のため
 - 路線バスの拡大
 - 踏切、高速道路
 - バスが1時間に運行する本数が少ない
 - 特に詳細な交通
 - バスの割引
 - 自動車がなくとも行ける交通網
 - 過疎地の交流
 - 新幹線

- 産業振興
 - 少子高齢化防止、過疎化対策
 - 中小企業支援
 - 経済の活性化
 - 小規模の事業所の力をつける
 - 田舎の経済生活の向上
 - 一次産業の振興
 - 働き口の増加
 - 先端技術の取入れと雇用の確保
 - 中小企業の
 - 製造業の支援
 - 中小企業を元気にする支援
 - 地域活性化、雇用促進
 - 人口減少対策
 - 障がい者が働ける産業拡大
 - 企業の誘致
 - 耕作放棄地解消
 - 働く場所の拡大
 - 荒れた田畑・山
 - 雇用対策、若者の県外流出防止
 - 農山漁村の人口減少対策として
 - 農林等
 - 生產品の販売

- 観光振興
 - 大分県の知名度アップ
 - サクラのテングス病対策
 - 海外へのアピールと環境整備
 - 外貨獲得
 - 来年はCDも控えているため
 - 観光と文化財
 - 対流人口増、消費効果
 - 地域ブランド化支援
 - 宝の持ち腐れ地域がいっぱい
 - 大分県は観光資源が豊富にある。もっと利用してほしい。
 - 人口減少
 - 地域のまとまり
 - かくれた観光資源

まだまだ足りない
外貨、人の回遊性
海外からの観光客が少なくなった

○防災

異常気象、自然災害に対する
被災地のメンタルケア
弱者への対応
安心安全、観光振興に影響
地震等の避難場所の確保、拡充
要援護者、リストの把握、見直し
災害時の水の確保
災害時の食について
津波を想定しての防波堤
要支援者への防災
障がい者の防災対策

○環境保全

セミナーの開催
開発と保全のバランス
企業の環境への取り組み
森林・自然保護・保全
生物多様性地域戦略
エコ県なのに意識低い
山や川を活用する仕組み
里山保全
再生エネルギーのリーダー県確保
自然保護
温暖化対策
過疎地域の環境保全
自然林の保護、人工林の森化

○国際交流

情報提供と広い世代の参加
近隣諸国との友好・親善
人口減に伴う支援に外国人を
国際文化の交流イベント定期化

○スポーツ振興

子どものからだづくり
いろいろなスポーツに目を向けてほしいと思います
トリニータ
サッカーコートの芝化
学校との連携
障がい者スポーツ
健康づくり
マイナースポーツの支援
県立学校施設の開放
施設管理を NPO へ
障スポ

○文化・芸術振興

文化講演が少ない
文化、芸術は心豊かに生きるために欠かせないもの
後継者の育成
若者の参画と若者への情報提供方法等

大分の自然史の保全、博物館を
心を豊かにするものだから
若年層向けカルチャー
新しい施設も増えているので、ソフト面を充実させるべき。
地域に根ざした文化振興
音楽イベントの定期開催、ライブハウスなど
箱物を作るのではなく積極的な紹介
伝統芸能への支援
文化レベルの向上
生の舞台、音楽、演劇に触れる
学校等に今まで以上生の舞台等を見せる取り組み
辺地で文化的に遅れている。色々巡回してほしい。
優れた舞台芸術鑑賞の機会

○教育・人材育成

各種人材教育
人を豊かに育てることは地域を創る根幹
若者の資質とメンタル
子どもたちへの自然・環境保全教育
子どものうちから街づくりに参加すべき
若手育成
大分県発展のため
地域振興の担い手の育成
子育て支援のできる人材育成
リーダーの育成
道德教育の充実
コミュニケーションマナー
施設の管理方法
地域のリーダー養成
環境、教育、理系教育の充実と幼児への語学及び情操教育の充実
地域の中核となる人材の育成
人材の大切さを考えていない人が多い
青少年の健全育成のためのプロジェクト
イノベーターの発掘、育成
子ども理解
ESD 推進
専門性だけでなくコミュニケーションスキルアップ
積極行動力のあるタイプ養成
地元の有能な人材が必要だから
辺地で文化的に遅れている。色々巡回してほしい。
子どもたちの学習のサポートする人材育成
学びを知る活動など
不登校、子どもが仕事に対する意識、働くこと、生きること、未来に夢を持っていない

○障がい者支援

人権差別のないまちづくり
交通機関、道路が不便
精神的な観点から
一般就労につながる支援の取り組み
ICT 活用
身内にサポートする人がいない障がい者対策
重度化・高齢化への対応
施設および支援の充実
就労支援
障がい者への理解を広めること

施設の設備の支援
障がい者支援の作業所のため
就労
各障がい、個人に合った制度の在り方
施設整備費用
坂道、入浴施設の障壁
事業所等での工賃アップ
雇用拡大
障がい者の社会参加
自立にむけての支援
障がい者への理解
障がい者の防災対策、ケア対策
障がいのある子の受け入れ
みんなが安心して暮らせる社会を目指して
村が支援しているが国もしてほしい
施設、人材不足
日中活動の充実

- 高齢者支援
 - 介護予防
 - 生きがい教育
 - 支援を取り組んでもらいたい
 - 高齢時代に入っているため
 - 介護保険、コミュニティ
 - 地域移行への対応
 - 施設及び支援の充実
 - 在宅高齢者の介護保険では不足する生活支援
 - どの地域も高齢化がすすんでいる
 - 認知症
 - 補助制度の拡大
 - 高齢者自立支援
 - 介護者の支援
 - 食事、買物支援、孤独化防止
 - 管理不可な土地が多発
 - 水の維持管理
 - ひとり暮らし
 - 認知症予防のための地域拠点作り
 - 地域で見守る介護費の削減
 - 買物支援
 - 高齢者の社会参加や生きがいづくり
 - 人との出会い、活動場所
 - 活動する高齢者にメリットを
 - 買物手伝い等、生活に必要な物品の購入
 - 高齢者入居施設の拡大
 - 社会的理解の啓発
 - 独居老人等、つながりの希薄化
 - 独居の方の増加、認知症
 - 年金が少なくなっている
 - 生きがいの充実
 - 独居老人見守り
 - 地域で高齢者の居場所づくり
 - 施設、人材不足
 - 日中活動の充実

○子育て支援

少子化防止

少子高齢化対策、人口減対応

人を豊かに育てることは、地域を育てる根幹

学校への地域住民参加

これからの大分県を担っていくため

地域や社会が育てることの大切さ

施設及び支援の充実

親への支援

中学3年までは医療費の無料等

少子化問題

子どもを育てにくい環境をよくする

助成金

スポーツ振興

子どもたちを守る活動

補助制度の拡大

親の支援

福祉法人の限定がみられる

障がいのあるお子さんを持つ親の相談窓口等

小中学生を対象にしてワークショップを増やすべき。

少子化の歯止め

地域で見守り支える

少子化に歯止めを

安心して子育てができる環境

箱モノばかり作っても、中にいる人材の育成が伴っておらず本当の支援となっていない

少子化のため

引きこもり等、教育以外でつながる場

不登校児童の居場所作り

あまりに様々な子育て観

本当に人が育って行ける環境を作る意識がほかのすべてを巻き込んでよい方へ行くとする

障がいのある子の支援

子どもたちがゲーム等室内で遊ぶをしないでもいいように仲間、広場等創りに一層努力をしないと子どもたちがこれ以上厳しい問題が発生すると思います。

出生率UPのため

少子化対策

子育て中の親たちの様々な悩みについて

施設、人材不足

孤立化を防ぐ

○その他

中心部以外の地域振興

人口減少

高度な教育とその人材の生かせる産業

働く人の健康問題、労災防止、被災者の支援

子育て支援

官公民それぞれにおける情報の開示、共有に対する意識を高める

各校区一つ以上の毎日子どもたちの遊べる場所(広場・室内)を早急に作る。

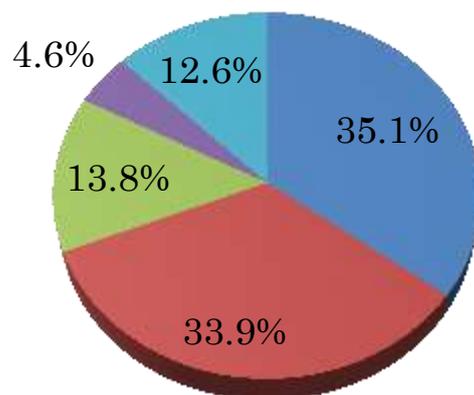
4. 基礎項目

*活動年数 a. 1～5年 b. 6～10年 c. 11～15年 d. 16～20年 e. 20年以上

	度数	パーセント	有効パーセント
有効数 1～5年	61	31.3	35.1
6～10年	59	30.3	33.9
11～15年	24	12.3	13.8
16～20年	8	4.1	4.6
20年以上	22	11.3	12.6
合計	174	89.2	100.0
欠損値 .00	21	10.8	
合計	195	100.0	

問19-1 団体の活動年数

■ 1～5年 ■ 6～10年 ■ 11～15年 ■ 16～20年 ■ 20年以上



N=174

*貴団体の「活動分野」は何ですか。割合が高いものに○をつけて下さい (3つまで)

- | | | | |
|---------------------------|-------------|---------------|------------|
| 1. 保険・医療・福祉 | 2. 社会教育 | 3. まちづくり | 4. 観光 |
| 5. 農村漁村・中山間地 | 6. 学術・文化 | 7. 芸術・芸能 | 8. スポーツ |
| 9. 環境 | 10. 災害救援活動 | 11. 地域安全活動 | 12. 人権・平和 |
| 13. 国際協力 | 14. 男女共同参画 | 15. 子どもの健全育成 | 16. 情報化社会 |
| 17. 科学技術振興 | 18. 経済活動活性化 | 19. 職業能力・雇用機会 | 20. 消費生活保護 |
| 21. 団体運営又は活動に関する連絡、助言又は援助 | | | |

	応答数		ケースのパーセント
	度数	パーセント	
\$Q192 ^a 保健・医療・福祉	71	19.4%	40.8%
社会教育	28	7.7%	16.1%
まちづくり	38	10.4%	21.8%
観光	11	3.0%	6.3%
農村漁村・中山間地	12	3.3%	6.9%
学術・文化	14	3.8%	8.0%
芸術・芸能	10	2.7%	5.7%
スポーツ	14	3.8%	8.0%
環境	38	10.4%	21.8%
災害救援活動	4	1.1%	2.3%
地域安全活動	9	2.5%	5.2%
人権・平和	14	3.8%	8.0%
国際協力	12	3.3%	6.9%
男女共同参画	4	1.1%	2.3%
子どもの健全育成	63	17.2%	36.2%
情報化社会	1	.3%	.6%
科学技術振興	2	.5%	1.1%
経済活動活性化	7	1.9%	4.0%
職業能力・雇用機会	7	1.9%	4.0%
消費生活保護	1	.3%	.6%
団体運営又は活動に関する連絡、助言又は援助	6	1.6%	3.4%
合計	366	100.0%	210.3%

問19-2 団体の活動分野

